Java Desktop System Release 2
ユーザーズガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817–7783–10
2004年7月

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。 サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。 フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。 UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、 、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が独自のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。 米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。 米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Federal Acquisitions: Commercial Software Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

原典: *Java Desktop System Release 2 User Guide*

Part No: 817-6967-10

Revision A

041001@9495

目次

はじめに　**13**

1　基本的な操作　**19**
デスクトップへのログイン　19
Linux のデスクトップにログインする　19
Linux で別の言語にログインする　20
Solaris オペレーティングシステムのデスクトップにログインする　20
Solaris オペレーティングシステムで別の言語にログインする　21
最初のログイン　21
デスクトップの初期設定　21
画面をロックする　23
デスクトップセッションの管理　23
ログインおよびログアウト時の動作を定義する　24
スタートアップアプリケーションを使用する　24
アプリケーションを参照する　24
設定を保存する　24
ログアウト　25

2　**Java Desktop System** の概要　**27**
Java Desktop System の概要　27
主要コンポーネント　29
GNOME デスクトップ　29
デスクトップアプリケーション　30
パネルアプリケーション　31
Ximian Evolution 1.4　33
StarSuite 7　34

Mozilla 1.4 36
Java テクノロジ 37
パネル 37
パネルを作成する 38
パネルを削除する 38
パネルを隠す 38
パネルにオブジェクトを追加する 38
パネルオブジェクトを操作する 40
メニュー 40
ウィンドウ 41
ウィンドウのタイプ 41
ウィンドウを操作する 42
ウィンドウにフォーカスを移動する 43
ワークスペース 44
ワークスペースを切り替える 44
ワークスペースを追加する 44
ファイルマネージャ 45
フォルダ間でファイルを移動する 46
デスクトップ背景 46
デスクトップ背景オブジェクトを開く 46
デスクトップ背景にオブジェクトを追加する 46
このコンピュータのロケーション 47
デスクトップ設定 48
デスクトップアプリケーション 48
詳細を調べる 50
Java Desktop System トピックの詳細を調べる 50
パネルアプリケーションの詳細を調べる 50
デスクトップアプリケーションの詳細を調べる 50

3 パネルの操作方法 **51**
パネルの概要 51
ボトムエッジパネル 51
パネルの管理 52
新しいパネルを追加する 52
パネルを操作する 52
パネルを移動する 53
パネルを隠す 53
パネルの設定を変更する 53

パネルを削除する　55
パネルオブジェクト　55
パネルオブジェクトを操作する　55
パネルにオブジェクトを追加する　56
オブジェクトの設定を変更する　57
パネルオブジェクトを移動する　57
パネルオブジェクトをロックする　58
パネルオブジェクトを削除する　58
パネルアプリケーション　58
アプリケーションをパネルに追加する　59
パネルアプリケーションを選択する　59
パネルアプリケーションの設定を変更する　60
ランチャー　60
パネルにランチャーを追加する　60
ランチャーの設定を変更する　64
ボタン　64
「ファイルの検索」ボタン　64
「強制終了」ボタン　65
「画面のロック」ボタン　65
「ログアウト」ボタン　65
「アプリケーションの実行」ボタン　66
「スクリーンショット」ボタン　66
「デスクトップの表示」ボタン　66
通知スペース　66
メニュー　67
引き出し　68
引き出しを開くまたは閉じる　68
引き出しをパネルに追加する　68
オブジェクトを引き出しに追加する　69
引き出し設定を変更する　69

4 メニューの操作方法　**71**
メニューの概要　71
メニューの特長　72
メニュー項目のポップアップメニュー　72
アプリケーションメニュー　73
「アクション」メニュー　74
「アプリケーションの実行」ダイアログの使用　74

スクリーンショットを撮る　75
「起動」ボタン　77
「起動」ボタンにアクセスする　77
パネルに「起動」ボタンを追加する　77
メニューバー　78
メニューバーをパネルに追加する　78
メニューのカスタマイズ　78
メニューを追加する　79
メニューにランチャーを追加する　79
空のメニューにランチャーを追加する　79
メニューにランチャーをコピーする　79
メニューの設定を編集する　80
メニュー項目を編集する　80
メニューから項目を削除する　80

5　ウィンドウの操作方法　**81**
ウィンドウとワークスペース　81
ウィンドウマネージャの動作　82
ウィンドウの種類　82
ウィンドウフレーム　83
ウィンドウおよびワークスペースでのメニューとパネルアプリケーションの使用方法　85
ウィンドウメニュー　85
ウィンドウリスト　86
ワークスペーススイッチ　88
ウィンドウセレクタ　89
ウィンドウの操作方法　89
ウィンドウにフォーカスを移動する　89
ウィンドウを最小化する　90
ウィンドウを最大化する　90
ウィンドウを元のサイズに戻す　90
1 つのウィンドウをほかのウィンドウより上にする　91
ウィンドウを閉じる　91
ウィンドウのサイズを変更する　91
ウィンドウを移動する　92
ウィンドウを巻き上げる　92
すべてのワークスペースにウィンドウを配置する　92
ウィンドウを別のワークスペースに移動する　93

区画サイズを変更する　93
表の使用方法　93
ワークスペースの操作　94
ワークスペースを切り替える　94
ワークスペースを追加する　94
ワークスペースの名前を指定する　95
ワークスペースを削除する　95

6 ファイルマネージャの使用方法　**97**
ファイルマネージャの概要　97
ファイルマネージャウィンドウ　98
表示区画　99
サイド区画　100
アイコンとエンブレム　101
コンピュータのナビゲート　102
フォルダを表示する　102
サイド区画のツリーの使用　103
ファイルを開く　104
各場所を開く　106
サーバーに接続する　106
「このコンピュータ」ロケーションの使用方法　106
FTP サイトにアクセスする　107
特別な URI ロケーションへのアクセス　107
ナビゲーション履歴の使用方法　108
お気に入りを登録する　109
ファイルとフォルダの管理　110
ファイルマネージャでのドラッグ＆ドロップ　110
ファイルおよびフォルダを選択する　111
ファイルまたはフォルダを移動する　112
ファイルまたはフォルダをコピーする　112
ファイルまたはフォルダを複製する　113
フォルダを作成する　113
ファイルまたはフォルダの名前を変更する　113
テンプレートとドキュメント　114
ドキュメントを作成する　114
ファイルまたはフォルダをごみ箱に移動する　114
ファイルまたはフォルダを削除する　115
ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成する　115

ファイルやフォルダのプロパティを表示する　116
アクセス権を変更する　116
ファイルやフォルダへのノートの追加　117
「ごみ箱」の使用方法　118
ファイルおよびフォルダの外観の変更　119
ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する　119
新しいエンブレムを追加する　119
ファイルまたはフォルダのアイコンを変更する　120
ビュー内の項目のサイズを変更する　120
ビューを使用したファイルとフォルダの表示　121
ファイルへのアクションの割り当て　125
アクションを変更する　125
CD の書き込み　127
Linux でリムーバブルメディアを使用する　128
Linux でメディアをマウントする　128
Linux でメディアの内容を表示する　129
Linux でメディアのプロパティを表示する　129
Linux でフロッピーディスクをフォーマットする　129
Linux でメディアを取り出す　131

7　デスクトップの背景の使用方法　**133**
デスクトップの背景の紹介　133
デスクトップの背景オブジェクト　134
デスクトップの背景上のオブジェクトを選択する　135
デスクトップの背景からオブジェクトを開く　135
デスクトップの背景にランチャーを追加する　136
デスクトップの背景にシンボリックリンクを追加する　136
デスクトップの背景へのファイルまたはフォルダの追加　137
デスクトップの背景オブジェクトの名前を変更する　138
デスクトップの背景からオブジェクトを削除する　138
デスクトップの背景からオブジェクトを直ちに削除する　138
デスクトップの背景オブジェクトのプロパティを表示する　139
デスクトップの背景オブジェクトのアクセス権を変更する　139
デスクトップの背景オブジェクトにエンブレムを追加する　139
デスクトップの背景オブジェクトにノートを追加する　140
デスクトップの背景オブジェクトのアイコンを変更する　140
デスクトップの背景オブジェクトアイコンのサイズを変更する　140
デスクトップの背景でのごみ箱の使用方法　141

ごみ箱を表示する　141
ごみ箱を空にする　141
デスクトップの背景メニューの使用方法　142
デスクトップの背景のパターンまたは色の変更　143

8 設定ツールの使用　**145**
設定ツールの起動　145
デスクトップの背景のカスタマイズ　145
CD データベースサーバーの設定　147
ファイルの関連付けの設定　148
ファイルタイプを追加する　149
サービスを追加する　150
ファイル管理の設定　151
設定　151
背景の変更　156
デフォルトのフォントの選択　157
入力方式の設定　158
インターネット接続の設定　159
キーボードアクセシビリティオプションの構成　160
基本設定　161
フィルタの設定　162
マウスの設定の変更　163
キーボードの動作の設定　163
キーボードの設定の変更　164
キー入力の休止の設定　164
キーボードのレイアウト　165
キーボードのレイアウトオプション　165
アプリケーションのメニューおよびツールバーのカスタマイズ　165
マウスの設定　166
ボタンの設定　167
ポインタの設定　167
動作の設定　167
パネルのカスタマイズ　168
PDA デバイスの設定　168
PDA を設定する　169
PDA を変更する　172
PDA がコンピュータに接続する方法を設定する　173
PDA がコンピュータに接続する方法を変更する　173

PDA とアプリケーション間でデータを転送する方法を指定する　173
PDA のデータをコンピュータにバックアップする　175
優先するアプリケーションの選択　176
Web ブラウザの設定　176
電子メールクライアントの設定　177
テキストエディタの設定　177
端末の設定　178
スクリーンセーバーの設定　179
表示モードの設定　179
拡張設定　180
セッションの構成　181
現在のセッションの設定　182
現在のセッションの設定　183
自動起動アプリケーションの構成　184
キーボードショートカットのカスタマイズ　185
サウンドの設定　188
一般的なサウンド設定　188
サウンドイベントの設定　188
システムベルの設定　189
テーマのカスタマイズ　190
カスタムテーマを作成する　191
新しいテーマをインストールする　191
新しいテーマオプションをインストールする　192
テーマオプションを削除する　192
ウィンドウのカスタマイズ　193

A マウスとキーボードの機能　**195**
マウスの機能　195
マウスボタンの規定　195
マウスの操作　196
マウスポインタ　196
マウスの操作に関する用語　198
キーボードの機能　199
一般的なショートカットキー　199
ウィンドウのショートカットキー　200
パネルのショートカットキー　200
アプリケーションのショートカットキー　201
アクセスキー　201

用語集　**203**

索引　**207**

はじめに

Java Desktop System Release 2 ユーザーズガイド で記述されている多くの情報は、以下のリリースの Java Desktop System に共通しています。

- x86 版 Solaris™ オペレーティングシステム用 Java Desktop System Release 2
- Linux 版 Java Desktop System Release 2

共通ではない情報では、プラットフォームが示されています。

対象読者

このマニュアルは、Java Desktop System をデフォルトのデスクトップ環境として使用するユーザーを対象としています。

このマニュアルをお読みになる前に

このマニュアルを読む前に、以下のトピックについて知っておく必要があります。

- スリーボタンマウスデバイス
- グラフィカルユーザーインタフェース
- コマンドラインインタフェース

内容の紹介

このマニュアルの構成は次のとおりです。

- 基本的な操作

  この章では、Java Desktop System セッションの起動方法、管理方法、および終了方法について説明します。

- *Java Desktop System* の概要

  この章では、 Java Desktop System の主要なコンポーネントおよび機能について説明します。 このマニュアルのほかの章を読まない場合でも、この章は必ず読むようにしてください。

- パネルの操作方法

  パネルは、Java Desktop System の主要コンポーネントです。 この章では、パネルのさまざまな部分の操作方法や、パネルを使用して利用できる Java Desktop System の機能を呼び出す方法について説明します。

- メニューの操作方法

  この章では、Java Desktop System のメニューの使用方法とカスタマイズ方法について説明します。

- ウィンドウの操作方法

  ウィンドウの移動やサイズ変更など、基本的なウィンドウ機能について説明します。 また、ウィンドウで使用する制御についても説明します。

- ファイルマネージャの使用方法

  ▼▼この章では、ファイルシステムと連携するファイルマネージャの使用法について説明します。

- ディスクトップ背景の使用方法

  アプリケーションを起動したり、ファイルおよびフォルダを開くためのデスクトップ背景の使用方法について説明します。 デスクトップ背景でのごみ箱の使い方や、デスクトップ背景メニューの使い方、またデスクトップ背景のカスタマイズ方法についても説明します。

- 設定ツールの使用方法

  この章では、設定ツールを使用した、Java Desktop System のカスタマイズ方法について説明します。

- 付録 *A:* マウスとキーボードの機能

  マウスの使用方法、ショートカットキー、基本的なウィンドウ操作、および基本的なダイアログ操作について説明します。

- 用語集はこのマニュアルで使用される用語およびその定義のリストです。

関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『*Java Desktop System Release 2 Accessibility Guide* 』
- 『*Java Desktop System Release 2* インストールガイド』
- 『*Java Desktop System Release 2* ご使用にあたって』
- 『*Java Desktop System Release 2* システム管理』
- 『*Java Desktop System Release 2* 問題の解決方法』
- 『*Java System Update Service* ユーザーズガイド』

上記マニュアルは、 付随のソフトウェアメディア、および http://docs.sun.com で参照できます。

参考マニュアル

次に、このマニュアルを読む際に参考になるマニュアルを示します。

- 『*StarSuite 7 Office Suite* 管理ガイド』
- 『*StarSuite 7 Office Suite* 基本ガイド』
- 『*StarSuite 7 Office Suite* インストールの手引き』
- 『*StarSuite 7 Office Suite* ユーザーズガイド』
- 『*Ximian Evolution 1.4* ユーザーズガイド *Sun Microsystems Edition*』

上記マニュアルは、 付随のソフトウェアメディア、および http://docs.sun.com で参照できます。

Sun のオンラインマニュアル

`docs.sun.com` では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、`http://docs.sun.com` です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 **P–1** 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% **su** password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% **grep '^#define ** **XV_VERSION_STRING'**

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

  machine_name% **command y|n** [*filename*]

- C シェルのスーパーユーザー

  machine_name# **command y|n** [*filename*]

- Bourne シェルおよび Korn シェル

  $ **command y|n** [*filename*]

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

  # **command y|n** [*filename*]

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: `Shift` キーを押します)。ただし、キーボードによっては `Enter` キーが `Return` キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、`Ctrl-D` は `Control` キーを押したまま `D` キーを押すことを意味します。

一般規則

注 – ＊＊＊下記の規則に該当する場合は、該当する規則のみ表記する。どちらも該当しない場合は、このセクションごと削除。＊＊＊

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

基本的な操作

この章では、Java Desktop System セッションを開始、管理、終了するときに必要な情報について説明します。

デスクトップへのログイン

セッションとは、ユーザーが Java Desktop System にログインし、その後にログアウトするまでの時間のことです。 ログイン画面は、Java Desktop System へのゲートウェイになります。 ログイン画面には、ユーザー名とパスワードを入力するフィールドがあります。 ログイン画面では、セッションの言語などのログインオプションを選択できます。

セッションは、ログインすると開始されます。 ユーザー名とパスワードが認証されると、セッションマネージャが起動します。 セッションマネージャはセッションを管理します。 たとえば、一番最後のセッションの状態を保存し、次回ログインしたときに、そのセッションから開始することができます。 セッションマネージャは次のものを保存し復元します。

- フォント、色、マウス設定など、外観や機能設定
- 実行中だったアプリケーション。たとえば、ファイルマネージャウィンドウやテキストエディタウィンドウなど。 セッションマネージャが管理しないアプリケーションは、保存および復元できない。 たとえば、端末ウィンドウのコマンドラインから vi エディタを起動した場合、セッションマネージャは編集セッションを復元できない。

Linux のデスクトップにログインする

デスクトップにログインするには、次の操作を実行します。

1. ログイン画面で「セッション」アイコンをクリックします。 使用可能なデスクトップ環境の一覧から「Java Desktop System」を選択します。
2. ログイン画面の「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力後、Return キーを押します。
3. ログイン画面の「パスワード」フィールドにパスワードを入力後、Return キーを押します。

正常にログインできると、セッションマネージャがセッションを開始します。 初めてログインする場合、セッションマネージャは新しいセッションを開始します。 すでにログインしたことがあり、前のセッションの設定を保存した場合は、セッションマネージャが前のセッションを復元します。

ログインする前にシステムを停止または再起動したい場合は、ログイン画面の「アクション」アイコンをクリックします。 ダイアログが表示されます。 必要なオプションを選択し、「了解」をクリックします。

Linux で別の言語にログインする

別の言語でデスクトップにログインするには、次の操作を実行します。

1. ログイン画面で「言語」アイコンをクリックします。 使用可能な言語の一覧から、使用する言語を選択します。
2. ログイン画面の「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力後、Return キーを押します。
3. ログイン画面の「パスワード」フィールドにパスワードを入力後、Return キーを押します。

注 – 別の言語でセッションにログインする場合は、ユーザーインターフェイスの言語を選択します。 ここでは、セッション用のキーボードレイアウトを指定しません。 キーボードレイアウトを指定するには、キーボード配列スイッチパネルアプリケーションを使用します。

パネルアプリケーションとは、CD プレーヤーなどのような、パネル内にある小規模な対話型のアプリケーションのことです。 各パネルアプリケーションは、マウスやキーボードで操作できる簡素なユーザーインターフェイスを備えています。

Solaris オペレーティングシステムのデスクトップにログインする

デスクトップにログインするには、次の操作を実行します。

1. 「オプション」 → 「セッション」を選択します。 使用可能なデスクトップ環境の一覧から「Java Desktop System」を選択します。

2. 「ログインマネージャ」ダイアログのフィールドにログイン名を入力して、「了解」をクリックします。
3. 「ログインマネージャ」ダイアログのフィールドにパスワードを入力して、「了解」をクリックします。

正常にログインできると、セッションマネージャがセッションを開始します。 初めてログインする場合、セッションマネージャは新しいセッションを開始します。 すでにログインしたことがある場合は、セッションマネージャが前のセッションを復元します。

Solaris オペレーティングシステムで別の言語にログインする

別の言語でデスクトップにログインするには、次の操作を実行します。

1. ログインダイアログで「オプション」→「セッション」を選択します。 使用可能なデスクトップ環境の一覧から「Java Desktop System」を選択します。
2. ログインダイアログで「オプション」 →「言語」を選択します。
3. 使用する言語が含まれている言語グループを選択します。
4. 言語を選択します。
5. ログインします。

システムのデフォルトの言語は、システム管理者によって設定されます。 「ログインマネージャ」ダイアログの「オプション」メニューから、他の言語にアクセスできます。 「オプション」メニューで言語を選択すると、システム内でセッションに対して LANG 変数が設定されます。 セッションの終了時に、デフォルトの言語が復元されます。

最初のログイン

はじめてセッションを開始すると、スタートアップ画面が表示されるとともに、画面の下部にパネルが、デスクトップの背景にさまざまなアイコンが表示されます。

デスクトップの初期設定

ここでは、セッションをはじめて開始するときの画面の表示について説明します。 システム管理者が、ローカルな要求に応じてデフォルトのボトムエッジパネルを設定している場合があります。したがって、ここで説明するボトムエッジパネルと多少異なる可能性があります。

Java Desktop System のスタート画面の構成は、以下のとおりです。

- このコンピュータ

  メディアや使用中のシステムの詳細設定にアクセスします。
- ドキュメント

  デフォルトディレクトリ内に保存されたファイルに直接アクセスします。
- ごみ箱

  ファイル、フォルダ、デスクトップオブジェクトの一時保持領域を提供します。これらのデータは後で取り出すことも、完全に削除することもできます。
- **Java™ Desktop System** について学ぶ

  Java Desktop System に関するヘルプにアクセス可能な場所からヘルプブラウザを起動します。
- **StarSuite 7**

  StarSuite アプリケーションを起動します。
- ボトムエッジパネル

  デフォルトでは、以下のパネルオブジェクトがボトムエッジパネルに表示されます。

  - 「起動」 ボタン: Java Desktop System のアプリケーションや構成ツールのメニュー項目が提供されます。
  - クロック: パネルに日時を表示します。
  - 「デスクトップの表示」: このボタンをクリックすると、開かれているすべてのウィンドウがアイコン化されます。
  - 「ウィンドウリスト」: 開いている各ウィンドウを示すボタンを表示します。ウィンドウリストボタンをクリックすると、ウィンドウの最小化と元のサイズへの復元を行うことができます。
  - 「通知スペース」: アプリケーションのアクティビティを示すさまざまなアイコンを表示します。 たとえば、CD プレイヤーアプリケーションで CD を再生しているときは、CD アイコンが通知スペースに表示されます。
  - ワークスペーススイッチ: ワークスペースを視覚的に表示します。 「ワークスペーススイッチ」 を使用して、ワークスペース間を切り替えることができます。
  - 「ボリュームコントロール」 : システムのサウンドレベルを制御および設定するためのボタンが表示されます。
  - 「入力方式スイッチ」: 統合された多言語の入力方式機能を提供するためのボタンが表示されます。
- デスクトップの背景

  デスクトップの背景は、Java Desktop System 上の他のすべてのコンポーネントの背後にあります。 デスクトップの背景は、ユーザーインターフェイスのアクティブコンポーネントです。 デスクトップの背景に複数のオブジェクトを置くことで、ファイルおよびディレクトリにすばやくアクセスできます。また、頻繁に使用するアプリケーションをデスクトップに配置して、ここから起動することもでき

ます。 デスクトップの背景上で右クリックすると、メニューを開くことができます。

画面をロックする

画面をロックするには、次のいずれかの操作を実行します。

- 「起動」 をクリックして、「画面のロック」を選択する。
- 「ロック」ボタンがパネルにある場合は、「ロック」ボタンをクリックする。

  「ロック」ボタンをパネルに追加するには、そのパネルで右クリックする。 「パネルに追加」、「アクション」、「ロック」の順に選択する。

画面をロックすると、スクリーンセーバーが起動します。 画面のロックを解除するには、マウスを動かして、「ロック中の画面」ダイアログを表示します。 ユーザー名とパスワードを「ロック中の画面」ダイアログに入力して、Return キーを押します。

スクリーンセーバーを設定するには、「設定ツールの使用」を参照してください。

注 – 画面を正しくロックするには、スクリーンセーバーを有効に設定しておく必要があります。

デスクトップセッションの管理

デスクトップセッションを設定するには、セッション設定ツールを使用します。
セッション設定ツールは、アプリケーションの形式を次のように認識します。

- セッション管理されるアプリケーション。 セッションの設定を保存した場合、セッションマネージャはセッション管理下のすべてのアプリケーションを保存する。 ログアウトし、再びログインすると、セッションマネージャはセッション管理下のアプリケーションを自動的に起動する
- セッション管理されないアプリケーション。 セッションの設定を保存した場合、セッションマネージャは非セッション管理のアプリケーションを保存しない。 ログアウトし、再びログインすると、セッションマネージャは非セッション管理のアプリケーションを起動しない。 アプリケーションは手動で起動する必要がある。 または、セッション設定ツールを使用して、非セッション管理のアプリケーションのうち、自動的に起動するアプリケーションを指定する。

セッションを設定するには、「設定ツールの使用」を参照してください。

ログインおよびログアウト時の動作を定義する

ログインおよびログアウト時のセッションの動作を設定するには、セッション設定ツールを使用します。「セッションのオプション」タブセクションで、必要な変更を行います。 たとえば、ログイン時にスプラッシュ画面を表示するように選択できます。

スタートアップアプリケーションを使用する

セッションは、非セッション管理のアプリケーションで開始するように設定できます。 非セッション管理のスタートアップアプリケーションを設定するには、セッション設定ツールを使用します。 アプリケーションの追加、編集、および削除には、「自動起動プログラム」タブセクションを使用します。 設定を保存し、ログアウトすると、次回ログインしたときにスタートアップアプリケーションが自動的に起動されます。

アプリケーションを参照する

現在のセッションでアプリケーションを参照するには、セッション設定ツールを使用します。「現在のセッション」タブセクションには、次の項目がリストされています。

- 現在実行されているすべての Java Desktop System アプリケーション。これらのアプリケーションは、セッションマネージャに接続することができ、そのアプリケーションの状態を保存できる。
- すべての設定ツール。これらのツールはセッションマネージャに接続することができ、そのツールの状態を保存できる

「現在のセッション」タブセクションを使用して、アプリケーションまたは設定ツールのセッション設定で操作 (数に制限あり) を実行できます。 たとえば、起動順序を編集したり、リストに載っているすべての Java Desktop System アプリケーションまたは設定ツールのスタイルを再設定できます。

設定を保存する

セッションの設定を保存するには、次の手順を行います。

1. セッションの終了時に、自動的に設定を保存するようにセッションを設定します。セッションを設定するには、セッション設定ツールを使用します。 セッション設定ツールが起動します。「セッションのオプション」タブセクションの「変更を自動的にセッションに保存する」オプションを選択します。
2. セッションを終了します。

「変更を自動的にセッションに保存する」オプションを選択しない場合、ログアウトしたときに、現在の設定を保存するかどうかを問うダイアログが表示されます。 設定を保存するには、このオプションを選択してからログアウトします。

ログアウト

セッションを終了するには、現在アクティブなプロセスをすべて閉じ、次のいずれかの操作を実行します。

- 「起動」をクリックして、「 *name*をログアウト」を選択する
- 「ログアウト」ボタンがパネルにある場合は、「ログアウト」ボタンをクリックする

  「ログアウト」ボタンをパネルに追加するには、そのパネルで右クリックする。「パネルに追加」、「アクション」、「ログアウト」の順に選択します。

セッションを終了する前に、現在の設定を保存しておくと、次回ログインしたときに、セッションを復元できます。 ログアウト処理中に、現在の設定を保存するかどうかを問うダイアログが表示されます。 セッション設定ツールでは、現在の設定を自動的に保存するオプションを選択できます。

第 2 章

Java Desktop System の概要

この章では、Java Desktop System の機能と主なコンポーネントについて説明します。 Java Desktop System を使用する前にこの章を読み、さまざまな機能と主なコンポーネントの動作を理解してください。 Java Desktop System はさまざまな設定が可能ですが、この章では、標準的なデフォルトの設定について説明します。

Java Desktop System の概要

Java Desktop System の最大の特長は、柔軟に構成できることと、作業実行のために多数の手段が提供されていることです。

Java Desktop System には、アプリケーションや文書を対話形式で効率的に操作可能にする次の機能があります。

- パネル

  パネルとは、すべてのシステムアプリケーションとメニューにアクセスできる Java Desktop System 上の領域です。

- メニュー

  Java Desktop System のすべての機能には、メニューからアクセスできます。「アプリケーション」 メニューを使用すると、ほとんどすべての標準デスクトップアプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。「アプリケーション」メニューには、「起動」 ボタンとメニューバーパネルアプリケーション からアクセスできます。「起動」ボタンとメニューバーはパネルに追加できます。

  メニューバーには、「アクション」メニューが含まれています。「アクション」メニューには、さまざまな機能を持つコマンドが含まれています。たとえば、「ファイルの検索」や「ログアウト」などがあります。

- ウィンドウ

同時に複数のウィンドウを表示できます。 各ウィンドウで、さまざまなアプリケーションを実行できます。 ウィンドウ用のフレームとボタンは、ウィンドウマネージャによって提供されます。 ウィンドウマネージャを使用して、ウィンドウを移動する、閉じる、サイズを変更するなど、標準の操作を実行できます。

- ワークスペース

  Java Desktop System は、個別のワークスペースに分割できます。 ワークスペースとは、作業可能な個別の領域です。 Java Desktop System 上のワークスペースの数は指定できます。 ワークスペースは切り替えて使用できますが、一度に表示できるワークスペースは 1 つだけです。

- ファイルマネージャ

  Nautilus は、ファイルおよびアプリケーションへの統合アクセスポイントを提供する、Java Desktop System ファイルマネージャです。 ファイルマネージャウィンドウ内のファイルの内容を表示したり、ファイルマネージャから適切なアプリケーションでファイルを開くことができます。

  また、ファイルマネージャはデスクトップ背景も管理します。

- デスクトップ背景

  デスクトップ背景は、Java Desktop System のほかのすべてのコンポーネントの背後にあります。 デスクトップ背景は、ユーザーインターフェイスのアクティブコンポーネントです。 デスクトップ背景に複数のオブジェクトを置くことで、ファイルおよびディレクトリにすばやくアクセスできます。また、頻繁に使用するアプリケーションをデスクトップに配置して、ここから起動することもできます。デスクトップ背景上で右クリックすると、メニューを開くことができます。

- このコンピュータ

  「このコンピュータ」 というロケーションは、Java Desktop System の主要な機能へのアクセスポイントです。 アプリケーションおよび構成ツールには「このコンピュータ」のロケーションからアクセスできます。 また、システムをサーバーとして構成したり、ほかのシステムの詳細設定を変更したりできるプログラムにアクセスできます。

- デスクトップ設定

  Java Desktop System には、専用の設定ツールがあります。 各ツールは、Java Desktop System の特定の機能を制御します。 設定ツールを開始するには、「起動」をクリックして、「設定」を選択します。 構成する項目をサブメニューから選択します。

Java Desktop System のコンポーネントは相互運用可能です。 通常、ある操作は、いくつかの異なる方法で実行することができます。 たとえば、アプリケーションはパネルから起動することも、メニューまたはデスクトップから起動することもできます。

システム管理者は、必要に応じて構成を変更できるため、Java Desktop System デスクトップがこの章で説明するものとまったく同じでない可能性があります。 それでも、この章では、Java Desktop System を使用した作業に役立つ有用な情報を提供します。

主要コンポーネント

Java Desktop System の主要コンポーネントの概説については、以下の節を参照してください。

- 29 ページの「GNOME デスクトップ」
- 30 ページの「デスクトップアプリケーション」
- 31 ページの「パネルアプリケーション」
- 33 ページの「Ximian Evolution 1.4」
- 34 ページの「StarSuite 7」
- 36 ページの「Mozilla 1.4」
- 37 ページの「Java テクノロジ」

GNOME デスクトップ

Java Desktop System は、世界的なコミュニティによって開発されたフリーソフトウェアデスクトップ、GNOME デスクトップをベースとしています。

次に、GNOME デスクトップのコンポーネントの中でもっとも重要なものを示します。

デスクトップの機能	説明
ファイルマネージャ	次の操作を実行します。 ■ ファイルおよびフォルダの表示 ■ ファイルおよびフォルダの管理 ■ ファイルおよびフォルダのカスタマイズ ■ 特殊 URL が指す場所を開く ■ 書き込み可能な CD にデータを書き込む
パネル	アプリケーションランチャー、システムメニュー、パネルの引き出し、およびパネルのアプリケーションが含まれています。
ウィンドウマネージャ	アプリケーションウィンドウとダイアログを管理します。
デスクトップアプリケーション	通常業務をすべてカバーするフル機能の幅広いアプリケーション群です。
パネルアプリケーション	パネル内にある特定のタスク向けの小型アプリケーションです。

デスクトップアプリケーション

次の表に、Java Desktop System のデスクトップアプリケーションを示します。

カテゴリ	アプリケーション	説明
アクセサリ	書庫マネージャ	アーカイブを作成、表示、変更、展開します。
	電卓	算術演算、三角関数、対数機能を持つ多機能の数学/科学技術用電卓です。
	文字マップ	アクセント付き文字、数学記号、特殊文字、および句読点を提供するユニコードの文字マップです。
	辞書	単語の定義や正しいつづりをオンライン辞書で調べます。
	テキストエディタ	テキストファイルを作成および編集できるシンプルなテキストエディタです。
ゲーム	『*Java Desktop System Release 2* ご使用にあたって』を参照してください。	ゲームアプリケーション自体は現在 Sun Microsystems によってサポートされません。
グラフィックス	図形エディタ	フローチャート、地図、UML 図など、数多くの図を作成できる図形エディタ
	画像エディタ	画像を編集する GNU 画像処理プログラム
	画像編集	画像のサムネイルをデスクトップに表示する画像ビューアとブラウザ
	画像ビューア	標準的な画像ファイル形式の画像を表示および保存します。
	PDF ドキュメントビューア	PDF (Portable Document Format) ファイルを表示します。
	PostScript ビューア	PostScript 形式のファイルを表示します。
インターネット	電子メールとカレンダ	詳細については、33 ページの「Ximian Evolution 1.4」を参照してください。
	インスタントメッセンジャー	複数プロトコルのインスタントメッセージングクライアントを起動できます。
	Java Web Start	Java アプリケーションの起動と管理を行うことができます。
	Sun Java System Instant Messaging	次の操作に必要な URL を提供します。 ■ Java IM Demo への登録 ■ Java IM Demo の実行
	Web ブラウザ	詳細については、36 ページの「Mozilla 1.4」を参照してください。

カテゴリ	アプリケーション	説明
マルチメディア	CD プレイヤー	使用中のコンピュータで音楽 CD を再生します。
	ボリュームコントロール	システムの音量を調節します。
オフィスソフトウェア	プロジェクト管理	プロジェクトスケジュールの管理用ツール
	オフィスアプリケーション	詳細については、34 ページの「StarSuite 7」を参照してください。 注 – 日本、中国、韓国、台湾の場合は、StarSuite がデフォルトのオフィスアプリケーションです。 その他の国では、StarOffice をデフォルトのオフィスアプリケーションとすることができます。
プログラミング	インターフェイスエディタ	Glade は GTK+ と GNOME 用のユーザーインターフェイスビルダです。
	ソースエディタ	プログラマのための汎用的な拡張可能なエディタ
ユーティリティ	設定エディタ	構成データベース全体を直接編集できます。
	ディスクアナライザ	ディスク内容を可視化できます。
	オンライン更新	システムをオンラインで更新します。
	印刷マネージャ	プリンタのキューにあるプリンタおよびドキュメントを表示します。
	端末	コマンド行を使用できるようにします。

パネルアプリケーション

次の表に、Java Desktop System のパネルアプリケーションを示します。

カテゴリ	パネルアプリケーション	説明
アクセサリ	アポイントとタスク	アポイントとタスクを管理するカレンダサーバークライアントです。
	時計	日時を表示します。
	辞書検索	単語の定義や正しいつづりをオンライン辞書で調べます。

カテゴリ	パネルアプリケーション	説明
	付箋紙	デスクトップに小さなメモを作成し、参照します。
	株式相場表示器	最新の株価を常に表示します。
	天気予報	現在の気象状況と天気予報を表示します。
アクション	ファイルの検索	検索ツールを開きます。
	強制終了	コマンドに応答しないアプリケーションの実行を停止します。
	画面のロック	画面をロックし、スクリーンセーバーを活性化します。
	ログアウト	現在のセッションからログアウトする処理を開始します。
	アプリケーションの実行	「**Run Application**」ダイアログを開く。
	スクリーンショット	スクリーンショットを撮ることができます。
	デスクトップの表示	開かれているすべてのウィンドウをアイコン化し、デスクトップを表示します。
アミューズメント	おさかな君	アニメーションを表示し、ユーザーが画像をクリックしたときに、ユーザーが指定したコマンドを実行します。
	目玉	画面上でマウスポインタの動きにあわせて動く目を表示します。
インターネット	受信箱モニタ	メールサーバーのメールボックスに新しいメールが届いているかどうかを定期的にチェックします。
	WebEyes	Web 検索ユーティリティにアクセスし、以前アクセスした Web サイトにすばやくアクセスします。
マルチメディア	CD プレイヤー	使用中のコンピュータで音楽 CD を再生します。
	ボリュームコントロール	システムの音量を制御します。
ユーティリティ	文字パレット	非標準文字に手軽にアクセスできます。
	コマンドライン	デスクトップの任意のパネルで使用できるコマンドラインを提供します。
	入力方式スイッチ	キーボード以外の入力方法でテキストを入力できるソフトウェアコンポーネントを切り替える方法を提供します。 入力方法は通常、数多くの文字を使用する言語のテキストを少ないキーで入力するために使用します。

カテゴリ	パネルアプリケーション	説明
	キーボードアクセシビリティのステータス	キーボードのユーザー補助機能の状態を表示します。
	キーボードインジケータ	キーボードに複数のレイアウトを指定します。
	通知スペース	アプリケーションのアクティビティを示すさまざまなアイコンを表示します。 たとえば、CD プレイヤーアプリケーションを使って CD を再生すると、通知スペースに CD アイコンが表示されます。
	Pilot アプレット	Palm OS デバイスを構成します。
	クイックランチャー	よく使うアプリケーションをパネルで管理します。
	ウィンドウリスト	デスクトップ上に開かれているウィンドウを管理します。
	ウィンドウセレクタ	デスクトップ上に開かれている全表示ウィンドウのリストを表示します。ユーザーは、アクティブにしたいウィンドウを選択できます。
	ワークスペーススイッチ	ワークスーペースを切り替えます。

Ximian Evolution 1.4

Evolution は、電子メールサーバーとカレンダサーバーに統合された高機能な個人情報管理システムです。 Evolution には、以下のコンポーネントがあります。

コンポーネント	説明
カレンダ	スケジュールを立てます。
連絡先	連絡先のアドレス帳を作成します。
電子メール	電子メールメッセージを作成、送信、受信、および管理します。
サマリ	一日の概要を表示します。 電子メールメッセージ、アポイント、会議、作業の概要を表示します。
タスク	実行する作業タスクを管理します。
コネクタ	メールサーバーおよびカレンダサーバーに接続します。

Evolution には、以下の機能と利点があります。

機能	利点
汎用性	Evolution は、連絡先情報、アポイント、メールを管理し、この機能を総合パッケージに統合します。 Evolution は、通信ニーズすべての制御において中心的な役割を果たします。
互換性	Evolution は、IMAP 4、SMTP、POP3、LDAP などの世界的なメールプロトコルをサポートしています。 また Evolution は、既存の環境へのスムーズな統合をより簡単に実現するために、mbox などの世界的な規格およびファイル形式にも対応しています。
統合	Evolution コンポーネントの中心機能に対しては、パブリックインターフェイスがあるので、Evolution は他のアプリケーションと簡単に統合可能です。
スケーラビリティ	Evolution は、大量のメールを管理します。また、効率的にメールを整理、参照、検索するためのツールを提供します。

Evolution を起動する

「起動」をクリックしてから、「電子メールとカレンダ」 を選択します。

あるいは、「起動」をクリックしてから、「起動」、「アプリケーション」、「インターネット」、「電子メールとカレンダ」の順に選択します。

Evolution を初めて起動したとき、Evolution 設定アシスタントが表示されます。 Evolution 設定アシスタントでは、Evolution の初期構成プロセスを通してガイドが示されます。 初期設定プロセスでは、以下の作業を行います。

- 身元情報を入力する
- 電子メールアカウントの作成。つまり、電子メールの受信方法と送信方法を設定し、アカウントに名前をつけます。
- タイムゾーンを選択する
- 別のアプリケーションからデータをインポートする

Evolution のヘルプには、Evolution アプリケーション内からアクセスできます。

StarSuite 7

オフィスアプリケーションの StarSuite スイートは、Linux、Solaris、Windows などの複数のオペレーティングシステムで実行できます。 StarSuite には、以下のアプリケーションがあります。

- ワードプロセッサ
- 表計算
- プレゼンテーション
- グラフィックス
- データベース機能

StarSuite には、以下の機能と利点があります。

機能	利点
XML ファイル形式のサポート	Web ページのような複雑な文書の作成、管理を行い、このような文書にアクセスできます。
直感的なグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI)	再トレーニングがほとんど必要ない親しみのあるインターフェイス
オープンな規格および OpenOffice.org オープンソースコードをもとに構築	独自の形式に固定されません。

StarSuite を起動する

以下の方法で StarSuite を起動してください。

- デスクトップ背景上にある StarSuite アイコンをダブルクリックします。
- 「起動」をクリックし、「StarSuite 7」を選択します。
- 「起動」をクリックし、「起動」→「アプリケーション」→「オフィス」の順に選択します。

StarSuite には、文書の作成に役立つサンプル文書やテンプレートがあります。 これらのテンプレートやドキュメントにアクセスするには、「ファイル」→「新規作成」→「テンプレートとドキュメント」の順に選択します。

今後作成する文書のベースとして、ファックス、プレゼンテーション、Web ページなどのユーザー定義テンプレートを作成するには、「ファイル」→「オートパイロット」の順に選択します。

StarSuite のヘルプには、以下の StarSuite アプリケーション内からそれぞれアクセスできます。

カテゴリ	アプリケーション	説明
オフィスソフトウェア	StarSuite 7 プレゼンテーション	プレゼンテーションを作成します。
	StarSuite 7 表計算	表計算ファイルを作成します。
	StarSuite 7 文書ドキュメント	文書ドキュメントを作成します。

StarSuite ファイルを開く

以前 StarSuite で作成したファイルを開くには、「起動」をクリックし、「StarSuite 7」を選択します。「テンプレートとドキュメント — マイドキュメント」ダイアログで、ファイルのあるフォルダを強調表示します。 たとえば、ファイルが 「マイ ドキュメント」 フォルダにある場合、「マイ ドキュメント」 アイコンをクリックすると、「タイトル」ペインにフォルダとファイルのリストが表示されます。 必要なファイルを見つけて、ダブルクリックします。

Mozilla 1.4

Mozilla は、さまざまな機能を統合する強力なクロスプラットフォームブラウザです。 Mozilla は、強力なアプリケーション群により企業向け機能を提供します。 Mozilla により、以下の操作を実行できます。

- インターネットサーフィン
- 同僚との通信
- ディスカッショングループへの参加
- 動的な Web ページの作成

Mozilla には、以下の機能と利点があります。

機能	利点
強力なブラウズ機能	合理化された効率的なブラウズ機能により、生産性を向上します。
高度なナビゲーションおよびフィルタリング	受信メールメッセージを管理し、指定した場所に移動することで、時間を節約できます。 高速で効率的かつ合理的な検索およびプライバシーの強化が実現されます。
高度な JavaScript 制御	2、3 回クリックするだけで、Composer で作成した Web 文書を選択したサーバーに公開および保存できます。
タブ付きブラウズ機能	1 つのブラウザウィンドウ内のタブページで複数の Web サイトを表示できます。

Mozilla を起動する

「起動」をクリックし、「Web ブラウザ」を選択します。 あるいは、「起動」をクリックし、「アプリケーション」、「インターネット」、「Web ブラウザ」の順に選択します。

Mozilla のヘルプには、Mozilla アプリケーション内からアクセスできます。

Java テクノロジ

Java テクノロジは、マルチプラットフォームな開発環境を提供します。サーバーから携帯電話やスマートカードまで、多くのプラットフォームをサポートしています。Java テクノロジによって、ビジネスインフラストラクチャが統合され、シームレスで安全性の高いネットワークプラットフォームが構築されます。

Java には、以下の機能と利点があります。

機能	利点
移動性および安全性	Java プラットフォームは、真の移動性を実現する基盤を提供します。Java テクノロジによって、モバイルおよびワイヤレスソリューション向けに理想的な開発/配備手段が実現されます。
開発環境	Java は、開発期間の短縮と、時間や費用を浪費するバグの削減に役立ちます。
Web サービス	Java および XML 言語は、拡張性がもっとも高く、幅広く認められているコンピュータ言語です。
プラットフォームの互換性	Java は、安全性が高く、オープンで、堅牢で、実行可能で、柔軟性の高い開発プラットフォームを提供します。このプラットフォームでは、以下のことが実現されます。 ■ コストの削減 ■ 製品化にかかる時間の短縮 ■ 最大限の柔軟性がもたらす利点 ■ 消費者向けデバイスのための堅固なアプリケーションの開発

パネル

パネルの追加および削除はいつでも行えます。 セッションを始めて開始すると、Java Desktop System には最低 1 つのパネルがあります。

パネルを使用して、以下の操作を実行できます。

- パネルの作成
- パネルの削除
- パネルを隠す
- パネルへのオブジェクトの追加
- パネルオブジェクトの操作

パネルを作成する

パネルを追加するには、パネルの空きスペースを右クリックし、「新規パネル」を選択します。 新しいパネルが Java Desktop System に追加されます。 新しいパネルにはオブジェクトは含まれていません。 利用者の環境に合わせて、新しいパネルをカスタマイズできます。 ユーザーの要件に合わせて、オブジェクトをパネルに追加できます。 パネルの背景も変更できます。 必要な分パネルを作成することが可能です。

パネルを削除する

パネルを削除するには、パネルを右クリックし、「パネルを削除」を選択します。

パネルを隠す

パネルは、端に隠しボタンを持つことができます。 この隠しボタンをクリックして、パネルを隠したり、表示させたりすることができます。

パネルにオブジェクトを追加する

パネルは、いくつかのタイプのオブジェクトを持つことができます。 図 2–1 に示すパネルには、各タイプのパネルオブジェクトが含まれています。

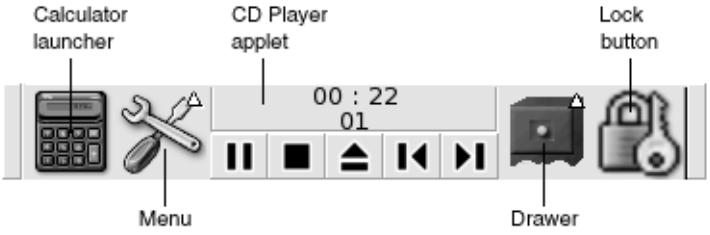


図 **2–1** 各種パネルオブジェクトを含むパネル

以下に示すオブジェクトは、すべてのタイプのパネルに追加できます。

- パネルアプリケーション

  パネルアプリケーションとは、パネル内にある小さな対話型のアプリケーションです (図 2–1 の CD プレイヤーなど)。 各パネルアプリケーションには、マウスまたはキーボードから操作できる単純なユーザーインターフェイスがあります。

  パネルアプリケーションをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」を選択します。 次のサブメニューの 1 つから、必要なパネルアプリケーションを選びます。

- アクセサリ
- アミューズメント
- インターネット
- マルチメディア
- ユーティリティ

- ランチャー

  ランチャーは、特定のアプリケーションを起動したり、コマンドを実行したり、あるいはファイルを開いたりします。 図 2–1 に示す電卓アイコンは、電卓アプリケーションのランチャーです。 ランチャーは、パネルまたはメニューにあります。 ランチャーをクリックすると、そのランチャーに関連する操作が実行されます。

  アプリケーション用に独自のランチャーを作成できます。 たとえば、頻繁に使用するワードプロセッサアプリケーションのランチャーを作成して、アクセスしやすいパネル上にそのランチャーを配置できます。 新しく作成したランチャーをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「ランチャー」を選択します。

  あるいは、メニューからランチャーを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メニューからランチャー」を選択します。 追加するランチャーをサブメニューから選びます。

- アクションボタン

  ボタンをパネルに追加すると、よく実行するアクションにすばやくアクセスできます。 パネルに追加できるボタンは以下のとおりです。

  - 「ファイルの検索」: ファイルの検索ができる検索ツール アプリケーションを起動します。
  - 「強制終了」: コマンドに応答しないアプリケーションを終了します。
  - 「画面のロック」: 画面をロックします。 図 2–1 のロックボタンアイコンは、ロックボタンを示します。
  - 「ログアウト」: セッションを終了します。
  - 「アプリケーションの実行」: コマンドを実行できる「アプリケーションの実行」ダイアログを開きます。
  - 「スクリーンショット」: 画面のスクリーンショットを撮ります。
  - 「デスクトップの表示」: すべてのウィンドウを最小化します。

  ボタンをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「アクション」を選択します。 その後、必要なボタンを選ぶことができます。

- メニュー

  Java Desktop System のすべての機能には、メニューからアクセスできます。 パネルからメニューを開くには、そのメニューを表すアイコンをクリックします。 メニューバーからメニューを開くには、そのメニューを表すテキストをクリックします。

パネルに追加するメニューは、矢印が付いたアイコンで表されます。 矢印は、そのアイコンがメニューであることを示します。 例は、図 2–1のメニューアイコンを参照してください。

「起動」ボタンは、どのパネルにも追加できます。 「起動」ボタンをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、 「パネルに追加」→「メインメニュー」を選択します。

メニューバーもすべてのパネルに追加できます。 メニューバーをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メニューバー」を選択します。

- 引き出し

  引き出しは 、パネルに追加できるスライド機能であり、引き出しアイコンから開いたり閉じたりできます (図 2–1 を参照)。 引き出しは、複数のアプリケーションを同時に実行している場合に、作業を整理するのに役立ちます。 同じ機能要素をすべて 1 つの引き出しに入れ、その引き出しを任意のタイプのパネルに配置できます。

  引き出しをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、 「パネルに追加」→「引き出し」を選択します。

  引き出しを開くには、その引き出しをクリックします。 引き出しを閉じるには、もう一度その引き出しをクリックします。

パネルオブジェクトを操作する

パネルオブジェクトは、次の方法で操作できます。

- パネル内でオブジェクトを移動するか、別のパネルに移動する

  任意のオブジェクトをパネル内の別の場所に移動できます。 また、オブジェクトをあるパネルから別のパネルに移動することもできます。 マウスの中央ボタンを使用してパネルオブジェクトを別の場所にドラッグします。

- メニュー項目をパネルにコピーする

  項目をメニューからパネルにドラッグします。 メニュー項目がランチャーの場合には、そのメニュー項目を右クリックし、 「ランチャーをパネルに追加」を選択します。

メニュー

Java Desktop System のすべての機能には、メニューからアクセスできます。 次の Java Desktop System コンポーネントからメニューへアクセスできます。

- 「起動」

Java Desktop System のメインメニューには、次のような「起動」 ボタンが表示されます。

「起動」ボタンから、「アプリケーション」メニューなどさまざまな機能にアクセスできます。「アプリケーション」 メニューを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。

「起動」ボタンをパネルに追加するには、パネル上で右クリックし、「パネルに追加」→「メインメニュー」を選択します。 パネル上の 「起動」ボタンをクリックすると、Java Desktop System のメインメニューが開きます。

- メニューバー

  メニューバーには、「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューが含まれています。「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューを使用して、ほとんどすべての標準のアプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。

  メニューバーをパネルに追加するには、パネル上で右クリックし、「パネルに追加」→「メニューバー」を選択します。

- パネル

  パネルに追加できるメニューの数に制限はありません。 パネルに追加するメニューを開くには、パネル上のメニューアイコンをクリックします。 メニューを使用して、メニュー項目をパネルにコピーする、などの操作を実行できます。

ウィンドウ

Java Desktop System では、同時に複数のウィンドウを表示できます。 各ウィンドウにはフレームがあります。 ウィンドウフレームには、ウィンドウでの作業に使用できるアクティブな制御要素が含まれています。

ウィンドウのタイプ

Java Desktop System の特長となっているウィンドウを次に説明します。

- アプリケーションウィンドウ

  アプリケーションを実行すると、通常、フレームがウィンドウの境界になります。 アプリケーションウィンドウのトップエッジにタイトルバーが表示されます。 タイトルバーにはウィンドウでの作業に使用できるボタンがあります。 アプリケーションウィンドウフレームのボタンを使用して、「ウィンドウメニュー」を開いた

り、ウィンドウを閉じたりする操作を実行できます。「ウィンドウメニュー」には、ウィンドウで実行できるコマンドが含まれています。

- ダイアログウィンドウ

  ダイアログウィンドウは、対話的に行う作業に対応しています。ダイアログウィンドウは、ウィンドウフレームと対話式の 1 つのペインで構成されており、ユーザーは情報を得たり制御したりすることができます。このマニュアルでは、ダイアログウィンドウの対話に使用する部分をダイアログと呼びます。ダイアログウィンドウのフレームには、「ウィンドウメニュー」を開いたり、ダイアログウィンドウを閉じたりすることができるボタンがあります。

ウィンドウを操作する

アプリケーションウィンドウまたはダイアログウィンドウのフレームを使用して、ウィンドウでの各種操作を実行できます。ほとんどの制御要素は、ウィンドウフレームの右上にあります。図 2–2 は、標準的なアプリケーションウィンドウのフレームのトップエッジを示しています。

図 2–2 標準的なアプリケーションウィンドウのフレームのトップエッジ

ウィンドウフレームのアクティブな制御要素は次のとおりです。

制御要素	説明
ウィンドウメニューボタン	ウィンドウメニューボタンをクリックすると、「ウィンドウメニュー」が開く
タイトルバー	ウィンドウを移動したりシェードしたりするために使用する
最小化ボタン	最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウが最小化する

制御要素	説明
最大化ボタン	最大化ボタンを使用して、ウィンドウを最大化したり元のサイズに戻したりする ウィンドウを最大化するには、「最大化」 ボタンをクリックする。 ウィンドウを元のサイズに戻すには、もう一度「最大化」ボタンをクリックする
クローズウィンドウボタン	クローズウィンドウボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じる
境界	境界を右クリックすると、「ウィンドウメニュー」が開く

ウィンドウのサイズを変更する場合は、タイトルバーではなく、ウィンドウの境界をつかむ。 変更したいサイズになるまで、ウィンドウの境界をドラッグする

ウィンドウにフォーカスを移動する

フォーカスされているウィンドウは、マウスとキーボードから入力できます。 一度にフォーカスできるのは 1 つのウィンドウだけです。 フォーカスされているウィンドウの外観は、ほかのウィンドウとは異なります。

次の方法により、ウィンドウをフォーカスできます。

要素	アクション
マウス	ウィンドウが可視の場合には、そのウィンドウをクリックする
ショートカットキー	ショートカットキーは、開いているウィンドウ間の切り替えに使用する。 あるウィンドウにフォーカスを移すには、そのウィンドウにフォーカスが移動したときにキーを放す。 ウィンドウ間を切り替える初期値のショートカットキーは、Alt + Tab キー。
ウィンドウリスト	ウィンドウリストでフォーカスするウィンドウを表すボタンをクリックする
ワークスペーススイッチ	ワークスペーススイッチディスプレイで、フォーカスを移動するウィンドウをクリックする

ワークスペース

ウィンドウは、デスクトップのサブ領域に分割して表示され、ワークスペースと呼ばれます。 すべてのワークスペースのデスクトップ、パネル、メニューは同じです。 ただし、各ワークスペースで異なるアプリケーションを実行したり、異なるウィンドウを開くことができます。 デスクトップ上で一度に表示できるワークスペースは 1 つだけですが、別のワークスペースで複数のウィンドウを開くことができます。

多数のアプリケーションを同時に実行する場合、ワークスペースを利用するとデスクトップを整理できます。 作業中のワークスペースがウィンドウで一杯になった場合、別のワークスペースに移動して作業できます。 また、別のワークスペースに切り替えて、より多くのアプリケーションを起動することもできます。

ワークスペースは、ワークスペーススイッチパネルアプリケーションに表示されます。 図 2–3 では、ワークスペーススイッチに 4 つのワークスペースが表示されています。 最初の3 つのワークスペースには開いたウィンドウがあります。 4 番目のワークスペースには、現在アクティブなウィンドウはありません。

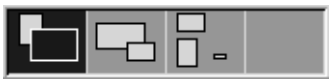


図 **2–3** ワークスペーススイッチに表示されたワークスペース

ワークスペースを切り替える

ワークスペース間の切り替えは、次の方法で行えます。

- ワークスペーススイッチで、作業するワークスペースをクリックする
- Ctrl + Alt + 右矢印キーを押して、作業中のワークスペースの右側のワークスペースに切り替える
- Ctrl + Alt + 左矢印キーを押して、作業中のワークスペースの左側のワークスペースに切り替える

ワークスペースを追加する

ワークスペースをデスクトップに追加するには、ワークスペーススイッチパネルアプリケーションを右クリックし、「設定」を選択します。 「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。 「ワークスペースの数」スピンボックスで、必要なワークスペースの数を指定します。

ファイルマネージャ

ファイルマネージャは、ファイル、アプリケーション、FTP サイト、および URI への統合アクセスポイントを提供します。 ファイルマネージャウィンドウを開くには、「ドキュメント」オブジェクトをダブルクリックします。

ファイルマネージャで次のことができます。

- ファイルとフォルダの参照

  ファイルブラウザウィンドウを使用して、ファイルとフォルダを参照することもできます。 ファイルブラウザウィンドウでファイルまたはフォルダを開くと、そのファイルまたはフォルダがウィンドウに開きます。

  ファイルブラウザウィンドウは、以下のペインを含むことができます。

  サイドペイン　ファイル内をナビゲートできます。 このペインは、現在のファイルまたはフォルダに関する情報も表示します。 サイドペインは、ファイルブラウザウィンドウの左側にあります。

  表示ペイン　ファイルおよびフォルダの内容を表示します。 表示ペインは、ウィンドウの右側にあります。

- ファイルとフォルダの表示

  ファイルやフォルダは、アイコンまたはリストとして表示できます。 一部のファイルの内容は、ファイルマネージャウィンドウで表示できます。

- ファイルおよびフォルダの管理

  ファイルマネージャでは、ファイルとフォルダを作成、移動、コピー、削除、およびこれらの名前を変更できます。

- ファイルおよびフォルダのカスタマイズ

  エンブレムをファイルおよびフォルダに追加して、特定の状態を示すことができます。 たとえば、「重要」エンブレムをファイルに追加して、そのファイルが重要であることを示すことができます。 次の方法を使用して、フォルダをカスタマイズすることもできます。

  - フォルダにメモを追加する
  - フォルダにカスタム背景またはパターンを指定する
  - フォルダにズーム設定を指定する

- 特殊 *URI* (Uniform Resource Identifiers) を開く

  Java Desktop System には、ファイルマネージャから特定の機能にアクセスするため特殊 URI があります。 たとえば、設定ツールにアクセスするには、ファイルマネージャの`preferences:///` URI にアクセスします。

- CDにデータを書き込む

  ファイルマネージャは、CD に書き込むファイルやフォルダをコピーできる特別な場所を提供します。 その場所の内容を簡単に CD に書き込むことができます。

また、ファイルマネージャはデスクトップ背景も作成します。

フォルダ間でファイルを移動する

2 つ以上のファイルマネージャウィンドウを開いて、ファイル間の移動できます。 各ウィンドウで異なるフォルダを開き、一方のウィンドウから別のウィンドウにファイルをドラッグします。

デスクトップ背景

デスクトップ背景は、ユーザーインターフェイスのアクティブコンポーネントです。 デスクトップ背景を使用して、次の操作を実行できます。

- アプリケーションを起動し、ファイルおよびフォルダを開く

  デスクトップオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、またはアプリケーションにアクセスしやすくなります。 たとえば、頻繁に使用するアプリケーションのランチャーを追加します。
- 「デスクトップ」メニューを開く

  デスクトップ背景で右クリックし、「デスクトップffiメニューを開きます。 flデスクトップffiメニューを使用して、デスクトップ背景上で操作を実行できます。

デスクトップ背景オブジェクトを開く

デスクトップ背景オブジェクトを開くには、そのオブジェクトをダブルクリックします。 ファイルマネージャウィンドウで設定することにより、オブジェクトを 1 度クリックするだけでデフォルトの操作を実行できます。

デスクトップ背景にオブジェクトを追加する

デスクトップオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、またはアプリケーションにアクセスしやすくなります。 デスクトップ背景にオブジェクトを追加するには、次の方法を使用します。

- flデスクトップffi メニューを使用して、デスクトップ背景にランチャーを追加する

- オブジェクトをファイルマネージャウィンドウからデスクトップ背景にドラッグする たとえば、頻繁に使用するファイルにシンボリックリンクを作成し、そのリンクをデスクトップ背景にドラッグする。 リンクのアイコンがデスクトップ背景に移動する。 ファイルを開くには、そのアイコンをダブルクリックする。 ファイルやフォルダをデスクトップ背景にドラッグすることもできる。
- アプリケーションランチャーをメニューからデスクトップ背景にドラッグする たとえば、頻繁に使用するアプリケーションのランチャーを含むメニューを開き、そのランチャーをデスクトップ背景にドラッグする。

このコンピュータのロケーション

「このコンピュータ」のロケーションから、次の機能にアクセスできます。

- 「ファイルシステム」

  「ファイルシステム」をダブルクリックすると、システムファイルとフォルダにアクセスできます。
- 「アプリケーション」

  「アプリケーション」 をダブルクリックすると、主要なアプリケーションにアクセスできます。 「アプリケーション」メニューには、メニューバーと「起動」ボタンからアクセスすることもできます。
- 「デスクトップの設定」

  「設定」をダブルクリックして、Java Desktop System をカスタマイズできます。
- システムをサーバーとして構成したり、ほかのシステム設定を選択したりできるプログラム

「このコンピュータ」のロケーションには、次の方法でアクセスできます。

- デスクトップ背景から

  デスクトップ背景の「このコンピュータ」オブジェクトをダブルクリックします。 「このコンピュータ」のロケーションの内容がファイルブラウザウィンドウに表示されます。
- 「起動」 ボタンから

  「起動」をクリックし、「このコンピュータ」を選択します。 「このコンピュータ」のロケーションの内容がファイルブラウザウィンドウに表示されます。

- ファイルブラウザウィンドウから

  ファイルブラウザウィンドウの `computer:///` URI にアクセスします。 「このコンピュータ」 のロケーションの内容がウィンドウに表示されます。

デスクトップ設定

Java Desktop System のほとんどすべての機能は、デスクトップ設定ツールを使用して構成できます。 各ツールは、Java Desktop System の特定の機能を制御します。 たとえば、設定ツールを使用して、Java Desktop System のテーマを選択できます。 「テーマ」は、インターフェイスの外観を指定する統合的な設定グループです。

設定ツールは、次のいずれかの方法で起動できます。

- 「起動」をクリックし,「設定」を選択する。 サブメニューから必要な項目を選ぶ。
- デスクトップの「このコンピュータ」オブジェクトをダブルクリックする。 ファイルブラウザウィンドウが「このコンピュータ」で開きます。 「設定」オブジェクトをダブルクリックし、設定ツールを表示します。 必要な項目をダブルクリックします。

デスクトップアプリケーション

Java Desktop System が提供するアプリケーションは、同じプログラミングライブラリを使用するため、いくつかの特性を共有しています。 標準GNOME プログラミングライブラリを使用するアプリケーションを、「*GNOME* 準拠のアプリケーション」と呼びます。 たとえば、Nautilus ファイルマネージャおよび gedit テキストエディタは、GNOME 準拠のアプリケーションです。

GNOME は、オペレーティングシステムが提供するライブラリ以外のライブラリも提供します。 このライブラリにより、GNOME は、GNOME 対応アプリケーションだけでなく、既存のアプリケーションも実行することができます。 たとえば、使用しているオペレーティングシステムが UNIX ベースの場合、既存の X11 アプリケーションと Motif アプリケーションを Java Desktop System から実行できます。

以下に、GNOME 対応アプリケーションの特長を示します。

- 一貫したルック＆フィール

GNOME 対応アプリケーションは、一貫したルック＆フィールを備えています。GNOME 対応アプリケーションはルック＆フィール設定を使用します。この設定は、設定ツールで指定できます。 GNOME 対応アプリケーションのルック＆フィールを変更するには、以下のツールを使用します。

- 「メニューとツールバー」設定ツール
- 「テーマ」 設定ツール

- メニューバー、ツールバー、ステータスバー

  ほとんどの GNOME 対応アプリケーションには、メニューバー、ツールバー、およびステータスバーがあります。 メニューバーには必ず「ファイル」メニューと「ヘルプ」メニューが含まれています。 「ファイル」メニューには必ず「終了」メニュー項目が含まれており、「ヘルプ」メニューには必ず「バージョン情報」メニュー項目が含まれています。

  ツールバーは、メニューバーの下に表示されるバーです。 ツールバーには、最も一般的に使用されるコマンドのボタンが含まれています。 ステータスバーは、ウィンドウ下部にあるバーで、ウィンドウ内の現在の状態についての情報を提供します。 GNOME 対応アプリケーションには、これ以外にもバーが含まれることがあります。 たとえば、ファイルブラウザウィンドウには、ロケーションバーがあります。

  GNOME 対応アプリケーションの一部のバーは、切り離し可能です。 つまり、バーにはハンドルがあるので、それをつかんで別の場所にドラッグ可能です。バーをドラッグしてウィンドウの別の面、または画面の別の部分にはめ込むことができます。 たとえば、ファイルマネージャのメニューバー、ツールバーおよびロケーションバーは切り離すことができます。

- デフォルトのショートカットキー

  GNOME 対応アプリケーションは、同じ操作に対して、同じショートカットキーを使用します。 たとえば、GNOME 対応アプリケーションを終了するには、Ctrl + Q キーを押します。 GNOME 対応アプリケーションでの操作を元に戻すには、Ctrl + Z キーを押します。

- ドラッグ&ドロップ

  GNOME 対応アプリケーションは、同じプロトコルを使用して、ドラッグ&ドロップ操作を実装しています。 このため、項目をドラッグ&ドロップすると、GNOME 対応アプリケーションからは一貫した反応が得られます。

  さらに、同じプロトコルを使用することで、GNOME 対応アプリケーションは精巧な通信方法で相互操作を可能にします。 たとえば、GNOME 対応アプリケーションは、ドラッグする項目の形式を認識します。 HTML ファイルを ファイルマネージャウィンドウから Web ブラウザにドラッグすると、そのファイルは HTML 形式でブラウザに表示されます。 逆に、HTML ファイルをテキストエディタにドラッグすると、このファイルはプレーンテキスト形式でテキストエディタに表示されます。

詳細を調べる

Java Desktop System のヘルプでは、次の項目に関する詳細を調べることができます。

- Java Desktop System トピック
- パネルアプリケーション
- デスクトップアプリケーション

Java Desktop System トピックの詳細を調べる

Java Desktop System の特定のトピックについて詳しく調べるには、統合されたヘルプシステムを使用できます。 ヘルプシステムを開始するには、「起動」をクリックし、「ヘルプ」を選択します。

パネルアプリケーションの詳細を調べる

特定のパネルアプリケーションについて詳しく調べるには、パネルアプリケーションを右クリックし、「ヘルプ」を選択します。

デスクトップアプリケーションの詳細を調べる

特定のデスクトップアプリケーションについて詳しく調べるには、デスクトップアプリケーションを起動し、「ヘルプ」→「使い方」を選択します。 または、デスクトップアプリケーションを起動したあとで F1 キーを押します。

第 3 章

パネルの操作方法

この章では、パネルの操作方法について説明します。 パネルは、アプリケーションを実行したり、ほかの作業を実行したりできる Java Desktop System 上の領域です。

パネルの概要

セッションを初めて開始すると、Java Desktop System には最低 1 つのパネルがあります。 システム管理者は、ローカルな要求に応じてデフォルトのパネルを設定している場合があります。したがって、ここで説明するパネルと多少異なる可能性があります。

必要に応じて、パネルの動作や外観を変更できます。 パネルからオブジェクトを追加、削除することもできます。 複数のパネルを作成し、各パネルで異なる設定、オブジェクト、および背景を選ぶことができます。 パネルを隠すこともできます。

通常、Java Desktop System は、画面のボトムエッジに表示される、事前に構成されたパネルを含みます。

ボトムエッジパネル

ボトムエッジパネルには、以下の項目があります。

オブジェクト	説明
「起動」	「起動」ボタンには、Java Desktop System のアプリケーションと構成ツールのメニューやメニュー項目が含まれています。

オブジェクト	説明
時計	パネルに日時を表示します。
デスクトップの表示	このボタンをクリックすると、開かれているすべてのウィンドウがアイコン化されます。
ウィンドウリスト	開いている各ウィンドウを示すボタンを表示します。 ウィンドウリストボタンをクリックすると、ウィンドウの最小化と元のサイズへの復元を行うことができます。
通知スペース	アプリケーションのアクティビティを示すさまざまなアイコンを表示します。
ワークスペーススイッチ	ワークスペースを視覚的に表示します。 ワークスペーススイッチ を使用して、ワークスペース間を切り替えることができます。
ボリュームコントロール	システムの音量を制御し設定するボタンを表示します。
ネットワークモニター	ネットワークデバイスの状態を表示します。
入力方法スイッチ	多言語にわたる入力方法の機能を提供するボタンを表示します。

パネルの管理

以下の節では、パネルの管理方法について説明します。

新しいパネルを追加する

パネルを追加するには、パネルの空きスペースを右クリックし、「新規パネル」を選択します。 新しいパネルが Java Desktop System に追加されます。 新しいパネルにはオブジェクトは含まれていません。 利用者の環境に合わせて、新しいパネルをカスタマイズできます。

パネルを操作する

パネルを操作するには、パネル上の空いているスペースで、左クリック、右クリック、または中央クリックします。 パネルに空きスペースがない場合は、非表示ボタンのいずれか 1 つを中央クリックまたは右クリックすることで、パネルを選択できます。 パネル上で非表示ボタンが見えない場合は、パネルの設定を変更して、非表示ボタンを可視にします。

次のようにマウスボタンを使用して、パネルを操作できます。

中央クリック　　パネルをつかんで、別の場所にドラッグできる

右クリック　　パネルポップアップメニューを開く

パネルを移動する

パネルは別の場所に移動できます。 パネルを移動するには、パネル上の空いているスペースで中央クリックし、中央ボタンを押したままそのパネルを別の場所にドラッグします。

パネルを隠す

パネルを隠したり、表示したりすることができます。 パネルを隠すには、非表示ボタンを使用します。 パネル上で非表示ボタンが見えない場合は、パネルの設定を変更して、非表示ボタンを可視にします。

非表示ボタンは、パネルの両端にあります。 非表示ボタンには、オプションの矢印アイコンが含まれています。 次の図に、非表示ボタンを示します。

パネルを隠すには、非表示ボタンのいずれか 1 つをクリックします。 パネルは、非表示ボタン上の矢印方向に縮小します。 パネルのもう一方の端にある非表示ボタンは、可視のままです。

隠したパネルを再表示するには、可視の非表示ボタンをクリックします。 パネルは、非表示ボタン上の矢印方向に拡大します。 両方の非表示ボタンが可視になります。

パネルは、オートハイド (自動的に隠す) に設定できます。 オートハイドを設定すると、マウスがパネルをポイントしていない場合は、パネルが自動的に隠れます。 パネルが存在している画面の一部をポイントすると、そのパネルが再び表示されます。 パネルをオートハイドに設定するには、パネルの設定を変更します。

パネルの設定を変更する

すべてのパネルの設定を変更するには、「パネル」 設定ツールで必要な変更を行います。 たとえば、パネルのアニメーション設定を変更することができます。

個々のパネルに対して、それぞれ設定を変更することもできます。 パネルの位置、隠す場合の動作、視覚的な外観など、各パネルの特長を変更することができます。

パネルの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. パネル上の空いているスペースで右クリックし、「設定」を選択して「パネルの設定」ダイアログを表示します。 「パネルの設定」ダイアログには、次のタブセクションがあります。
   - 「一般」
   - 「背景」
2. パネルのサイズ、位置、非表示プロパティを変更するには、 「一般」タブをクリックします。 次の表に、「一般」タブセクションのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	説明
「名前」	パネルの名前を入力する。 パネルとデスクトップの切り替えにショートカットキーを使用する場合、このパネル名が表示される
「向き」	画面上のパネルの位置を選択。 パネルの変更位置をクリックする
「サイズ」	パネルのサイズを指定する
「広げる」	パネルのある画面の長さ最大までパネルを拡大する
「自動的に隠す」	自動的に隠すを有効にする
「非表示ボタンを表示」	パネル上で非表示ボタンを表示する
「非表示ボタンを矢印表示」	非表示ボタンが有効な場合に、非表示ボタン上に矢印を表示する

3. パネルの背景を変更するには、「背景」タブをクリックします。 パネルの背景タイプを選択します。 選択は次のとおり

ダイアログ要素	説明
「なし **(**システムのテーマを使用する**)**」	デフォルトのパネル背景を使用する。 デフォルトのパネル背景は、「テーマ」設定ツールの設定によって異なる
「単一色」	パネル背景を 1 色指定する。 「色」ボタンをクリックして、カラー選択ダイアログを表示する。 任意の色を「色の選択」ダイアログから選ぶ 「スタイル」スライダで、色の透明度または不透明度を指定する。 たとえば、パネルを透明にするには、スライダを「透過」の端まで移動する。

ダイアログ要素	説明
「背景の画像」	パネル背景の画像を指定する。 ドロップダウンコンビネーションボックスに使用する画像のファイル名を入力する。 または、「参照」ボタンをクリックしてファイルをブラウズする。 ファイルを選択したら、「了解」をクリックする

色または画像をパネルにドラッグして、それをパネルの背景として設定することもできます。 詳細については、55 ページの「パネルの背景に色または画像をドラッグする」を参照してください。

4. 「閉じる」をクリックして、「パネルの設定」ダイアログを閉じます。

パネルの背景に色または画像をドラッグする

色または画像をパネルにドラッグして、それをパネルの背景として設定できます。 色または画像は、多数のアプリケーションからドラッグできます。 たとえば、ファイルマネージャの色をパネルにドラッグして、パネルの背景として設定できます。 任意の「色の選択」ダイアログから色をドラッグすることもできます。

画像をパネルにドラッグして、それをパネルの背景として設定できます。 パターン画像をファイルマネージャからドラッグして、パネルの背景に設定することもできます。

パネルを削除する

Java Desktop System からパネルを削除するには、削除したいパネルで右クリックし、「パネルを削除」を選択します。

注 – Java Desktop System には必ずパネルが 1 つ必要です。 Java Desktop System にパネルが 1 つしかない場合、そのパネルは削除できません。

パネルオブジェクト

この節では、パネルに追加できるオブジェクト、およびパネルから使用できるオブジェクトについて説明します。

パネルオブジェクトを操作する

次のようにマウスボタンを使用して、パネルオブジェクトを操作できます。

左クリック	パネルオブジェクトを起動する
中央クリック	オブジェクトをグラブし、そのオブジェクトを別の場所にドラッグする
右クリック	パネルオブジェクトポップアップメニューを開く

パネルオブジェクトは、これとは異なる方法で操作します。 詳細については、59 ページの「パネルアプリケーションを選択する」を参照してください。

パネルにオブジェクトを追加する

パネルにオブジェクトを追加するには、次のいくつかの方法があります。

- パネルポップアップメニュー

  パネル上の空いているスペースで右クリックし、パネルポップアップメニューを開きます。 パネルポップアップメニューには、「パネルに追加」サブメニューがあります。 「パネルに追加」サブメニューを使用して、次のオブジェクトをパネルに追加できます。

  - 次のカテゴリのパネルアプリケーション:「アクセサリ」、「アミューズメント」、「インターネット」,「マルチメディア」、「ユーティリティ」。
  - 一般的なアクションにクイックアクセスするためのボタン:「ファイルの検索」ボタン、「強制終了」ボタン、「画面のロック」ボタン、「ログアウト」ボタン、「アプリケーションの実 行」ボタン、「スクリーンショット」ボタン、「デスクトップの表示」ボタン。
  - ランチャー
  - メニューのランチャー
  - メインメニュー
  - メニューバー
  - 引き出し

- 任意のメニュー

  任意のメニューでランチャーを右クリックすると、そのランチャーのポップアップメニューが開きます。 このポップアップメニューを使用して、パネルにランチャーを追加できます。

  メニュー、ランチャー、およびパネルアプリケーションをメニューからパネルにドラッグすることもできます。

- ファイルマネージャ

  各ランチャーは.desktop ファイルに対応します。 .desktop ファイルをパネルにドラッグすることで、そのランチャーをパネルに追加できます。

オブジェクトの設定を変更する

ランチャーや引き出しなどのパネルオブジェクトには、一連の関連付けられたプロパティがあります。 設定は、各オブジェクトのタイプにより異なります。 設定は、次のような詳細を指定します。

- アプリケーションを起動するコマンド
- メニューのソースファイルの位置
- オブジェクトを表すアイコン

オブジェクトの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. オブジェクトを右クリックして、図 3–1 に示すパネルオブジェクトポップアップメニューを開きます。

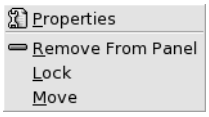


図 3–1 パネルオブジェクトポップアップメニュー

2. 「設定」を選択します。 「設定」ダイアログを使用して、必要に応じて設定を変更します。 「設定」ダイアログ内の設定は、手順 1 で選択したオブジェクトにより異なります。
3. 「OK」をクリックして変更を適用し、「設定」ダイアログを閉じます。

パネルオブジェクトを移動する

パネルオブジェクトはパネル内で移動することも、パネル間で移動することもできます。 また、パネルと引き出し間でオブジェクトを移動することもできます。

パネルオブジェクトを移動するには、オブジェクトを中央クリックし、ボタンを押したままそのオブジェクトを別の位置にドラッグします。 マウスの中央ボタンを放すと、そのオブジェクトが新しい位置に固定されます。

または、パネルオブジェクトポップアップメニューを使用してオブジェクトを移動することもできます。次の手順を実行します。

1. オブジェクトを右クリックし、「移動」を選択します。
2. オブジェクトの新しい位置をポイントし、任意のマウスボタンをクリックしてその位置にオブジェクトを固定します。 移動先は、Java Desktop System 上に現在あるパネルであれば、どのパネルでもかまいません。

パネルオブジェクトを動かすと、パネル上のほかのオブジェクトの位置に影響します。 パネル上でのオブジェクトの動きを制御するには、動作モードを指定します。 動作モードを指定するには、パネルオブジェクトを移動するときに次のいずれかのキーを押します。

キー	動作モード	説明
キー無し	スイッチ動作	オブジェクトは、ほかのパネルオブジェクトと位置が入れ替わる。 スイッチ動作は、デフォルトの動作モード
Alt キー	フリー動作	オブジェクトは、パネル上のほかのパネルオブジェクトを飛び越えて、次の空きスペースに移動する
Shift キー	プッシュ動作	オブジェクトは、パネルに沿ってほかのパネルオブジェクトをプッシュする

パネルオブジェクトをロックする

パネルオブジェクトをロックして、パネル上のオブジェクトの位置を固定できます。 一部のパネルオブジェクトの位置を変更しないで、他のパネルオブジェクトを移動するときに、この機能が役立ちます。

パネル上のオブジェクトの位置をロックするには、オブジェクトを右クリックしてパネルオブジェクトのポップアップメニューを開き、「ロック」を選択します。 オブジェクトのロックを解除するには、そのオブジェクトを右クリックし、「ロック解除」を選択します。

パネルオブジェクトを削除する

パネルからオブジェクトを削除するには、そのオブジェクトを右クリックし、パネルオブジェクトポップアップメニューを開いて、「パネルから削除」を選択します。

パネルアプリケーション

パネルアプリケーションとは、小さなアプリケーションで、そのユーザーインターフェイスはパネル内にあります。 たとえば、以下の図は、左から順に次のパネルアプリケーションを示しています。

- ウィンドウリスト: システムで現在開いているウィンドウを表示する

- CD プレーヤー : システムの CD を制御する
- ボリュームコントロール : システムのスピーカの音量を制御する

アプリケーションをパネルに追加する

アプリケーションをパネルに追加するには、パネルポップアップメニューを使用します。 パネル上の空いているスペースで右クリックし、パネルポップアップメニューを開きます。 「パネルに追加」を選択して、次のいずれかのサブメニューから追加するパネルアプリケーションを選びます。

- 「アクセサリ」
- 「アミューズメント」
- 「インターネット」
- 「マルチメディア」
- 「ユーティリティ」

サブメニューからパネルアプリケーションをドラッグして、パネルに追加することもできます。

パネルアプリケーションを選択する

パネルアプリケーションの設定を変更するには、最初にパネルアプリケーションを右クリックして、パネルオブジェクトポップアップメニューを表示します。 パネルアプリケーションを移動するには、そのパネルアプリケーションを中央クリックします。

パネルオブジェクトポップアップメニューを表示したり、パネルアプリケーションを移動するには、以下に示すように、パネルアプリケーション上のクリックする場所に制約があります。

- 一部のパネルアプリケーションには、パネルアプリケーション特有のコマンドのポップアップメニューがあり、このメニューはパネルアプリケーションの特定の部分を右クリックした場合に開く。 たとえば ウィンドウリストパネルアプリケーションの場合、左側に垂直ハンドルがあり、右側にウィンドウを表すボタンがある。 ウィンドウリストパネルアプリケーションのパネルオブジェクトポップアップメニューを開くには、ハンドルを右クリックする必要がある。 右側にあるボタンを右クリックすると、ボタンのポップアップメニューが開く
- あるパネルアプリケーションには、パネルアプリケーションの選択に使用できない領域がある。 たとえば コマンドラインパネルアプリケーションには、コマンドを入力するためのフィールドがある。 このフィールドを中央クリックまたは右クリックしてパネルアプリケーションを選択することはできない。 代わりに、パネ

ルアプリケーションの別の部分を中央クリックまたは右クリックする

パネルアプリケーションの設定を変更する

パネルアプリケーションの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. パネルアプリケーションを右クリックして、「設定」を選択します。 「設定」ダイアログを使用して、設定を必要に応じて変更します。 パネルアプリケーションの設定は、パネルアプリケーションによって異なります。
2. 「閉じる」をクリックして、「設定」ダイアログを閉じます。

ランチャー

ランチャーをクリックすると、次のいずれかの操作を開始します。

- 特定のアプリケーションを起動する
- コマンドを実行する
- ファイルマネージャウィンドウでフォルダを開く
- 特定の *Uniform Resource Locator* (URL) でブラウザを開く。 URL は、Web 上の特定の位置を示すアドレス
- 特別な *Uniform Resource Identifiers* (URI) を開く。 Java Desktop System には、ファイルマネージャから特定の機能にアクセスするための特別な URI があります。

ランチャーは、Java Desktop System 上の次の場所にあります。

- パネル: パネルでは、ランチャーはアイコンとして表示される
- メニュー: メニューでは、ランチャーはメニュー項目として表示される。 通常、メニュー項目の横にアイコンがある
- デスクトップ: デスクトップでは、ランチャーはアイコンとして表示される

ランチャーの設定は変更できます。 たとえば、ランチャーの設定として、ランチャー名、ランチャーを表すアイコン、ランチャーの実行方法があります。

パネルにランチャーを追加する

パネルにランチャーを追加するには、次の方法を使用します。

- パネルポップアップメニュー

  新しくランチャーを作成するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「ランチャー」を選択します。 「ランチャーの作成」ダイアログが表示されます。 このダイアログに関する詳細については、61 ページ

の「「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成する」を参照してください。

既存のランチャーをパネルに追加するには、パネルポップアップメニューから「パネルに追加」→「アプリケーション」を選択します。 追加するランチャーをメニューから選びます。

- 任意のメニュー

  任意のメニューからパネルにランチャーを追加するには、次のいずれかの手順を実行します。

  - ランチャーを含むメニューを開く。 ランチャーをパネルにドラッグする
  - ランチャーの追加先のパネルで、そのランチャーを含むメニューを開く。 ランチャーのタイトルを右クリックする。 「ランチャーをパネルに追加」を選択する

- ファイルマネージャ

  ファイルマネージャからパネルにランチャーを追加するには、そのランチャー用の `.desktop` ファイルをファイルシステムから検索してください。 ランチャーを追加するには、`.desktop` ファイルをパネルにドラッグします。

「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成する

「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成するには、次の手順を実行します。

1. パネルの任意の部分を右クリックし、パネルポップアップメニューを開きます。 「パネルに追加」→「ランチャー」を選択して、「ランチャーの作成」ダイアログを表示します。
2. 「基本」タブセクションにランチャーの設定を入力します 次の表に、「基本」タブセクションのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	説明
「名前」	ランチャー名を指定する。 「拡張」タブを使用して、ランチャー名の翻訳を追加できる。 ここで指定した名前は、メニューまたはデスクトップにランチャーを追加したときに表示される
「一般名」	ランチャーが属するアプリケーションのクラスを指定する。 たとえば、gedit ランチャーの場合は、**`Text Editor`** と入力する。 「拡張」タブを使用して、「一般名」の翻訳を追加できる
「コメント」	ランチャーについての短い説明を入力する。 このコメントは、パネル上のランチャーアイコンをポイントしたときに表示されるツールチップになる。 「拡張」タブセクションを使用して、コメントの翻訳を追加できる

ダイアログ要素	説明
「コマンド」	ランチャーをクリックしたときに実行されるコマンドを指定する サンプルコマンドについては、次の節を参照すること
「タイプ」	このドロップダウンのコンビネーションボックスを使用して、ランチャーのタイプを指定する。 次の項目から選択する ■ 「アプリケーション」: アプリケーションを起動するランチャーを作成する ■ 「リンク」: URI にリンクしたランチャーを作成する
「アイコン」	ランチャーを表すアイコンを選択する。 アイコンを選択するには、「アイコンなし」ボタンをクリックする。 「アイコンを選択」 ダイアログが表示される。 ダイアログからアイコンを選択する。 別のディレクトリにあるアイコンを選択するには、「参照」をクリックする。 アイコンを選択したら「OK」をクリックする
「端末で実行」	アプリケーションまたはコマンドを端末ウィンドウで実行する場合に選択する。 アプリケーションまたはコマンドを実行するウィンドウが作成されない場合に、このオプションを選択する

3. ランチャーの追加設定を設定するには、「拡張」タブをクリックします。
4. 「拡張」タブセクションにランチャーの拡張設定を入力します。 次の表に、「拡張」タブセクションの上部にあるダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	説明
「実行前にチェック」	ランチャーを起動する前に、コマンドを入力して確認する。 コマンドが実行可能であり、パスに含まれている場合は、ランチャーがパネルに表示される
「ドキュメント」	ランチャーのヘルプファイルへのパスを入力する。 このフィールドにパスを入力すると、該当するアプリケーションに関するヘルプが、そのランチャーのポップアップメニューに表示される

5. 「基本」タブセクションの「名前」、「一般名」、および「コメント」フィールドの翻訳を追加することもできます。 翻訳を追加するには、「名前/コメントの翻訳」表に次のように翻訳説明を入力します。

フィールド	説明
最初のフィールド	追加する翻訳の言語を 2 文字コードで入力する
2 番目のフィールド	ランチャーの「名前」の翻訳を入力する

フィールド	説明
3 番目のフィールド	ランチャーの「一般名」の翻訳を入力する
4 番目のフィールド	ランチャーの「コメント」の翻訳を入力する

入力したあとで、「追加/設定」ボタンをクリックします。

翻訳を変更するには、その翻訳を選択します。 ダイアログの下の部分に、翻訳されたテキストが表示されます。 必要に応じてフィールドを変更したあと、「追加/設定」ボタンをクリックします。

翻訳を削除するには、その翻訳を選択し、「削除」ボタンをクリックします。

6. ランチャーを作成して「ランチャー設定」ダイアログを閉じるには、「OK」をクリックします。

ランチャーコマンド

「コマンド」フィールドで入力できるコマンドの種類は、「種類」ドロップダウンコンビネーションボックスで選択したオプションによって異なります。 「アプリケーション」を「種類」ドロップダウンコンビネーションボックスから選択した場合は、通常のコマンドを入力できます。 以下の表に、いくつかのサンプルコマンドと実行されるアクションを示します。

アプリケーションコマンドのサンプル	アクション
`gedit`	gedit テキストエディタアプリケーションを起動する
`gedit /user123/loremipsum.txt`	gedit テキストエディタアプリケーションで `/user123/loremipsum.txt` ファイルを開く
`nautilus /user123/Projects`	ファイルマネージャウィンドウで `/user123/Projects` を開く

「リンク」を「種類」ドロップダウンコンビネーションボックスから選択した場合は、リンクコマンドを入力できます。 以下の表に、いくつかのサンプルリンクコマンドと実行されるアクションを示します。

リンクコマンドのサンプル	アクション
`http://www.sun.com`	デフォルトブラウザで Sun Microsystems の Web サイトを開く

リンクコマンドのサンプル	アクション
`ftp://ftp.gnome.org`	デフォルトブラウザで GNOME FTP サイトを開く
`applications:///`	ファイルマネージャウィンドウで アプリケーションの場所を開く。 アプリケーションを起動するには、そのアプリケーションをダブルクリックする
`preferences:///`	ファイルマネージャウィンドウで 「設定」の場所を開く。 設定ツールを起動するには、設定ツールをダブルクリックする

ランチャーの設定を変更する

ランチャーの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. ランチャーを右クリックして、パネルオブジェクトポップアップメニューを開きます。
2. 「設定」を選択します。 「ランチャーの設定」ダイアログを使用して、必要に応じて設定を変更します。 「ランチャーの設定」ダイアログの詳細については、61 ページの「「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成する」を参照してください。
3. 「閉じる」をクリックして、「ランチャーの設定」ダイアログを閉じます。

ボタン

ボタンをパネルに追加すると、一般的なアクションや機能にすばやくアクセスできます。

「ファイルの検索」ボタン

「ファイルの検索」ボタンを使って、「ファイルの検索」ダイアログを開きます。

パネルに「ファイルの検索」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。 「パネルに追加」、「アクション」、「ファイルの検索」の順に選択します。 「ファイルの検索」ダイアログを開くには、「ファイルの検索」ボタンをクリックします。

「強制終了」ボタン

「強制終了」ボタンを使用すると、アプリケーションを終了するウィンドウを選択できます。 コマンドに応答しないアプリケーションを終了する場合に、このボタンが役に立ちます。

アプリケーションを終了するには、「強制終了」ボタンをクリックして、終了するアプリケーションのウィンドウをクリックします。 「強制終了」ボタンをクリックした後にアプリケーションの終了をキャンセルするには、Esc キーを押します。

「画面のロック」ボタン

「画面のロック」ボタンは画面をロックして、スクリーンセーバーを起動します。 再びセッションにアクセスするには、パスワードを入力する必要があります。 画面を正しくロックするには、スクリーンセーバーを有効に設定しておく必要があります。

パネルに「画面のロック」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。 「パネルに追加」、「アクション」、「画面のロック」の順に選択します。

「画面のロック」ボタンを右クリックして、スクリーンセーバー関連コマンドのメニューを開きます。 表 3–1 に、メニューから利用可能なコマンドを示します。

表 3–1 スクリーンロックメニュー項目

メニュー項目	機能
「スクリーンセーバーを実行」	すぐにスクリーンセーバーを起動し、画面はロックしない
「画面のロック」	すぐに画面をロックする。 このコマンドは、「ロック」ボタンをクリックした場合と同様の機能を行う
「スクリーンセーバーデーモンを強制終了」	スクリーンセーバープロセスを終了する。 スクリーンセーバープロセスを終了したあとは、画面をロックできない
「スクリーンセーバーデーモンを再起動」	スクリーンセーバープロセスを終了し再起動する。 パスワードを変更したあとで、このコマンドを使用する。 スクリーンセーバープロセスを再起動するとき、スクリーンセーバーの新しいパスワードを使用する
「プロパティ」	**XScreenSaver** 設定ツールを表示する

「ログアウト」ボタン

「ログアウト」ボタンは、Java Desktop System セッションをログアウトするプロセスを開始します。

パネルに「ログアウト」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「ログアウト」の順に選択します。 セッションを終了、またはシステムを停止するには、「ログアウト」ボタンをクリックします。

「アプリケーションの実行」ボタン

「アプリケーションの実行」ボタンで「アプリケーションの実行」ダイアログを開くことができます。

パネルに「アプリケーションの実行」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「アプリケーションの実行」の順に選択します。「アプリケーションの実行」ダイアログを開くには、「アプリケーションの実行」ボタンをクリックします。

「スクリーンショット」ボタン

「スクリーンショット」ボタンを使って画面のスクリーンショットを撮ることができます。

パネルに「スクリーンショット」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「スクリーンショット」の順に選択します。 画面のスクリーンショットを撮るには、「スクリーンショット」ボタンをクリックします。

「デスクトップの表示」ボタン

「デスクトップの表示」ボタンを使って、開いているすべてのウィンドウを最小化し、デスクトップを表示できます。

パネルに「デスクトップの表示」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「デスクトップの表示」の順に選択します。 すべてのウィンドウを最小化し、デスクトップを表示するには、「デスクトップの表示」ボタンをクリックします。

通知スペース

通知スペースは、アプリケーションのアクティビティを示す各種アプリケーションのアイコンを表示します。 たとえば、CD プレーヤーアプリケーションを使って CD を再生すると、通知スペースに CD アイコンが表示されます。 上の図には、通知スペース内の CD アイコンが示されています。

通知スペースをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。 「パネルに追加」、「ユーティリティ」、「通知スペース」の順に選択します。

メニュー

次のタイプのメニューをパネルに追加できます。

- 「起動」: 「起動」ボタンを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。 「起動」ボタンをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メインメニュー」を選択します。 パネルに追加できる 「起動」 ボタンの数に制限はありません。
- メニューバー: メニューバーのメニューを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。 メニューバーには、「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューがあります。 メニューバーをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メニューバー」を選択します。 パネルに追加できる メニューバーオブジェクトの数に制限はありません。
- システムメニュー: システムメニューには、Java Desktop System 上で使用できる標準のアプリケーションとツールが含まれています。 「アプリケーション」メニューおよび「アクション」メニューは、システムメニューです。 システムメニューをパネルに追加するには、そのメニューのランチャーを右クリックし、「メニュー全体」→「メニューとしてパネルに追加」を選択します。

パネルに追加するメニューは、矢印が付いたアイコンで表されます。 矢印は、そのアイコンがメニューまたは引き出しを表すことを示します。 図 3–2 は、パネル上に表示される標準的なメニューを示しています。

図 **3–2** パネル上の標準的なメニューオブジェクト

引き出し

引き出しは、パネルの拡張機能の 1 つです。 引き出しは、パネルを表示したり隠したりするのと同じ方法で、開いたり閉じたりできます。 引き出しは、ランチャー、メニュー、ほかのパネルオブジェクト、およびほかの引き出しなど、すべてのパネルオブジェクトを含むことができます。 引き出しを開くと、パネル上のオブジェクトを使用するのと同様の方法でオブジェクトを使用できます。

次の図に、2 つのパネルオブジェクトを含む開いた引き出しを示します。

引き出しアイコン上の矢印は、そのアイコンが引き出しまたはメニューを表すことを示します。

引き出しに対するオブジェクトの追加、移動、および削除は、パネルに対するオブジェクトの追加、移動、および削除と同じ方法で行えます。

引き出しを開くまたは閉じる

引き出しを開くには、パネル内の引き出しオブジェクトをクリックします。 引き出しは、次の方法で閉じることができます。

- 引き出しをクリックする
- 引き出し非表示ボタンをクリックする

引き出しをパネルに追加する

引き出しは、次の方法でパネルに追加できます。

- パネルポップアップメニュー

パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「引き出し」を選択します。

- 任意のメニュー

  メニューは、引き出しオブジェクトとしてパネルに追加できます。

  メニューを引き出しとしてパネルに追加するには、パネルからメニューを開きます。 メニュー内の任意のランチャーを右クリックし、「メニュー全体」→「引き出しとしてパネルに追加」を選択します。

オブジェクトを引き出しに追加する

パネルに追加するのと同じように、オブジェクトを引き出しに追加します。 詳細については、56 ページの「パネルにオブジェクトを追加する」を参照してください。

引き出し設定を変更する

すべてのパネルと引き出しの設定を変更するには、Panel 設定ツールを使用します。 たとえば、パネルおよび引き出しでのオブジェクトの外観および動作に関連するさまざまなオプションを選択できます。 引き出しにのみ関連するオプションを選択することもできます。 たとえば、引き出し内のランチャーをクリックしたときに引き出しを閉じるオプションを選択できます。

個々の引き出しに対して、別々の設定を変更することもできます。 引き出しの視覚的な外観、引き出しに非表示ボタンがあるかどうかなど、各引き出しの特長を変更することができます。

引き出しの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. 引き出しを右クリックし、「設定」を選択して「パネルの設定」ダイアログを表示します。 ダイアログの「一般」タブセクションが表示されます。
2. ダイアログで引き出しの設定を選択します。 次の表に、「一般」タブセクションの要素を示します。

ダイアログ要素	説明
「名前」	パネルの名前を入力する。 パネルとデスクトップの切り替えにショートカットキーを使用する場合、このパネル名が表示される
「サイズ」	パネルのサイズを選択する

ダイアログ要素	説明
「アイコン」	引き出しを表すアイコンを選択する。「アイコン」ボタンをクリックすると、「アイコンセレクタ」ダイアログが表示される。 ダイアログからアイコンを選択する。「参照」をクリックすると、別のディレクトリにあるアイコンを選択できる。 アイコンを選択したら、「了解」をクリックする
「非表示ボタンを表示」	パネル上で非表示ボタンを表示する
「非表示ボタンを矢印表示」	非表示ボタンが有効な場合に、非表示ボタン上に矢印を表示する

3. 「背景」タブセクションを使用して、引き出しの背景を設定できます。「背景」タブセクションに関する詳細については、この項目の 53 ページの「パネルの設定を変更する」の手順を参照してください。 色または画像を引き出しにドラッグして、それを引き出しの背景として設定することもできます。 詳細については、55 ページの「パネルの背景に色または画像をドラッグする」を参照してください。
4. 「閉じる」をクリックして、「パネルの設定」ダイアログを閉じます。

第 4 章

メニューの操作方法

この章では、Java Desktop System でのメニューの操作方法について説明します。

メニューの概要

Java Desktop System のすべての機能には、メニューからアクセスできます。 メニューをパネルに追加し、メニューとパネルを組み合わせて作業を実行できます。 メニュー項目をパネルにコピーするなど、さまざまな操作をメニューに割り当てて実行できます。

Java Desktop System では次のメニューにアクセスできます。

- 「起動」ボタン:「起動」ボタンから「アプリケーション」のメニューにアクセスできます。 パネル上に多数の「起動」ボタンを表示させることができます。
- メニューバー: メニューバー からは、「アプリケーション」 メニューと 「アクション」 メニューにアクセスできます。 パネル上に多数のメニューバー アプレットを表示させることができます。
- 「アプリケーション」メニュー:「 アプリケーション」メニューから、多数のアプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。
- 「アクション」メニュー:「アクション」メニューから、さまざまな作業を実行できるコマンドにアクセスできます。 たとえば、検索ツールを起動したり、Java Desktop System からログアウトしたりできます。

デスクトップで右クリックして、「デスクトップ」メニューを開くこともできます。「デスクトップ」メニューでは、デスクトップに関連する作業を実行できます。

これらすべてのメニューにより、多様な手段で作業を行えるため、好みの方法で作業できます。

メニューの特長

メニューには次の項目があります。

- サブメニュー
- ランチャーまたはメニュー項目

メニュー項目の右側にある矢印は、その項目にサブメニューがあることを示します。サブメニューにマウスのカーソルを置くと、サブメニューが開きます。 サブメニューから項目を選ぶことができます。

ランチャーを選んだ場合は、そのランチャーはアプリケーションを起動するか、コマンドを実行します。 ランチャーを右クリックして、ポップアップメニューを開くこともできます。 ポップアップメニューでは、パネルに項目を追加したり、ほかの作業を実行したりできます。 ポップアップメニューに関する詳細については、次の節を参照してください。

セッションのテーマを変更して、メニューの外観を変更することができます。 テーマを変更するには、テーマ 設定ツールを使用します。

メニュー項目のポップアップメニュー

メニュー上の項目には、関連するポップアップメニューがあり、この項目に関連する作業は、このポップアップメニューを使用して実行できます。 メニュー上の項目を右クリックすると、その項目のポップアップメニューが開きます。 ポップアップメニューにはサブメニューが含まれており、メニューに関連する作業を実行できます。

メニュー項目のポップアップメニューを使用して、次の作業を実行できます。

- メニュー項目をランチャーとしてパネルに追加する。
- メニューから項目を削除する。
- ダイアログのメニュー項目コマンドで、「アプリケーションの実行」ダイアログを開く。
- メニューをパネルに追加する。 メニューは、メニューオブジェクトまたは引き出しオブジェクトとして追加できる。
- 新しい項目をメニューに追加する。
- サブメニューおよびメニュー項目の設定を変更する。

図 4–1 にポップアップメニューを示します。

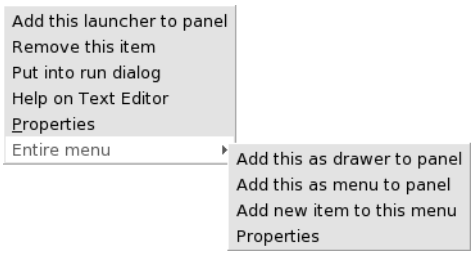


図 **4–1** メニュー項目のポップアップメニュー

表 4–1 メニュー項目のポップアップメニューを説明しています。

表 **4–1** メニュー項目のポップアップメニュー

項目	説明
「ランチャーをパネルに追加」	メニューを開くパネルにランチャーを追加する
「ランチャーをメニューから削除」	メニューからランチャーを削除する
「プログラムを実行」	「プログラムを実行」ダイアログを表示する。「プログラムを実行」ダイアログにはコマンドフィールドにある「コマンド」フィールドからのコマンドが含まれる
*application-name*のヘルプ	アプリケーションのオンラインヘルプを開く
「設定」	ランチャーの設定を変更できるダイアログを表示する
「メニュー全体」→「引き出しとしてパネルに追加」	メニューを開くパネルに引き出しとしてサブメニューを追加する
「メニュー全体」→「メニューとしてパネルに追加」	メニューを開くパネルにメニューオブジェクトとしてサブメニューを追加する
「メニュー全体」→「ランチャーをメニューに追加」	サブメニューに項目を追加できる
「メニュー全体」→「設定」	サブメニューの設定を変更できるダイアログを表示する

アプリケーションメニュー

「アプリケーション」メニューには、階層構造のサブメニューがあり、サブメニューから標準の Java Desktop System アプリケーションおよび設定ツールを起動できます。

「アプリケーション」メニューには、次の場所からアクセスできます。

- 「起動」ボタン
- メニューバー

「アクション」メニュー

「アクション」メニューには、Java Desktop System でさまざまな作業を実行するのに使用するコマンドが含まれています。 表 4–2に、「アクション」メニューのコマンドを示します。

表 **4–2** 「アクション」メニューのコマンド

メニュー項目	機能
「アプリケーションの実行」	「アプリケーションの実行」ダイアログを開く。 「アプリケーションの実行」ダイアログを使用してコマンドを実行する。 詳細については、74 ページの「「アプリケーションの実行」ダイアログの使用」を参照してください
「最近使用したドキュメント」	最近保存したファイル 10 個のサブメニューを表示する
「スクリーンショット」	画面のスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。 スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用する
「ファイルの検索」	検索ツールを起動する
「画面のロック」	画面をロックする
「ログアウト」	現在のセッションをログアウトする

「アクション」メニューの項目には、次の場所からアクセスできます。

- 「起動」ボタン
- メニューバー

「アプリケーションの実行」ダイアログの使用

「アプリケーションの実行」ダイアログでは、コマンドラインにアクセスできます。「アプリケーションの実行」ダイアログでコマンドを実行した場合、コマンドからの出力は受け取れません。

コマンドラインからコマンドを実行するには、次の手順を実行します。

1. 「アプリケーションの実行」ダイアログを表示します。 「アプリケーションの実行」ダイアログは、次の方法で表示できます。

- 任意のパネルから

  「実行」ボタンをパネルに追加します。 パネルを右クリックし、「パネルに追加」、「アクション」、「実行」の順に選択します。 「実行」ボタンをクリックします。
- 「起動」 ボタンから

  「起動」をクリックし、「アプリケーションの実行」を選択します。
- メニューバー から

  「アクション」→「アプリケーションの実行」を選択します。
- ショートカットキーを使用

  「アプリケーションの実行」ダイアログを表示するデフォルトのショートカットキーは、Windows ロゴ + R (Super + R) キーです。 ショートカットキーは、キーボードショートカット設定ツールで変更できます。
- メニュー項目のポップアップメニューから

  メニュー上の項目を右クリックし、ポップアップメニューから「プログラムを実行」を選択します。 「アプリケーションの実行」ダイアログが開き、コマンドフィールドにメニューからのコマンドが表示されます。

2. 実行するコマンドを空白のフィールドに入力します。 あるいは、以前に実行したコマンドを選択する場合は、コマンドフィールド横の下矢印ボタンをクリックして、実行するコマンドを選びます。

   または、「既存のアプリケーション一覧」オプションを選択して、使用可能なアプリケーションのリストを表示します。

   「ファイルを引数として実行」ボタンを使用して、コマンドラインに追加するファイルを選ぶこともできます。 たとえば、コマンドとして emacs を入力し、次に、編集するファイルを選びます。

   アプリケーションまたはコマンドを端末ウィンドウで実行するには、 「端末内で実行」オプションを選択します。 アプリケーションまたはコマンドを実行するウィンドウが作成されない場合に、このオプションを選択します。
3. 「アプリケーションの実行」ダイアログの「実行」ボタンをクリックします。

スクリーンショットを撮る

次の方法を使用して、スクリーンショットを撮ることができます。

- 任意のパネルから

  1. 「スクリーンショット」ボタンをパネルに追加します。
  2. パネルを右クリックし、 「パネルに追加」 、「アクション」 、 「スクリーンショット」の順に選択します。
  3. 「スクリーンショット」ボタンをクリックし、画面全体のスクリーンショットを撮ります。
  4. スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

- ショートカットキーを使用

  次のショートカットキーを使用して、スクリーンショットを撮ることができます。

デフォルトのショートカットキー	機能
Print Screen	画面全体のスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。 スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること
Alt + Print Screen	マウスが指しているウィンドウのスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。 スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

  デフォルトのショートカットキーは、キーボードショートカット 設定ツールを使用して変更できます。

- メニューバー から

  画面全体のスクリーンショットを撮るには、「アクション」→「スクリーンショット」を選択します。 「スクリーンショットの保存」ダイアログが表示されます。 スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットをファイルに保存」オプションを選択します。 スクリーンショットのパスとファイル名をドロップダウンコンビネーションボックスに入力します。 スクリーンショットを別のディレクトリに保存する場合は、「参照」をクリックします。 ディレクトリを選択して、「了解」をクリックします。

  スクリーンショットは、デスクトップに保存することもできます。 スクリーンショットをデスクトップに保存するには、「スクリーンショットをデスクトップに保存」 オプションを選択します。

- コマンドを使用

  `gnome-panel-screenshot` コマンドを使用してスクリーンショットを撮ることができます。 `gnome-panel-screenshot` コマンドは画面全体のスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示します。 スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

  `gnome-panel-screenshot` コマンドには、次のオプションを指定できます。

オプション	機能
`--window`	フォーカスしているウィンドウのスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。 スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

オプション	機能
`--delay=`*seconds*	指定した秒数を経過したあと、スクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。 スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること
`--help`	コマンドのオプションを表示する

「起動」ボタン

「起動」ボタン からは、「アプリケーション」メニューや「アクション」メニューの多くの項目にアクセスできます。 「起動」ボタンを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。

「起動」ボタンはパネルに追加できます。

「起動」ボタンにアクセスする

「起動」ボタンは、次の方法でアクセスできます

- 「起動」ボタンを選択できるパネルから

  「起動」をクリックします。
- ショートカットキーを使用

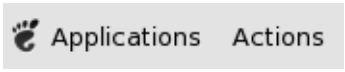
  ショートカットキーを使用して「起動」を開きます。

  「起動」を開くデフォルトのショートカットキーは、 Ctrl + Esc キーです。 「起動」を開くショートカットキーを変更するには、キーボードショートカット設定ツールを使用します。

パネルに「起動」ボタンを追加する

パネルに追加できる 「起動」 ボタンの数に制限はありません。 パネルに「起動」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。 「パネルに追加」 、「メインメニュー」を選択します。

メニューバー



メニューバー からは、「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューにアクセスできます。 メニューバーを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。

メニューバーをパネルに追加する

パネルに追加できるメニューバーパネルアプリケーションの数に制限はありません。メニューバーをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。 「パネルに追加」、 「メニューバー」を選択します。

メニューのカスタマイズ

次のメニューの内容を変更できます。

- 「アプリケーション」メニュー
- 「設定」メニュー

次の Java Desktop System コンポーネントを使用してメニューをカスタマイズします。

- パネル上のメニュー
- ファイルマネージャ

パネルを使用してメニューをカスタマイズする場合は、メニュー項目のポップアップメニューを使用します。 詳細については、72 ページの「メニュー項目のポップアップメニュー」を参照してください。

ファイルマネージャを使用してメニューをカスタマイズするには、ファイルマネージャ内から「アプリケーション」メニューまたは「設定」メニューにアクセスします。 「アプリケーション」メニューまたは「設定」メニューにアクセスするには、ファイルマネージャウィンドウを開きます。

ファイルマネージャ内のメニューにアクセスするには、ロケーションバーのフィールドに以下の URI のどれかを入力します。

メニュー	入力する **URI**
「アプリケーション」メニュー	`applications:///`
「設定」メニュー	`preferences:///`

メニューを追加する

メニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、メニューを追加する場所にアクセスします。 たとえば、メニューを「アプリケーション」メニューに追加するには、ロケーションバーのフィールドに `applications:///` を入力します。
2. 「ファイル」→「フォルダの作成」を選択します。 未タイトルのフォルダが表示区画に追加されます。 フォルダの名前が選択されています。
3. フォルダの名前を入力して、Return キーを押します。

次回ログアウト後にログインしたときに、そのメニューは割り当てられた位置にあります。

メニューにランチャーを追加する

メニューにランチャーを追加するには、次の手順を実行します。

1. ランチャーを追加するメニュー内の項目を右クリックします。
2. 「メニュー全体」→「ランチャーをメニューに追加」を選択します。
3. 「ランチャーの作成」ダイアログで、ランチャーの設定を入力します。
4. 「了解」をクリックします。

空のメニューにランチャーを追加する

空のメニューにランチャーを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、ランチャーを追加するメニューにアクセスします。
2. 「ファイル」→「ランチャーの作成」を選択します。
3. 「ランチャーの作成」ダイアログで、ランチャーの設定を入力します。
4. 「了解」をクリックします。

メニューにランチャーをコピーする

メニューに既存のランチャーをコピーするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、ランチャーのコピー元の場所にアクセスします。 たとえば、ランチャーを「アプリケーション」メニューからコピーするには、ロケーションバーのフィールドに `applications:///` を入力します。
2. コピーするランチャーを選択して、「編集」→「ファイルのコピー」を選択します。
3. ファイルマネージャウィンドウで、ランチャーのコピー先の場所にアクセスします。
4. 「編集」→「ファイルの貼り付け」を選択します。 ランチャーが新しい位置に追加されます。

または、ランチャーをコピー元の位置からコピー先の位置にドラッグすることもできます。

次回ログアウト後にログインしたときに、そのランチャーは新しいメニュー位置にあります。

メニューの設定を編集する

メニューの設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集するメニューで、任意の項目を右クリックします。
2. 「メニュー全体」→「設定」を選択します。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニューの設定を変更します。
4. 「了解」をクリックします。

メニュー項目を編集する

メニュー項目を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集する項目を右クリックします。
2. 「設定」を選択します。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでランチャーの設定を変更します。
4. 「了解」をクリックします。

メニューから項目を削除する

メニューから項目を削除するには、メニュー項目のポップアップメニューを使用します。 メニューから項目を削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除する項目を右クリックします。
2. 「ランチャーをメニューから削除」を選択します。

第 5 章

ウィンドウの操作方法

この章では、Java Desktop System のウィンドウの使用方法について説明します。 Java Desktop System では、Metacity および Sawfish など、いくつかのタイプのウィンドウマネージャを使用できます。 Metacity の機能の多くは、Sawfish でも使用できます。 この章では、Metacity ウィンドウマネージャに関連する機能について説明します。

ウィンドウとワークスペース

ウィンドウは、ワークスペースと呼ばれる Java Desktop System のサブ領域に分割して表示されます。 すべてのワークスペースのデスクトップ、パネル、メニューは同じです。 ただし、各ワークスペースで異なるアプリケーションを実行したり、異なるウィンドウを開くことができます。 1 度に表示できるワークスペースは 1 つだけですが、その他のワークスペースでウィンドウを開いたままにしておくことができます。

ワークスペーススイッチパネルアプリケーションは、ウィンドウとワークスペースの概略を視覚的に示すものです。図 5–1 を参照してください。

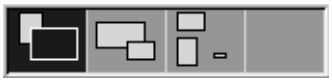


図 5–1 ワークスペーススイッチパネルアプリケーション

ワークスペースはいつでも追加できます。 ワークスペースを Java Desktop System に追加するには、ワークスペーススイッチパネルアプリケーションを右クリックし、「設定」を選択します。 「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。 「ワークスペースの数」スピンボックスを使用して、追加するワークスペースの数を指定します。

ウィンドウマネージャの動作

ウィンドウマネージャは、ウィンドウがどのように表示され、どのように動作するかを制御します。 また、ウィンドウの位置とフォーカスされるウィンドウも管理します。 ウィンドウフレームには、ウィンドウの移動、閉じる、サイズ変更など、標準の操作を実行できるボタンがあります。

いくつかのウィンドウマネージャ設定は、ウィンドウの動作設定ツールで構成できます。このマニュアルでは、Metacity ウィンドウマネージャのデフォルトの設定に関する機能について説明します。 デフォルト設定は、「ウィンドウの動作」設定ツールで指定されています。

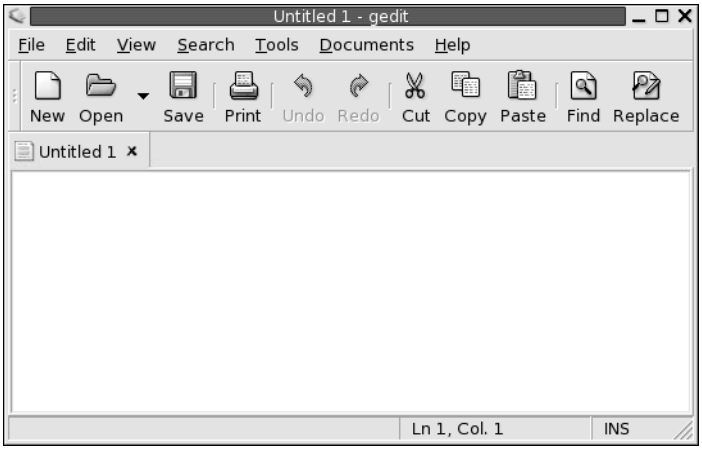
ウィンドウの種類

Java Desktop System の特長となっているウィンドウを次に説明します。

- アプリケーションウィンドウ

  アプリケーションを起動すると、アプリケーションウィンドウが開きます。ウィンドウマネージャは、アプリケーションウィンドウにフレームを提供します。デフォルトでは、アプリケーションウィンドウのトップエッジにタイトルバーが表示されます。 タイトルバーにはウィンドウでの作業に使用できるボタンがあります。 アプリケーションウィンドウフレームのボタンを使用して、ウィンドウメニューを開いたり、ウィンドウを閉じたりする操作を実行できます。 ウィンドウメニューから、ウィンドウ上で実行できる多数の操作を開始できます。

  次の図に、標準的なアプリケーションウィンドウを示します。



- ダイアログウィンドウ

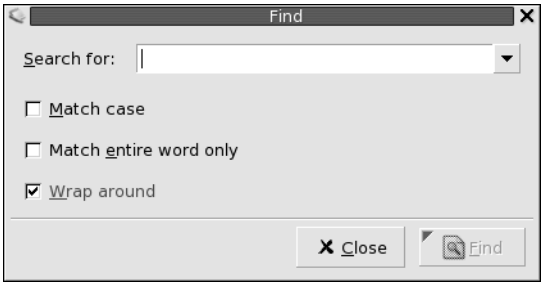
ダイアログウィンドウは、情報やコマンドを入力するポップアップウィンドウです。 ダイアログは、ウィンドウフレーム内に表示されます。

ウィンドウを操作するには、フレームのトップエッジを使用します。 たとえば、タイトルバーを使用してダイアログを移動できます。 フレームには、次の操作に使用できるボタンがあります。

- ウィンドウメニューを開く
- ダイアログウィンドウを閉じる

一般的に、ダイアログウィンドウは、アプリケーションウィンドウから開きます。 ダイアログウィンドウを開くと、通常、ウィンドウが立ち上がり、アクティブになります。 ダイアログウィンドウのなかには、ダイアログを閉じなければアプリケーションを使用できないものもあります。

次の図に、標準的なダイアログウィンドウを示します。



ウィンドウフレーム

ウィンドウフレームは、ウィンドウのまわりの境界です。 ウィンドウフレームにはタイトルバーがあります。 タイトルバーにはウィンドウでの作業に使用できるボタンがあります。

テーマ

ウィンドウフレームには、いくつかのテーマを適用できます。 テーマを選択して、フレームの外観を決定します。 すべてのウィンドウフレームのテーマを選択するには、テーマ設定ツールを使用します。

制御要素

ウィンドウフレームを使用して、さまざまな操作をウィンドウで実行できます。 タイトルバーには、各種ボタンが含まれています。 次の図に、アプリケーションウィンドウのタイトルバーを示します。

ダイアログウィンドウには、いくつかのウィンドウフレーム制御要素があります。 表 5–1 は、左から順にアクティブな制御要素を示します。

表 **5–1** ウィンドウフレームの制御要素

制御要素	説明
ウィンドウメニューボタン	ボタンをクリックして、ウィンドウメニューを開く
タイトルバー	タイトルバーを使用して、次の操作を実行できる ■ ウィンドウをアクティブにするには、タイトルバーをクリックする ■ ウィンドウを移動するには、タイトルバーをつかんで、別の位置までウィンドウをドラッグする ■ ウィンドウをシェードするには、タイトルバーをダブルクリックする。 ウィンドウをシェード解除するには、タイトルバーをもう一度ダブルクリックする
最小化ボタン	最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウが最小化する
最大化ボタン	最大化ボタンをクリックすると、ウィンドウが最大化する
ウィンドウを閉じるボタン	ウィンドウを閉じるボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じる
境界	ウィンドウのまわりの境界。 境界を使用して、次の操作を実行できる ■ ウィンドウのサイズを変更するには、境界をつかんで、希望するサイズまで境界をドラッグする ■ ウィンドウメニューを開くには、境界を右クリックする

表 **5–1** ウィンドウフレームの制御要素　(続き)

制御要素	説明
ウィンドウコンテンツ	ウィンドウフレームの内側の領域。 ウィンドウコンテンツを使用して、次の操作を実行できる ■ ウィンドウを移動するには、Alt キーを押したままで、ウィンドウコンテンツをクリックし、そのウィンドウを別の位置にドラッグする ■ ウィンドウのサイズを変更するには、Alt キーを押したままで、サイズを変更するコーナー付近で中央クリックする。 中央クリックしたコーナーから、変更したいサイズまでウィンドウをドラッグする ■ ウィンドウメニューを開くには、Alt キーを押したままで、ウィンドウコンテンツで右クリックする

ウィンドウおよびワークスペースでのメニューとパネルアプリケーションの使用方法

この節では、ウィンドウとワークスペースの操作に使用できるメニューおよびパネルアプリケーションについて説明します。

ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューは、コマンドのメニューであり、ウィンドウ上での操作に使用できます。 ウィンドウメニューを開くには、次のいずれかの操作を実行します。

- 操作対象のウィンドウで、ウィンドウメニューボタンをクリックする
- Alt + スペースバーを押す
- Alt キーを押したまま、操作対象のウィンドウの任意の部分で右クリックする

表 5–2 に、ウィンドウメニューのコマンドおよびサブメニューを示します。

表 **5–2** ウィンドウメニューのコマンドとサブメニュー

メニュー項目	機能
「最小化」	ウィンドウを最小化する

表 **5–2** ウィンドウメニューのコマンドとサブメニュー　*(続き)*

メニュー項目	機能
「最大化」または「元のサイズに戻す」	ウィンドウを最大化する。 ウィンドウがすでに最大化されている場合、「元のサイズに戻す」を選択するとウィンドウを元のサイズに戻す
「最前面」	そのウィンドウをデスクトップの背景上で開いているほかのウィンドウの上に表示する
「移動」	ウィンドウの移動に矢印キーを使用できる
「サイズ変更」	ウィンドウのサイズ変更に矢印キーを使用できる
「閉じる」	ウィンドウを閉じる
「すべてのワークスペースに含める」 または「このワークスペースだけに含める」	ウィンドウをすべてのワークスペースに配置する。 ウィンドウがすでにすべてのワークスペースに置かれている場合、「このワークスペースだけに含める」を選択すると、現在のワークスペースにのみウィンドウを配置する
「右のワークスペースへ移動」または「左のワークスペースへ移動」	ウィンドウを現在のワークスペースの右側のワークスペースに移動する。 そのウィンドウがすでにワークスペーススイッチの右側の右端のワークスペースにある場合は、「左のワークスペースへ移動」を選択して、現在のワークスペースの左側のワークスペースにウィンドウを移動する
「別のワークスペースへ移動する」	ウィンドウを別のワークスペースに移動する。 ウィンドウの移動元のワークスペースをサブメニューから選択する

ウィンドウリスト

ウィンドウリストは、開いている各アプリケーションウィンドウを示すボタンを表示します。 ウィンドウリストを使用して、次の作業を実行できます。

- ウィンドウの最小化

  ウィンドウを表すボタンをクリックします。
- 最小化されたウィンドウを復元する

  ウィンドウを表すボタンをクリックします。
- ウィンドウにフォーカスを当てる

  ウィンドウを表すボタンをクリックします。

アプリケーションウィンドウを開くと、ウィンドウリストには、ウィンドウを表すボタンが表示されます。 ウィンドウリストボタンは、どのアプリケーションウィンドウが開いているかを示します。 ウィンドウが最小化されていたり、ほかのウィンドウと重なっていても、開いているウィンドウは表示されます。 ウィンドウリストは、現在のワークスペース、またはすべてのワークスペース上のウィンドウを示すボタンを表示できます。 このオプションを選択するには、ウィンドウリストの設定を変更する必要があります。

ウィンドウリストボタンを右クリックして、ボタンが表すウィンドウの ウィンドウメニューを開くこともできます。 ウィンドウリストからウィンドウメニューを開いた場合、ウィンドウメニューにはワークスペースコマンドは含まれません。 ウィンドウメニューのコマンドの詳細については、85 ページの「ウィンドウメニュー」 を参照してください。

図 5–2 に、以下に示すウィンドウを開いたときのウィンドウリストを示します。

- gedit
- 辞書
- GHex
- GNOME 端末

図 **5–2** ウィンドウリストパネルアプリケーション

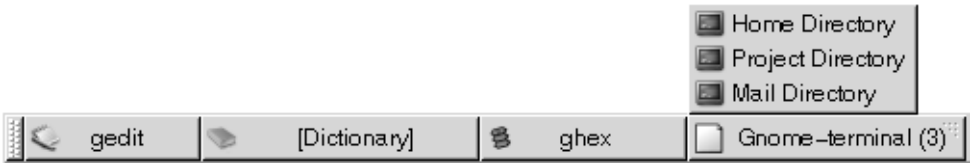
パネルアプリケーションのボタンは、ウィンドウの状態を示します。 表 5–3 は、ウィンドウリストボタンが表示するウィンドウについての情報を示します。 表 5–3 の例は、図 5–2 についての説明です。

表 **5–3** ウィンドウリストボタンのウィンドウの状態情報

状態	説明	例
ボタンが押されている	ウィンドウにフォーカスがある	**gedit**
角括弧で囲まれたウィンドウタイトル	ウィンドウが最小化されている	**[電卓]**
ボタンは押し込まれておらず、ウィンドウタイトルは角括弧で囲まれていない	ウィンドウが表示されており、最小化されていない	**ghex**
括弧内の数字が付いたボタン	ボタンのグループを表すボタン	端末 **(3)**

ボタンのグループ化

ウィンドウリストは、1 つのウィンドウリストボタンの下に、同じクラスのウィンドウを表すボタンをグループ化できます。 図 5–2 の「端末」ボタンは、ボタンのグループを表します。 次の図に、ボタングループを開いたウィンドウリストの例を示します。



グループ内のウィンドウのリストを開くには、そのグループを表すウィンドウリストボタンをクリックします。 リスト内の項目をクリックしてウィンドウにフォーカスを移動したり、最小化したり、サイズを元に戻したりすることができます。

ボタングループ内のウィンドウのウィンドウメニューを開くには、そのグループを表すウィンドウリストボタン上で右クリックします。 グループ内のウィンドウのリストが表示されます。 グループ内のウィンドウのウィンドウメニューを開くには、リスト内の項目をクリックします。 ウィンドウリスト からウィンドウメニュー を開いた場合、ウィンドウメニューにはワークスペースコマンドは含まれません。 ウィンドウメニューのコマンドの詳細については、85 ページの「ウィンドウメニュー」 を参照してください。

ワークスペーススイッチ

ワークスペーススイッチは、 図 5–3 に示すように、ワークスペースの概略を視覚的に表示します。 図 5–3 は、Java Desktop System セッションに 4 つのワークスペースがある場合のワークスペーススイッチを示しています。 ワークスペースは、パネルアプリケーション上でボタンとして表示されます。 ワークスペーススイッチの現在のワークスペースを表すボタンの背景は、強調表示されます。 図 5–3 の現在のワークスペースは、パネルアプリケーションの左端のワークスペースです。 別のワークスペースに切り替えるには、パネルアプリケーションのワークスペース上でクリックします。

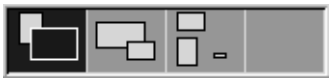


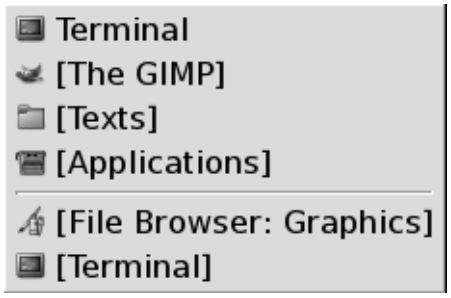
図 **5–3** ワークスペーススイッチパネルアプリケーション

ワークスペーススイッチは、ワークスペース上で開いているアプリケーションウィンドウとダイアログも表示します。

パネルアプリケーションは、左から右へ順番にワークスペースを表示します。 図 5–3 のパネルアプリケーションは、1 列でワークスペースを表示するように設定されています。 ワークスペースが表示される ワークスペーススイッチの列数は指定できます。 ワークスペーススイッチのデフォルトの動作を変更して、パネルアプリケーションにワークスペース名が表示されるようにすることもできます。

ウィンドウセレクタ

現在開いているすべてのウィンドウのリストを表示できます。 メニューパネルから、アクティブにするウィンドウを選択することもできます。 ウィンドウのリストを表示するには、ウィンドウセレクタパネルアプリケーションをクリックします。 次の図に、ウィンドウセレクタパネルアプリケーションの例を示します。



1 つのウィンドウにフォーカスを移動するには、ウィンドウセレクタパネルアプリケーションからそのウィンドウを選択します。

ウィンドウセレクタには、すべてのワークスペースのウィンドウがリストされます。現在のワークスペース以外のすべてのワークスペースのウィンドウは、セパレータから下に表示されます。

ウィンドウの操作方法

この節では、ウィンドウの操作方法について説明します。

ウィンドウにフォーカスを移動する

フォーカスされているウィンドウは、マウスとキーボードから入力できます。 一度にフォーカスできるのは 1 つのウィンドウだけです。 フォーカスされているウィンドウの外観は、ほかのウィンドウとは異なります。

次の方法により、ウィンドウをフォーカスできます。

要素	アクション
マウス	ウィンドウが可視の場合には、そのウィンドウをクリックする
ショートカットキー	ショートカットキーは、開いているウィンドウ間の切り替えに使用する。 あるウィンドウにフォーカスを移すには、そのウィンドウにフォーカスが移動したときにキーを放す。 ウィンドウ間を切り替える初期値のショートカットキーは、Alt + Tab キー
ウィンドウリスト	ウィンドウリストでフォーカスするウィンドウを表すボタンをクリックする
ワークスペーススイッチ	ワークスペーススイッチディスプレイで、フォーカスを移動するウィンドウをクリックする。 別のワークスペースのウィンドウをクリックした場合、ワークスペーススイッチは、そのワークスペースに切り替えて、ウィンドウにフォーカスを移動する

ウィンドウを最小化する

ウィンドウを最小化するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上の最小化ボタンをクリックする
- ウィンドウメニューを開き、「最小化」を選択する
- ウィンドウにフォーカスがある場合は、ウィンドウリストでそのウィンドウを表すボタンをクリックする。 ウィンドウにフォーカスがない場合は、ウィンドウを表すボタンを 2 回クリックする
- ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ポップアップメニューから「最小化」を選択する

ウィンドウを最大化する

ウィンドウを最大化する場合、ウィンドウは可能な限り広がります。 ウィンドウを最大化するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上の最大化ボタンをクリックする または、ウィンドウメニューを開いて、「最大化」を選択する
- ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ウィンドウメニューから「最大化」を選択する

ウィンドウを元のサイズに戻す

最大化したウィンドウを元のサイズに戻すには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上の最大化ボタンをクリックする

- ウィンドウメニューを開く。「元のサイズに戻す」を選択する
- ウィンドウリストでそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ウィンドウメニューを開く。「元のサイズに戻す」を選択する

最小化したウィンドウを元のサイズに戻すには、ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上でクリックします。

1 つのウィンドウをほかのウィンドウより上にする

1 つのウィンドウをほかのウィンドウより上にするには、ウィンドウメニューを開き、「最前面」を選択します。

ウィンドウを閉じる

ウィンドウを閉じるには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上のウィンドウを閉じるボタンをクリックする
- ウィンドウメニューを開く。「閉じる」を選択する
- ウィンドウリストでそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ウィンドウメニューから「閉じる」を選択する

そのウィンドウ上に保存していないデータがある場合、データを保存するかどうかを問うプロンプトが表示されます。

ウィンドウのサイズを変更する

ウィンドウのサイズを変更するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウのコーナーにマウスのカーソルを置く。ウィンドウをサイズ変更できるマウスポインタに変わる。コーナーをつかんで、希望のサイズまでウィンドウをドラッグする
- ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上で右クリックする。ウィンドウメニューから「サイズ変更」を選択する。ウィンドウのサイズ変更には矢印キーを使用する
- Alt キーを押したまま、サイズを変更するコーナー付近で中央クリックする。マウスポインタが変わり、コーナーからサイズ変更できる。中央クリックしたコーナーから、変更したいサイズまでウィンドウをドラッグする
- ウィンドウを横方向にサイズ変更するには、ウィンドウの縦のエッジの 1 つをポイントする。ウィンドウをサイズ変更できるマウスポインタに変わる。エッジをつかんで、希望のサイズまでウィンドウをドラッグする。
- ウィンドウを縦方向にサイズ変更するには、ウィンドウのボトムエッジにポインタを置く。ウィンドウをサイズ変更できるマウスポインタに変わる。エッジをつかんで、希望のサイズまでウィンドウをドラッグする。

注 – 一部のダイアログウィンドウはサイズ変更できません。 また、一部のアプリケーションウィンドウは、最小サイズが決まっており、それ以下に縮小できません。

ウィンドウを移動する

ウィンドウを移動するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウのタイトルバーをつかんで、別の位置までウィンドウをドラッグする
- Alt キーを押したままで、ウィンドウを別の位置までドラッグする
- ウィンドウメニューを開き、「移動」を選択する。 矢印キーを使用して、ウィンドウを別の位置に移動する
- ウィンドウリストで移動するウィンドウ上で右クリックし、ウィンドウメニューから「移動」を選択する。 矢印キーを使用して、ウィンドウを別の位置に移動する

ウィンドウを巻き上げる

以下のようにウィンドウを巻き上げたり巻き戻したりできます。

巻き上げる　タイトルバーだけが見えるように、ウィンドウを巻き上げる

巻き戻す　ウィンドウ全体が表示されるように、ウィンドウを巻き上げ状態から切り替える

ウィンドウを巻き上げるには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックする。 ウィンドウを巻き戻すには、タイトルバーをもう一度ダブルクリックする
- ウィンドウリスト内の巻き上げるウィンドウを表すボタンを右クリックし、ウィンドウメニューから「巻き上げる」を選択する。 ウィンドウを巻き戻すには、「巻き上げ解除」を選択する

すべてのワークスペースにウィンドウを配置する

すべてのワークスペースにウィンドウを配置するには、ウィンドウメニューを開き、「すべてのワークスペースに含める」を選択します。 現在のワークスペースでのみウィンドウが表示されるように設定するには、「このワークスペースだけ含める」を選択します。

ウィンドウを別のワークスペースに移動する

次のいずれかの方法を使用して、ウィンドウを別のワークスペースに移動できます。

- ワークスペーススイッチを使用

  ワークスペーススイッチアプレットアプリケーションの表示の中で、ウィンドウを移動したいワークスペースにドラッグします。

- ウィンドウメニューを使用

  ウィンドウメニューを開く。 ウィンドウを次のワークスペースに移動するには、「ワークスペース名 へ移動」を選択します。

区画サイズを変更する

ウィンドウには、複数の区画が含まれていることがあります。 区画とは、ウィンドウを分割したものです。 たとえば、ファイルマネージャウィンドウには、サイド区画と表示区画があります。 区画があるウィンドウの場合、区画間のエッジにサイズ変更ハンドルがあります。 区画をサイズ変更するには、サイズ変更ハンドルをつかんで、変更するサイズまでエッジをドラッグします。

表の使用方法

ウィンドウによっては、表に整理された情報を持っている場合があります。 この節では、ウィンドウの表の操作方法について説明します。

列の幅を変更するには、列の縦方向のエッジの 1 つをドラッグします。

表によっては、特定の列によって情報の並び変えができます。 表内の情報を並び変えるには、並び変える情報の列の見出しをクリックします。 上矢印が、並び変えられた表の列の見出しに表示されます。 次の図に上矢印を示します。

並び変え順を逆にするには、列の見出しをもう一度クリックします。 上矢印が下矢印に変わります。 下矢印は、列内の情報が、逆順に並び変えられていることを示します。

一部の表では、複数の項目を選択できます。 次の表で、表内の項目を選択する方法について説明します。

作業	アクション
項目の選択	その項目をクリックする
一連の項目のグループを選択	Shift キーを押したままにする。 グループの最初の項目をクリックして、そのグループの最後の項目をクリックする
複数の項目を選択	Ctrl キーを押したままにする。 選択する複数の項目をクリックする

ワークスペースの操作

この節では、ワークスペースの操作方法について説明します。

ワークスペースを切り替える

ワークスペース間の切り替えは、次の方法で行えます。

- ワークスペーススイッチを使用

  ワークスペーススイッチで、切り替え先のワークスペースをクリックします。
- ショートカットキーを使用

  ワークスペース間を切り替えるデフォルトのショートカットキーは、以下のとおりです。

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + Alt + 右矢印	右側のワークスペースを選択
Ctrl + Alt + 左矢印	左側のワークスペースを選択

ワークスペースを追加する

ワークスペースを Java Desktop System に追加するには、ワークスペーススイッチで右クリックし、「設定」を選択します。 「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。 「ワークスペースの数」スピンボックスを使用して、追加するワークスペースの数を指定します。 ワークスペーススイッチは、新しいワークスペースをワークスペースリストの末尾に追加します。

ワークスペースの名前を指定する

ワークスペースのデフォルトの名前は、ワークスペース 1、ワークスペース 2、ワークスペース 3 となります。 ワークスペースの名前を指定するには、ワークスペーススイッチで右クリックし、「設定」を選択します。 「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。 「**Workspaces names**」リストボックスを使用して、ワークスペース名を指定します。 ワークスペースを選択し、次にそのワークスペースの新しい名前を入力します。

ワークスペースを削除する

ワークスペースを削除する場合、そのワークスペース上のウィンドウは別のワークスペースに移動され、空のワークスペースが削除されます。

ワークスペースを Java Desktop System から削除するには、ワークスペーススイッチで右クリックし、「設定」を選択します。 「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。 「ワークスペースの数」スピンボックスを使用して、追加するワークスペースの数を指定します。 ワークスペーススイッチは、ワークスペースリストの末尾からワークスペースを削除します。

第 6 章

ファイルマネージャの使用方法

Nautilus は、Java Desktop System のファイルマネージャの名前で、ファイルやアプリケーションへの統合アクセスポイントを提供します。

この章では、ファイルマネージャの使用方法について説明します。

ファイルマネージャの概要

ファイルマネージャは、ファイルおよびアプリケーションへの統合アクセスポイントを提供します。 ファイルマネージャで次のことができます。

- フォルダおよびドキュメントの作成
- ファイルおよびフォルダの表示
- ファイルおよびフォルダの管理
- ファイルおよびフォルダのカスタマイズ
- 特別な URI を開く
- CD-R へのデータの書き込み
- Linux でリムーバブルメディアを使用する

ファイルマネージャは、デスクトップの背景の管理も行います。 デスクトップの背景は、デスクトップ上に表示される、ほかのすべてのコンポーネントの背後にあります。 デスクトップの背景は、ユーザーインタフェースのアクティブコンポーネントです。

ファイルマネージャウィンドウを開くには、デスクトップの背景の「ドキュメント」オブジェクトをダブルクリックします。 ファイルマネージャウィンドウは、デフォルトの文書の場所にある内容を表示区画に表示します。

ファイルマネージャウィンドウ

ファイルマネージャウィンドウを使用すると、ファイルとフォルダを表示、管理できます。 図 6–1 に、フォルダの内容を表示するファイルマネージャウィンドウを示します。

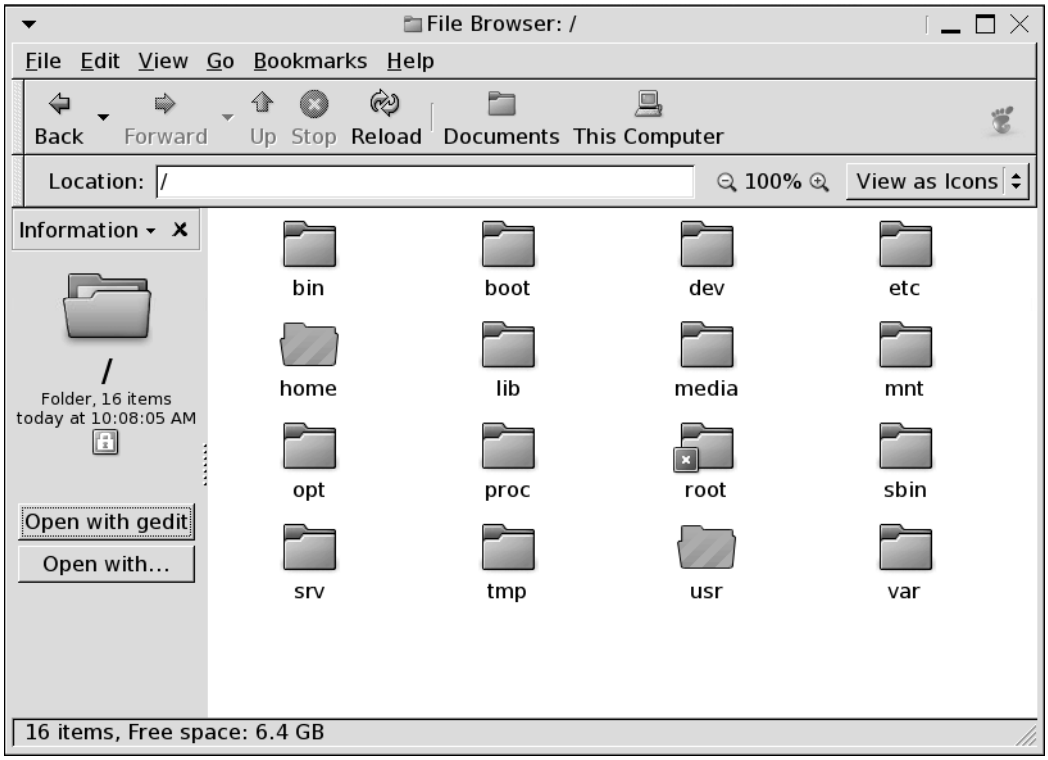


図 **6–1** ファイルマネージャウィンドウのフォルダの内容

表 6–1 に、ファイルマネージャウィンドウの構成要素を示します。

表 **6–1** ファイルマネージャウィンドウの構成要素

コンポーネント	説明
メニューバー	ファイルマネージャで作業を行うために使用するメニューを含む
ツールバー	ファイルマネージャで作業を行うために使用するボタンを含む

表 6–1 ファイルマネージャウィンドウの構成要素　(続き)

コンポーネント	説明
ロケーションバー	次の要素が含まれる ■ 「場所」フィールドまたは「移動」フィールド: 表示するファイル、フォルダ、または URI を指定できる ■ 拡大 / 縮小 ボタン: 表示区画内の項目のサイズを変更できる ■ 「表示方法」ドロップダウンリスト: 表示区画内の項目の表示方法を選択できる
サイド区画	次の機能を実行する ■ 現在のファイルまたはフォルダに関する情報を表示する ■ ファイル内をナビゲートする。 サイド区画には、サイド区画で表示するものを選択するドロップダウンリストがある。 次のオプションの中から、いずれか 1 つを選択する ■ 「情報」 ■ 「エンブレム」 ■ 「履歴」 ■ 「ノート」 ■ 「ツリー」 サイド区画を表示するには、「表示」→「サイド区画」を選択する。
表示区画	次の内容を表示する ■ 特定の型のファイル形式 ■ フォルダ ■ FTP サイト ■ 特別な URI に対応する場所
ステータスバー	状態情報を表示する

ファイルマネージャウィンドウからポップアップメニューを開くこともできます。 このポップアップメニューを開くには、ファイルマネージャウィンドウ内で右クリックします。 このメニューの項目は、右クリックした場所により異なります。 たとえば、ファイルまたはフォルダで右クリックした場合、ファイルおよびフォルダに関連するメニュー項目を選択できます。 表示区画の背景で右クリックした場合、表示区画内の項目の表示に関連するメニュー項目を選択できます。

表示区画

表示区画では、次の内容を表示できます。

- 特定の型のファイル形式
- フォルダ
- FTP サイト
- 特別な URI に対応する場所

ファイルマネージャには、特定の種類のファイルを表示区画に表示できるビューアコンポーネントがあります。 たとえば、テキストビューアを使用して、表示区画にテキストファイルを表示できます。

表示区画にファイルを表示することにより、次のような利点があります。

- アプリケーションを起動するよりも使用するシステムリソースが少ない
- アプリケーションを起動するよりも表示までの時間が短い

ただし、表示区画ではファイルを変更することはできません。

ファイルマネージャには、フォルダの内容を異なる方法で表示できるビューがあります。 たとえば、フォルダの内容は次の表示形式で表示できます。

- アイコン表示: フォルダ内の項目をアイコン形式で表示する
- リスト表示: フォルダ内の項目をリスト形式で表示する
- オーディオ表示: フォルダ内のオーディオ項目だけを表示する

フォルダの表示方法は、「表示」メニューを使用して選択できます。 ビューについての詳細は、121 ページの「ビューを使用したファイルとフォルダの表示」を参照してください。

サイド区画

サイド区画を表示するには、「表示」→「サイド区画」を選択します。 サイド区画に表示する情報は、選択できます。 以下のどれかを表示できます。

- 「情報」

  現在のファイルまたは現在のフォルダを表すアイコン。 現在のファイルまたは現在のフォルダに関する情報も表示される。 ファイルを表示区画に表示した場合、ボタンがサイド区画に表示される。 このボタンを使用して、デフォルト操作以外の操作をファイルで実行できる
- 「エンブレム」

  ファイルまたはフォルダに追加できるエンブレムが含まれる
- 「履歴」

  最近表示したファイル、フォルダ、FTP サイト、URI の履歴リストが含まれる
- 「ノート」

  ファイルとフォルダに注釈を追加できる
- 「ツリー」

  ファイルシステムの階層表現を表示する。 「ツリー」を使って、ファイル間を移動できる

サイド区画を閉じるには、サイド区画の右上の「X」ボタンをクリックします。

アイコンとエンブレム

アイコン表示では、ファイルとフォルダがアイコンとして表示されます。 ファイルアイコンおよびフォルダアイコンに、エンブレムを追加することができます。 エンブレムとは、項目に追加してその項目を視覚的に印をつける小さなアイコンのことです。 たとえば、ファイルを重要として印をつけるには、以下の図のような視覚的効果のある「重要」エンブレムをファイルアイコンに追加できます。

アイコンにエンブレムを追加する方法についての詳細は、119 ページの「ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する」を参照してください。

次の表に、ファイルアイコンの構造を示します。

コンポーネント	説明
	エンブレム。 この例は「重要」エンブレムを示す
	ファイルを表すアイコン。 アイコンには、ファイルの内容のプレビューが含まれる場合もある
	アイコン見出し。 どの情報項目をアイコン見出しに表示するかは、変更できる

ファイルマネージャには、以下のタイプの項目のデフォルトエンブレムがあります。

- シンボリックリンク
- 次のアクセス権を持つ項目:
  - 読み取り専用
  - 読み取り権なしと書き込み権なし

以下の表に、デフォルトエンブレムを示します。

デフォルトのエンブレム	説明
	シンボリックリンク
	読み取り専用
	読み取り権なしと書き込み権なし

コンピュータのナビゲート

ファイルマネージャは、ファイル、アプリケーション、FTP サイト、および URI への統合アクセスポイントを提供します。

この節では、次の項目について説明します。

- ファイルマネージャウィンドウで項目を表示する方法
- ファイルマネージャウィンドウでファイルを開く方法
- ファイルシステムでファイルおよびフォルダをナビゲートする方法
- ファイルシステムでさまざまな場所を開く方法
- サーバーに接続する方法
- FTP サイトをナビゲートする方法
- 特別な URI が示す場所にアクセスする方法

フォルダを表示する

フォルダの内容は、次の方法を使用して表示できます。

- 表示区画上のフォルダをダブルクリックする
- 「場所」フィールドに、表示するフォルダのパスを入力して、Return キーを押す。「場所」フィールドには、オートコンプリート機能がある。 ユーザーがパスを入力すると、ファイルマネージャはファイルシステムを読み込む。 ディレクトリを一意に識別するのに十分な文字を入力すると、 ファイルマネージャは、「場

所」フィールドにディレクトリ名を完成させる。

- サイド区画の「ツリー」を使用する。 詳細については、103 ページの「サイド区画のツリーの使用」 を参照
- 「戻る」および「進む」ツールバーボタンを使用して、ナビゲーション履歴を参照する

現在のフォルダの 1 つ上のレベルにあるフォルダに変更するには、「移動」→「上に移動」を選択します。 または、「上に移動」ツールバーボタンをクリックします。

ディスプレイを再読み込みするには、「再読み込み」ボタンをクリックします。

表示するフォルダが見つからない場合は、「ファイルの検索」ツール を使用します。 Search Tool を開始するには、「起動」をクリックして、「ファイルの検索」を選択します。

サイド区画のツリーの使用

「ツリー」は、ファイルシステムの階層表現を表示します。 「ツリー」を使用すると、ファイルシステムを簡単にナビゲートできます。 「ツリー」をサイド区画に表示するにるには、サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「ツリー」を選択します。

「ツリー」ではフォルダは以下のように表示されます。

フォルダの状態	グラフィック表示
閉じたフォルダ	右向き矢印
開いたフォルダ	下向き矢印

表 6–2 に、「ツリー」で実行できる作業と、その作業の実行方法を示します。

表 6–2 ツリーでの作業

作業	アクション
「ツリー」を開く	サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「ツリー」を選択する
「ツリー」を閉じる	サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから別の項目を選択する
「ツリー」のフォルダを開く	「ツリー」内のフォルダの横にある矢印をクリックする
「ツリー」のフォルダを閉じる	「ツリー」内のフォルダの横にある矢印をクリックする

表 **6–2** ツリーでの作業　*(続き)*

作業	アクション
表示区画にフォルダの内容を表示する	「ツリー」内のフォルダを選択する
表示区画にファイルの内容を表示する	「ツリー」内のファイルを選択する

「ツリー」でファイルを表示しないように、設定できます。

ファイルを開く

ユーザーがファイルを開くと、ファイルマネージャはそのファイルタイプのデフォルトのアクションを実行します。 デフォルトのアクションは、次のいずれかになります。

- ビューアコンポーネントを使用してそのファイルを表示区画に表示する
- そのファイルを開くアプリケーションを起動する

ファイルマネージャは、ファイルの内容をチェックしてファイルのタイプを判断します。 最初の行でファイルタイプを判別できない場合、ファイルマネージャはファイル拡張子を確認します。

開くファイルが見つからない場合は、「ファイルの検索」ツール を使用します。「ファイルの検索」ツール を開始するには、「起動」をクリックして、「ファイルの検索」を選択します。

表示区画でのファイルの表示

ファイルマネージャには、ビューアコンポーネントがあり、特定のファイル形式を表示区画に表示できます。 たとえば、次の種類のファイルを表示区画に表示できます。

- プレーンテキストファイル
- PNG ファイル
- JPEG (Joint Photographic Experts Group) ファイル

表示区画の内容を再読み込みするには、「表示」→「再読み込み」を選択します。表示区画で項目の読み込みを停止するには、「表示」→「停止」を選択します。

ファイルを表示区画に表示すると、ビューコンポーネントはファイルマネージャメニューにメニュー項目を追加します。 メニュー項目は、表示されているファイルタイプと関連します。 たとえば、PNG ファイルを表示する場合、「編集」メニューには、「flip」と「rotate」というメニュー項目があります。

また一部のファイルタイプを表示区画に表示する場合には、ファイルマネージャズームボタンで項目の大きさを変更できます。

デフォルトのアクションを実行する

ファイルのデフォルトのアクションを実行するには、そのファイルをダブルクリックします。 たとえば、プレーンテキスト文書のデフォルトのアクションが、テキストビューアにファイルを表示するとします。 この場合、ファイルをダブルクリックすることにより、ファイルをテキストビューアに表示できます。

ファイルマネージャで設定することにより、ファイルを 1 度クリックするだけでデフォルトのアクションを実行できます。

「他のアプリケーションで開く」サブメニューを使用してデフォルト以外のアクションを実行する

ファイルのデフォルト以外のアクションを実行するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、アクションを実行するファイルを選択します。 「ファイル」→「他のアプリケーションで開く」を選択します。 「他のアプリケーションで開く」サブメニューが開きます。 このサブメニュー内の項目は、「ファイルの関連付け」設定ツールの次の部分の内容に対応しています。
   - 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「デフォルトのアクション」ドロップダウンリスト
   - 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「ビューアコンポーネント」ドロップダウンリスト
2. 「他のアプリケーションで開く」サブメニューからアクションを選択します。

ファイルを表示したときに別のアクションを実行する

ファイルを表示区画に表示したときに、サイド区画にボタンがあります。

ボタンは、「ファイルの関連付け」設定ツールで定義されているアクションを表します。 各アクションは、「ファイルの関連付け」 設定ツールの「 ファイルタイプを編集」ダイアログの「デフォルトのアクション」ドロップダウンリストで定義されています。 アクションを実行するにはボタンをクリックします。 たとえば、プレーンテキスト文書に対して定義されているアクションが、gedit テキストエディタでファイルを開くことだとします。 このアクションが定義されていると、「gedit で開く」ボタンがサイド区画に表示されます。 gedit アプリケーションでファイルを開くには、「Gedit で開く」ボタンをクリックします。

注 – アクションが次のいずれかのダイアログで実行される場合、そのアクションを表すボタンはサイド区画に表示されません。

- 「他のアプリケーションで開く」
- 「他の表示方法で開く」

各場所を開く

ファイルマネージャは、ファイル、アプリケーション、FTP サイト、および URI への統合アクセスポイントを提供します。

ファイルマネージャを使用することで、ファイルシステム内のさまざまな場所にすばやくアクセスできます。 ある場所を開くには、次の手順を実行します。

1. 「移動」→「場所」を選択します。
2. 「場所」フィールドで、表示するフォルダのパスを入力します。
3. Return キーを押します。

「場所」フィールドには、オートコンプリート機能があります。 ユーザーがパスを入力すると、ファイルマネージャはファイルシステムを読み込みます。 ディレクトリを一意に識別するのに十分な文字を入力すると、 ファイルマネージャでは、「場所」フィールドのディレクトリ名が自動補間されます。

サーバーに接続する

Java Desktop System 環境がネットワーク上のサーバーにアクセスするように構成されている場合は、「サーバーへ接続」メニューを使用してサーバーに接続できます。

サーバーに接続するには、次の手順を実行します。

1. 「ファイル」→「サーバーへ接続」を選択します。
2. 「サーバーへ接続」ダイアログの「リンクの名前」フィールドにサーバー名を入力します。
3. たとえば `ftp:///ftp.gnome.org` などの URL を「場所 **(URL)**」フィールドに入力します。
4. 「接続」ボタンをクリックします。

「このコンピュータ」ロケーションの使用方法

「このコンピュータ」ロケーションから、次の機能にアクセスできます。

- アプリケーション

  「アプリケーション」をダブルクリックすると、主要な Java Desktop Systems アプリケーションにアクセスできます。 「アプリケーション」メニューには、「起動」メニューとメニューバーからアクセスできます。

- 設定

  「設定」をダブルクリックすると、Java Desktop System をカスタマイズできます。 設定ツールには、「起動」メニューからもアクセスできます。

- ファイルシステム

  「ファイルシステム」をダブルクリックすると、Java Desktop System の最上位のフォルダにアクセスできます。

「このコンピュータ」ロケーションには、次のような方法でアクセスできます。

- デスクトップの背景から

  デスクトップの背景の「このコンピュータ」オブジェクトをダブルクリックします。 「このコンピュータ」ロケーションの内容がファイルブラウザウィンドウに表示されます。

- ファイルブラウザウィンドウから `computer:///` URI にアクセスする

FTP サイトにアクセスする

ファイルマネージャを使用して、FTP サイトにアクセスできます。 FTP サイトにアクセスするには、ロケーションバー上のフィールドにサイトの URL を入力して、`Return` キーを押します。 そのサイトの内容が表示区画に表示されます。 FTP サイトからファイルをコピーするには、そのファイルを別の場所にドラッグします。

ユーザー名とパスワードの入力を要求する FTP サイトにアクセスするには、次の形式で URL を入力します。

`ftp://`*username*`:`*password*`@`*hostname*`.`*domain*

表示区画で FTP サイトを再読み込みするには、「表示」→「再読み込み」を選択します。 FTP サイトの読み込みを停止するには、「表示」→「停止」を選択します。

特別な URI ロケーションへのアクセス

Java Desktop System には、ファイルマネージャから特定の機能にアクセスするための特別な URI ロケーションがあります。 たとえば、設定ツールにアクセスするには、ファイルマネージャウィンドウの `preferences:///` URI にアクセスします。 表 6–3 に、ファイルマネージャで使用できる特別な URI ロケーションを示します。

表 **6–3** 特別な URI ロケーション

URI ロケーション	説明
`applications:///`	Java Desktop System のアプリケーションリストを表示する。 アプリケーションの種類は、「アプリケーション」メニューのアプリケーションと同じ。 アプリケーションを開くには、そのアプリケーションをダブルクリックする
`computer:///`	Java Desktop System のアプリケーションと設定ツールのリストを表示する。 ファイルシステム、CD-ROM、およびフロッピードライブにアクセスするアイコンも表示される
`preferences:///`	Java Desktop System の設定ツールリストを表示する。 設定ツールの種類は、「設定」メニューの設定ツールと同じ。 設定ツールを開くには、設定ツールをダブルクリックする
`server-settings:///`	システムをサーバーとして構成するために使用できるアプリケーションのリストを表示する
`system-settings:///`	システム設定の変更に使用できるアプリケーションのリストを表示する

ナビゲーション履歴の使用方法

ファイルマネージャは、ファイル、フォルダ、FTP サイトおよび URI の履歴リストを持っています。 この履歴リストを使って、最近表示したファイル、フォルダ、FTP サイト、URI に移動できます。 履歴リストには、最後に表示した 10 項目が含まれています。 以降の節では、履歴リストのナビゲート方法について説明します。

履歴リストを消去するには、「移動」 → 「履歴を消去」を選択します。

「移動」メニューを使用して履歴リストをナビゲートする

以前に表示した項目のリストを表示するには、「移動」メニューを選択します。 履歴リストは、「移動」メニューの下部に表示されます。 履歴リスト内の項目を開くには、「移動」メニューからその項目を選択します。

ツールバーを使用して履歴リストをナビゲートする

ツールバーを使用して履歴リストをナビゲートするには、次のいずれかの操作を実行します。

- 履歴リスト内の以前のファイル、フォルダ、または URI を開くには、「戻る」ツールバーボタンをクリックする
- 履歴リスト内の次のファイル、フォルダ、または URI を開くには、「進む」ツールバーボタンをクリックする

- 以前に表示した項目のリストを表示するには、「戻る」ツールバーボタンの右側にある下矢印をクリックする。 このリストから項目を開くには、その項目をクリックする
- 現在の項目以降に表示した項目のリストを表示するには、「進む」ツールバーボタンの右側にある下矢印をクリックする。 このリストから項目を開くには、その項目をクリックする

サイド区画の履歴を使用して履歴リストをナビゲートする

「履歴」をサイド区画に表示するにるには、サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「履歴」を選択します。 サイド区画の「履歴」リストに、以前表示した項目のリストが表示されます。

履歴リストの項目を表示区画に表示するには、「履歴」リストの項目をクリックします。

お気に入りを登録する

ブックマークの項目にアクセスするには、「ブックマーク」メニューからその項目を選択します。 お気に入りを「ブックマーク」メニューに追加できます。 ブックマークは、ファイルシステムのファイルやフォルダ、FTP サイトまたは URI に追加できます。

ブックマークを追加する

ブックマークを追加するには、ブックマークを追加する項目を表示区画に表示します。「ブックマーク」→「追加」を選択します。

ブックマークを編集する

ブックマークを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「ブックマーク」→「編集」を選択します。
2. 「ブックマークを編集」ダイアログの左側にあるブックマークを選択します。
   「ブックマークを編集」ダイアログの右側に表示されるブックマークの詳細を編集します。以下を参照してください。

ダイアログ要素	説明
「名前」	「ブックマーク」メニューに表示されるブックマークを識別する名前を指定する

ダイアログ要素	説明
「場所」	ブックマークの場所を指定する

3. ブックマークを削除するには、ダイアログの左側にあるブックマークを選択します。 「削除」をクリックします。

ファイルとフォルダの管理

この節では、ファイルおよびフォルダの操作方法について説明します。

ファイルマネージャでのドラッグ&ドロップ

ファイルマネージャの一部の作業は、ドラッグ&ドロップで実行できます。 ドラッグ&ドロップすると、マウスポインタは、実行する作業に関するフィードバックを示します。 表 6–4 は、ドラッグ&ドロップで実行できる作業を説明します。 また、ドラッグ&ドロップしたときに表示されるマウスポインタも示します。

表 6–4 ファイルマネージャでのドラッグ&ドロップ

作業	アクション	マウスポインタ
項目の移動	項目を別の場所にドラッグする	
項目のコピー	項目をグラブし、Ctrl キーを押したままにする。 項目を別の場所にドラッグする	
項目へのシンボリックリンクを作成する	項目をグラブし、Ctrl + Shift キーを押したままにする。 シンボリックリンクを配置する場所に項目をドラッグする	

表 6–4 ファイルマネージャでのドラッグ＆ドロップ　(続き)

作業	アクション	マウスポインタ
ドラッグした項目で行う動作を尋ねる	項目をグラブし、Alt キーを押したままにする。 配置する場所に項目をドラッグする。 マウスボタンを放す。 ポップアップメニューが表示される。 ポップアップメニューから次の項目のいずれか 1 つを選ぶ ■ 「ここへ移動」 項目をその場所まで移動 ■ 「ここにコピー」 項目をその場所にコピー ■ 「リンク先」 その場所に項目のシンボリックリックを作成 ■ 「背景として設定」 項目が画像の場合、その画像をデスクトップ背景に設定。 このコマンドを使用して、デスクトップおよび表示区画の背景を設定できる ■ 「取消し」 ドラッグ＆ドロップ操作を取り消す	

ファイルおよびフォルダを選択する

ファイルマネージャでファイルやフォルダを選択する方法は、いくつかあります。 表 6–5 では、ファイルマネージャウィンドウとデスクトップの背景から項目を選択する方法が説明されています。

表 6–5 ファイルマネージャ内の項目の選択

作業	アクション
項目の選択	その項目をクリックする
一連の項目のグループを選択	アイコン表示で、選択する複数のファイルを囲むようにドラッグする リスト表示で、グループの最初の項目をクリックする。 Shift キーを押したまま、グループの最後の項目をクリックする
複数の項目を選択	Ctrl キーを押したまま放さない。 選択する複数の項目をクリックする または、Ctrl キーを押したままで、選択する複数のファイルを囲むようにドラッグする
フォルダ内のすべての項目を選択	「編集」→「すべてのファイルを選択」を選択する

項目のデフォルトのアクションを実行するには、その項目をダブルクリックします。 ファイルマネージャで設定することにより、ファイルを 1 度クリックするだけでデフォルトのアクションを実行できます。

ファイルまたはフォルダを移動する

以降の節では、ファイルまたはフォルダを移動する方法について説明します。

表示区画でのドラッグ

ファイルまたはフォルダを表示区画内の別の場所にドラッグするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。「ファイル」→「新規ウィンドウ」を選択して、別のファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 1 つ目のウィンドウで、ファイルまたはフォルダの移動元のフォルダを選択します。 別のウィンドウで、ファイルまたはフォルダの移動先のフォルダを選択します。
3. 移動するファイルまたはフォルダを、別のウィンドウの新しい場所にドラッグします。

ファイルまたはフォルダを現在の場所より 1 レベル下のフォルダに移動する場合は、新しいウィンドウを開きません。 代わりに、ファイルまたはフォルダをドラッグして、同じウィンドウ内の移動先フォルダにドラッグします。

切り取りと貼り付け

ファイルまたはフォルダを切り取って、それを別の場所に貼り付けることができます。次の手順を実行します。

1. 移動するファイルまたはフォルダを選択して、「編集」→「ファイルの切り取り」を選択します。
2. ファイルまたはフォルダの移動先のフォルダを開き、「編集」→「ファイルの貼り付け」を選択します。

ファイルまたはフォルダをコピーする

以降の節では、ファイルまたはフォルダをコピーする方法について説明します。

表示区画でのドラッグ

ファイルまたはフォルダをコピーするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。「ファイル」→「新規ウィンドウ」を選択して、別のファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 1 つ目のウィンドウで、ファイルまたはフォルダのコピー元のフォルダを選択します。 別のウィンドウで、ファイルまたはフォルダのコピー先のフォルダを選択します。

3. ファイルまたはフォルダをグラブし、Ctrl キーを押したままにします。 ファイルまたはフォルダを別のウィンドウの新しい場所にドラッグします。

ファイルまたはフォルダを現在の場所より 1 レベル下のフォルダにコピーする場合は、新しいウィンドウを開きません。 代わりに、ファイルまたはフォルダをグラブし、Ctrl キーを押したままにします。 ファイルまたはフォルダを同じウィンドウの別の場所にドラッグします。

コピーと貼り付け

ファイルまたはフォルダをコピーして、それを別の場所に貼り付けることができます。次の手順を実行します。

1. コピーするファイルまたはフォルダを選択して、「編集」→「ファイルのコピー」を選択します。
2. ファイルまたはフォルダのコピー先のフォルダを開き、「編集」→「ファイルの貼り付け」を選択します。

ファイルまたはフォルダを複製する

ファイルまたはフォルダの複製を現在のフォルダに作成するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、複製するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「編集」→「複製」を選択します。 または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「複製」を選択します。

   ファイルまたはフォルダの複製が現在のフォルダに表示されます。

フォルダを作成する

フォルダを作成するには、次の手順を実行します。

1. 新たにフォルダを作成するフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「フォルダの作成」を選択します。 または、表示区画の背景で右クリックして、「フォルダの作成」を選択します。

   「未タイトル」のフォルダが表示区画に追加されます。 フォルダの名前が選択されています。
3. フォルダの名前を入力して、Return キーを押します。

ファイルまたはフォルダの名前を変更する

ファイルまたはフォルダの名前を変更するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、名前を変更するファイルまたはフォルダを選択します。

2. 「編集」→「名前の変更」を選択します。 または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「名前の変更」を選択します。

   ファイルまたはフォルダの名前が選択されています。
3. ファイルまたはフォルダの新しい名前を入力して、Return キーを押します。

テンプレートとドキュメント

頻繁に作成するドキュメントからテンプレートを作成できます。 たとえば、請求書を頻繁に作成する場合は、空の請求書ドキュメントを作成して invoice.doc として $HOME/Templates フォルダに保存できます。

テンプレートフォルダには、ファイルブラウザウィンドウからもアクセスできます。「移動」→「テンプレート」を選択します。

テンプレート名が「ドキュメントの作成」メニューのサブメニュー項目として表示されます。

テンプレートフォルダにはサブフォルダを作成することもできます。 サブフォルダはメニューのサブメニューとして表示されます。

テンプレートを共有することもできます。 テンプレートフォルダから共有テンプレートを含むフォルダへのシンボリックリンクを作成します。

ドキュメントを作成する

ドキュメントのテンプレートがある場合は、インストールされているテンプレートの 1 つを使用してドキュメントを作成できます。

ドキュメントを作成するには、次の手順を実行します。

1. 新たにドキュメントを作成するフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「ドキュメントの作成」を選択します。 または、表示区画の背景で右クリックして、「ドキュメントの作成」を選択します。

   使用可能なテンプレート名が、「ドキュメントの作成」メニューのサブメニュー項目として表示されます。
3. 作成するドキュメントのテンプレート名をダブルクリックします。
4. ドキュメントの名前を変更して、適切なフォルダに保存します。

ファイルまたはフォルダをごみ箱に移動する

ファイルまたはフォルダをごみ箱に移動するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、ごみ箱に移動するファイルまたはフォルダを選択します。

2. 「編集」→「ごみ箱へ移動」を選択します。 または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「ごみ箱へ移動」を選択します。

あるいは、表示区画からデスクトップの背景上のごみ箱オブジェクトにファイルまたはフォルダをドラッグすることもできます。

注 – ファイルまたはフォルダをリムーバルメディアから「ごみ箱」に移動すると、そのファイルまたはフォルダはリムーバブルメディアの「ごみ箱」 に保存されます。 リムーバブルメディアからファイルまたはフォルダを完全に削除するには、「ごみ箱」を空にします。

ファイルまたはフォルダを削除する

ファイルまたはフォルダを削除する場合、そのファイルまたはフォルダはごみ箱に移動されず、ただちにファイルシステムから削除されます。 「削除」メニュー項目は、Nautilus「ファイルマネージャの設定」ダイアログで「ごみ箱を経由しない削除コマンドを含める」オプションを選択した場合にのみ利用可能です。

ファイルまたはフォルダを削除するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、削除するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「編集」→「削除」を選択します。 または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「削除」を選択します。

ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成する

シンボリックリンクとは、別のファイルまたはフォルダを指す特殊な種類のファイルです シンボリックリンクに対してアクションを実行すると、そのアクションはシンボリックリンクが指すファイルまたはフォルダで実行されます。 ただし、シンボリックリンクを削除した場合、リンクファイルが削除されるだけで、そのリンクが指すファイルは削除されません。

ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成するには、リンクを作成するファイルまたはフォルダを選択します。 「編集」→「リンクを作成」を選択します。 ファイルまたはフォルダのリンクが、現在のフォルダに追加されます。

あるいは、リンクを作成する項目をグラブし、`Ctrl` + `Shift` キーを押したままにします。 リンクを配置する場所に項目をドラッグします。

デフォルトでは、エンブレムがシンボリックリンクに追加されます。

注 – シンボリックリンクのアクセス権は、シンボリックリンクが指すファイルやフォルダによって異なります。

ファイルやフォルダのプロパティを表示する

ファイルやフォルダのプロパティを表示するには、次の手順を実行します。

1. プロパティを表示するファイルやフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。
3. 「プロパティ」ダイアログで、ファイルやフォルダのプロパティを表示します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

アクセス権を変更する

アクセス権は、ファイルやフォルダそれぞれに割り当てられる設定で、ユーザーがそのファイルやフォルダに対して持つアクセス権を決定します。 以下の表に、ファイルやフォルダに設定できるアクセス権とその効果を示します。

アクセス権	ファイル	フォルダ
読み取り	ファイルを読み取る権限	フォルダの内容を一覧表示する権限
書き込み	ファイルを変更する権限	フォルダ内でファイルを作成や削除する権限
実行	ファイルをプログラムとして実行する権限 この権限は、ファイルがプログラムまたはスクリプトの場合のみに関係します。	ディレクトリ内のファイルにアクセスする権限

複数のタイプのユーザーにアクセス権を設定できます。 以下の表には、アクセス権を設定できるユーザーのタイプが示されています。

ユーザーのカテゴリ	説明
所有者	ファイルやフォルダを作成したユーザー
グループ	所有者が属するグループ
その他のユーザー	所有者が属するグループ外のユーザー全員

ファイルやフォルダのアクセス権を変更するには、以下の手順を実行します。

1. アクセス権を変更するファイルまたはフォルダを選択します。

2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。
3. 「アクセス権」タブをクリックします。「アクセス権」タブセクションのドロップダウンリストとチェックボックスで、ファイルまたはフォルダのアクセス権を変更します。 次の表に、「アクセス権」タブセクションのダイアログ要素を示します。

要素	説明
「ファイルの所有者」	ファイルやフォルダの所有者を変更するには、その所有者をドロップダウンリストから選択する
「ファイルのグループ」	ファイルやフォルダが所属するグループを変更するには、そのグループをドロップダウンリストから選択する
「所有者」	ファイルやフォルダの所有者に適用するアクセス権を選択する
「グループ」	ファイルやフォルダの所有者が属するグループに適用するアクセス権を選択する
「その他」	所有者が属するグループ外のユーザー全員に適用するアクセス権を選択する
「テキスト表示」	「読み取り」、「書き込み」、「実行」オプションから選択したアクセス権をテキスト形式で表示する
「番号表示」	「読み取り」、「書き込み」、「実行」オプションから選択したアクセス権をテキスト形式で表示する
「最終変更日時」	ファイルまたはフォルダが最後に変更された日時を表示する

4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

ファイルやフォルダへのノートの追加

ファイルやフォルダへノートを追加できます。 以下の方法で、ファイルやフォルダへノートを追加します。

- 「プロパティ」ダイアログから
- サイド区画の「ノート」から

「プロパティ」ダイアログでノートを追加する

ファイルやフォルダにノートを追加するには、次の手順を実行します。

1. ノートを追加するファイルやフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。

3. プロパティダイアログの「ノート」 タブをクリックします。 「ノート」タブセクションで、ノートを入力します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。 ノートエンブレムがファイルやフォルダに追加されます。

ノートを削除するには、「ノート」タブセクションからノートテキストを削除します。

サイド区画の「ノート」でノートを追加する

ファイルやフォルダにノートを追加するには、次の手順を実行します。

1. ノートを追加するファイルやフォルダを表示区画で開きます。
2. サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「ノート」を選択します。 サイド区画を表示するには、「表示」→「サイド区画」を選択します。
3. サイド区画にノートを入力します。 ノートエンブレムが表示区画のファイルまたはフォルダに追加され、ノートアイコンがサイド区画に追加されます。 このアイコンをクリックすると、ノートを表示できます。

ノートを削除するには、サイド区画の「ノート」からノートテキストを削除します。

「ごみ箱」の使用方法

以下の項目は、ごみ箱に移動できます。

- ファイル
- フォルダ
- デスクトップの背景オブジェクト

ごみ箱内のファイルを元に戻したい場合は、ごみ箱の内容を表示して、ごみ箱からファイルを取り出すことができます。 ごみ箱を空にすると、ごみ箱の内容は永久に失われます。

ごみ箱を表示する

ごみ箱の内容は、次の方法で表示できます。

- ファイルマネージャウィンドウから

  「移動」→「ごみ箱」を選択します。 ごみ箱の内容がウィンドウに表示されます。
- デスクトップの背景から

  デスクトップの背景のごみ箱オブジェクトをダブルクリックします。

ごみ箱を空にする

ごみ箱の内容は、次の方法で空にできます。

- ファイルマネージャウィンドウから
  「ファイル」→「ごみ箱を空にする」を選択する。
- デスクトップの背景から
  ごみ箱オブジェクトを右クリックして、「ごみ箱を空にする」を選択する

ファイルおよびフォルダの外観の変更

ファイルマネージャを使用すると、ファイルおよびフォルダの概観を何通りかに変更できます。説明は、次の節を参照してください。

ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する

項目にエンブレムを追加するには、次の手順を実行します。

1. エンブレムを追加する項目を選択します。
2. 項目を右クリックして、「プロパティ」を選択します。
3. 「プロパティ」ダイアログの「エンブレム」タブをクリックすると、「エンブレム」タブセクションが表示されます。
4. 項目に追加するエンブレムを選択します。
5. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

新しいエンブレムを追加する

エンブレムを新たに追加するには、次の手順を実行します。

1. 「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。
2. 「エンブレム」ボタンをクリックし、「背景とエンブレム」ダイアログの「新規エンブレムを追加」ボタンをクリックします。
3. 「新規エンブレムを作成」ダイアログの「キーワード」テキストボックスにエンブレムの名前を入力します。
4. 「画像」ボタンをクリックします。
5. 「新規エンブレムのための画像ファイルを選択」ダイアログの「参照」をクリックします。 エンブレムを選択したら、「了解」をクリックします。

6. 「新規エンブレムを作成」ダイアログで「了解」をクリックします。

ファイルまたはフォルダのアイコンを変更する

個々のファイルまたはフォルダを表すアイコンを変更するには、次の手順を実行します。

1. ファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。
3. 「プロパティ」ダイアログの「基本」タブセクションで、「カスタムアイコンの選択」ボタンをクリックします。
4. 「アイコンを選択」ダイアログを使用して、ファイルまたはフォルダを表すアイコンを選びます。 「了解」をクリックします。
5. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

カスタムアイコンから ファイルの関連付け設定ツールで指定したデフォルトのアイコンに戻すには、アイコンを右クリックして、「カスタムアイコンを削除」を選択します。 または、「プロパティ」ダイアログの「カスタムアイコンを削除」ボタンをクリックします。

ファイルタイプを表すアイコンを変更するには、ファイルの関連付け設定ツールを使用します。

ビュー内の項目のサイズを変更する

ビュー内の項目のサイズは変更することができます。 ビューでファイルまたはフォルダを表示している場合には、そのサイズを変更できます。 ビュー内の項目のサイズは、次の方法で変更できます。

- ビュー内の項目を拡大するには、「表示」→「拡大」を選択する
- ビュー内の項目を縮小するには、「表示」→「縮小」を選択する
- ビュー内の項目を通常のサイズに戻すには、「表示」→「通常のサイズ」を選択する

ロケーションバーにある拡大 / 縮小ボタンを使用して、ビュー内の項目のサイズを変更することもできます。 表 6–6 は、拡大 / 縮小ボタンの使用方法を説明します。

表 **6–6** 拡大 / 縮小ボタン

ボタン	ボタン名	説明
	縮小ボタン	ビュー内の項目のサイズを縮小する
	通常のサイズボタン	ビュー内の項目のサイズを通常のサイズに戻す
	拡大ボタン	ビュー内の項目のサイズを拡大する

ファイルマネージャは、特定のフォルダ内の項目のサイズを記憶しています。 次回、そのフォルダを表示したとき、その項目は変更したサイズで表示されます。 つまり、フォルダの項目のサイズを変更した場合、そのフォルダは、指定したサイズで項目を表示するようにカスタマイズされます。 項目のサイズを、設定で指定したデフォルトのサイズに戻すには、「表示」→「デフォルト表示に戻す」を選択します。

ビューを使用したファイルとフォルダの表示

ファイルマネージャでは、ファイルの内容を表示する方法がいくつかあります。 ファイルマネージャには、ビューアコンポーネントがあり、特定のファイル形式を表示区画に表示できます。 たとえば、Web ページビューアを使用して、表示区画に HTML ファイルを表示できます。 また、テキストビューアを使用して、表示区画にプレーンテキストファイルを表示できます。

さらに、ファイルマネージャでは、適当なアプリケーションでファイルを開くことも可能です。 詳細については、104 ページの「ファイルを開く」を参照してください。

ファイルマネージャには、フォルダの内容を異なる方法で表示できるビューがあります。 たとえば、フォルダの内容は次の表示形式で表示できます。

- アイコン表示

  フォルダ内の項目をアイコン形式で表示する
- リスト表示

  フォルダ内の項目をリスト形式で表示する

「表示」メニューを使用して、ファイルまたはフォルダの表示方法を選択できます。また、「表示方法」ドロップダウンリストを使用して、ファイルまたはフォルダの表示方法を選ぶこともできます。 フォルダを表示するときに、フォルダ内で項目をどのように整理または並べ替えるかを指定できます。 表示区画内の項目のサイズは変更できます。 以降の節では、アイコン表示、リスト表示、およびファイルの表示の操作方法について説明します。

ファイルまたはフォルダを表示するビューを選ぶ

ファイルまたはフォルダの内容を表示するビューのタイプは、「表示」メニューから選択します。

または、「表示」→「表示方法」からビューを選択することもできます。 使用するビューを「他の表示方法で開く」ダイアログから選択して、「選択」ボタンをクリックします。

ビューのタイプは、「表示方法」ドロップダウンリストから選ぶこともできます。「表示方法」ドロップダウンリストは、ロケーションバーの右側にあります。

異なるフォルダは、異なるビューに表示できます。 ファイルマネージャは、ユーザーが選択した特定のフォルダの表示方法を記憶しています。 次にフォルダを表示するときも、フォルダは同じ表示方法で表示されます。 フォルダのビューを、設定で指定したデフォルトのビューに戻すには、「表示」→「デフォルト表示に戻す」を選択します。

アイコン表示でファイルを整理する

フォルダの内容をアイコン表示で表示する場合、フォルダ内の項目をどのように整理するかを指定できます。 アイコン表示で項目をどのように整理するかは、「表示」→「項目の位置を設定」を選択して指定できます。 「項目の位置を設定」サブメニューには次のセクションがあります。

- 上のセクションには、ファイルを手動で整理できるオプションが含まれる
- 中央セクションには、ファイルを自動的に並べ替えるオプションが含まれる
- 下のセクションには、ファイルの整理方法を変更できるオプションが含まれる

適切なオプションをサブメニューから選んでください。次の表に、オプションを説明します。

オプション	説明
「手動」	項目を手動で整理する。 項目を手動で整理するには、表示区画内で項目を希望する場所までドラッグする

オプション	説明
「名前」	名前のアルファベット順に項目を並べ替える。 項目の順序に、大文字と小文字の区別はない。 ファイルマネージャが隠しファイルを表示する設定の場合は、隠しファイルは最後に表示される
「サイズ」	サイズの大きな順に項目を並べ替える。 項目をサイズで並べ替える場合、フォルダはフォルダ内の項目の数によって並べ替えられる。 フォルダの並べ替えは、フォルダ内の項目の合計サイズではない
「種類別」	オブジェクトの種類によって、アルファベット順に項目を並べ替える。 各項目は、ファイルの関連付け設定ツールの*MIME* タイプの説明に従って、アルファベット順に並べ替えられる。 MIME タイプにはファイルの書式が指定されており、この情報によってアプリケーションがファイルを読み取ることが可能になる。 たとえば、電子メールアプリケーションは、`image/png` MIME タイプから、電子メールに PNG (Portable Networks Graphic) ファイルが添付されていることを認識する
「更新日時」	項目を最後に更新した日付によって並べ替える。 最も日付の新しい項目が先頭になる
「エンブレム」	項目に追加されているエンブレムによって並べ替える。 エンブレムの名前のアルファベット順に項目が並べ替えられる。 エンブレムがない項目は、エンブレムがある項目の後に並べられる
「コンパクトなレイアウト」	項目が互いに接近するように整理する
「逆順」	項目を並べ替えるオプションの、並べ替えの順序を逆にする。 たとえば、項目を名前で並べ替える場合、「逆順」オプションを選択すると、逆のアルファベット順に項目を並べ替える

ファイルマネージャは、特定のフォルダの項目配置を記憶しています。 次回、そのフォルダを表示したとき、その項目は指定した方法で整理されます。 つまり、フォルダ内の項目の整理方法を指定した場合、そのフォルダは、指定した方法で項目を表示するようにカスタマイズされます。 フォルダの整理方法を、設定で指定されているデフォルトの整理方法に戻すには、「表示」→「デフォルト表示に戻す」を選択します。

アイコン表示でアイコンのサイズを変更する

アイコン表示では、表示されている項目を表すアイコンのサイズを変更できます。 アイコン表示で項目のサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. サイズ変更する項目を右クリックして、「アイコンを伸縮」を選択します。 項目のまわりに、各コーナーにハンドルのある長方形が表示されます。
2. ハンドルの 1 つをグラブして、希望するサイズまでアイコンをドラッグします。

   アイコンを元のサイズに戻すには、そのアイコンを右クリックして「アイコンの元のサイズに復元」を選択します。

デスクトップの背景オブジェクトのサイズも変更できます。

ビューの動作を変更する

ビューの動作は、次の方法で変更できます。

- 特定のファイルまたはフォルダのデフォルトのビューとして指定する
- ファイルタイプまたはすべてのフォルダのデフォルトのビューとして指定する
- 特定のファイルまたはフォルダの「表示方法」サブメニュー内の項目として指定する
- 特定のファイルタイプすべて、またはすべてのフォルダの「表示方法」サブメニュー内の項目として指定する
- ビューが特定のファイルまたはフォルダの「表示方法」サブメニュー内の項目に含まれないように指定する

ビューの動作を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「表示」→「表示方法」を選択します。
2. 「他の表示方法で開く」ダイアログの表から、変更するビューを選択します。
3. 「修正」ボタンをクリックします。 次の表で、「修正」ダイアログのオプションを説明します。

オプション	説明
「*item-name* アイテムのメニューに含まれます」	ビューをこの種の項目の「表示方法」サブメニューに含める
「*item-name* アイテムのデフォルトとして使用します」	ビューをこの種の項目のデフォルトとして使用する
「*item-name* のメニューにのみ含まれます」	ビューをこの項目のみの「表示方法」サブメニューに含める
「*item-name* のデフォルトとしてのみ使用します」	ビューをこの項目のみのデフォルトとして使用する
「*item-name* アイテムのメニューに含まれません」	ビューをこの種の項目の「表示方法」サブメニューから除外する

4. 「OK」をクリックし、「取消し」をクリックして「他の表示方法で開く」ダイアログを閉じます。

注 – ファイルの関連付け設定ツールの「ファイルタイプを編集」ダイアログにあるファイルタイプに関連付けられているアクションを変更することもできます。「ファイルタイプを編集」ダイアログを開くには、「移動」ボタンをクリックします。

ファイルへのアクションの割り当て

ユーザーがファイルを開くと、ファイルマネージャはそのファイルタイプのデフォルトのアクションを実行します。 ファイルの関連付け設定ツールには、ファイルタイプ、関連付けられているファイル拡張子、デフォルトのアクションを示す表が含まれています。 この表で、ファイルマネージャのファイルをダブルクリックしたときの動作が決まります。

ファイルマネージャを使用して、特定のファイルおよびファイルタイプに関連付けられているアクションを変更することもできます。

ファイルの関連付け設定ツールを使用して、次のことができます。

- ファイルタイプのデフォルトのアクションを指定。 ファイルタイプのデフォルトアクションは、ファイルマネージャでも変更できます。
- ファイルタイプを 1 つまたは複数のアプリケーションと関連付ける。 デフォルトのアクションでは、そのファイルタイプと関連付けられるアプリケーションでファイルを開くように指定されている
- ファイルタイプを 1 つまたは複数のビューアと関連付ける。 デフォルトのアクションでは、そのファイルタイプと関連付けられるビューアでファイルを開くように指定されている
- ファイルの拡張子を MIME タイプに関連付ける。 MIME タイプは、ファイル形式を指定するため、インターネットブラウザおよび電子メールアプリケーションがそのファイルを読み取ることができる

アクションを変更する

ファイルまたはファイルタイプと関連付けられるアクションを変更できます。 次の変更が可能です。

- 特定のファイルのデフォルトのアクションであることを指定する
- 特定のファイルタイプのデフォルトのアクションであることを指定する
- 特定のファイルの「他のアプリケーションで開く」サブメニュー内の項目であることを指定する

- 特定のファイルタイプの「他のアプリケーションで開く」サブメニュー内の項目であることを指定する
- 特定のファイルタイプの「他のアプリケーションで開く」サブメニュー内の項目に含まれないことを指定する

ファイルまたはファイルタイプと関連付けられるアクションを変更するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、アクションを変更するファイルを選択します。 ファイルタイプに関連付けられるアクションを変更する場合は、そのタイプのファイルを選択します。
2. 「ファイル」→「他のアプリケーションで開く」を選択します。 次のいずれかの手順を実行します。
   - 「アプリケーション」を選択。 「他のアプリケーションで開く」ダイアログが表示されます。
   - 「ビューア」を選択。 「他の表示方法で開く」ダイアログが表示されます。
3. ダイアログ内の表から、動作を変更するアプリケーションまたはビューアを選択します。
4. 「修正」ボタンをクリックします。 次の表で、「修正」ダイアログのオプションを説明します。

オプション	説明
「*filetype* アイテムのメニューに含まれます」	このファイルタイプの「他のアプリケーションで開く」サブメニューにアプリケーションまたはビューアを含める
「*filetype*アイテムのデフォルトとしてのみ使用します」	このファイルタイプのデフォルトのアクションとしてアプリケーションまたはビューアを使用する
「*filename* のメニューにのみ含まれます」	このファイルの「他のアプリケーションで開く」サブメニューにアプリケーションまたはビューアを含め、このタイプの別のファイルのサブメニューには含めない
「*filename* のデフォルトとしてのみ使用します」	このファイルのデフォルトのアクションとしてアプリケーションまたはビューアを使用し、このタイプの別のファイルには使用しない
「*filetype* アイテムのメニューに含まれません」	このファイルタイプの「他のアプリケーションで開く」サブメニューからアプリケーションまたはビューアを除外する

5. 「OK」をクリックし、「取消し」をクリックしてダイアログを閉じます。

注 – ファイルの関連付け設定ツールの「ファイルタイプを編集」ダイアログにあるファイルタイプに関連付けられているアクションを変更することもできます。「ファイルタイプを編集」ダイアログを開くには、「移動」ボタンをクリックします。

CD の書き込み

ファイルマネージャは、CD に書き込むファイルやフォルダをコピーできる特別な場所を提供します。 その場所の内容を簡単に CD に書き込むことができます。

CD の書き込みを行うには、次の手順を実行します。

1. ファイルブラウザウィンドウから、「移動」→「CD の作成」を選択します。ファイルマネージャで、特別な場所である **burn:///** が開き、CD の書き込みを行うことができます。
2. ファイルブラウザウィンドウから、CD に書き込むファイルやフォルダを **burn:///** にコピーします。
3. 書き込み可能な CD をお使いのシステムの CD 書き込みデバイスに挿入します。
4. 「ファイル」→「CD に書き込む」の順に選択します。 または、ツールバーの「CD に書き込む」ボタンをクリックします。
5. 「**CD** レコーダにファイルを書き込む」ダイアログで、以下のように CD への書き込み方法を指定します。

ダイアログ要素	説明
「書き込むターゲット」	ドロップダウンリストから CD を書き込むデバイスを選択する。 ファイルやフォルダの CD イメージファイルを作成するには、「ファイルイメージ」オプションを選択する
「書き込み速度」	ドロップダウンリストから CD を書き込む速度を選択する
「**CD** 名」	テキストボックスに CD の名前を入力する
「**CD** を消去する」	CD の内容を削除する
「完了したときに **CD** を排出する」	CD の書き込みが終わると、CD をドライブから取り出す

ダイアログ要素	説明
「別の **CD** を焼くのにこれらのファイルを再利用する」	ファイルやフォルダを他の CD に書き込む場合に選択する。 このオプションを選択すると、CD の書き込み後にファイルやフォルダが **burn: ///** から削除されない

6. 「CD にファイルを書き込む」ボタンをクリックします。

   「ファイルイメージ」オプションを「書き込むターゲット」ドロップダウンリストから選択すると、「**CD-ROM**イメージのファイル名を選択」ダイアログが表示されます。 このダイアログで、CD イメージファイルを保存する場所を指定します。CD イメージファイルのデフォルト拡張子は、`.iso` です。

   「**CD** に書き込み中」ダイアログが表示されます。 CD への書き込みまたは CD イメージファイルの作成が行われると、プロセスが完了したことを示すメッセージがダイアログに表示されます。

   CD イメージファイルを作成した場合は、このファイルを CD に書き込むことができます。 CD イメージファイルを CD に書き込むには、CD イメージファイルを右クリックし、ポップアップメニューから「CD に書き込む」を選択します。

   「別の **CD** を焼くのにこれらのファイルを再利用する」オプションを選択していない場合は、ファイルやフォルダは **burn:///** から削除されます。

Linux でリムーバブルメディアを使用する

ファイルマネージャは、以下の特徴を持つリムーバブルメディアをすべて Linux でサポートしています。

- `/etc/fstab` ファイルにエントリがあるリムーバブルメディア。 `/etc/fstab` ファイルは、コンピュータが使用するファイルシステムを記述する
- `user` オプションが、`/etc/fstab` ファイルのリムーバブルメディア用エントリで指定されている。

Linux でメディアをマウントする

メディアをマウントすることにより、そのメディアのファイルシステムにアクセス可能になります。 メディアをマウントすると、メディアに保存されているデータにファイルマネージャからアクセスできるようになります。

メディアをマウントするには、適切なデバイスにメディアを挿入します。 メディアを表すオブジェクトがデスクトップの背景に追加されます。 なお、オブジェクトは、お使いのシステムが、メディアの検出時に自動的にデバイスをマウントするように設定されている場合にのみ追加されます。

デバイスを自動的にマウントする設定になっていない場合、手動でデバイスをマウントする必要があります。 「このコンピュータ」をダブルクリックして、メディアを表すアイコンをダブルクリックします。 たとえば CD-ROM をマウントするには、「起動」をクリックして、「このコンピュータ」→「CD-ROM」を選択します。

注 – リムーバブルメディアオブジェクトの名前は変更できません。

Linux でメディアの内容を表示する

メディアの内容は、次の方法を使用して表示できます。

- デスクトップの背景上のメディアを表すオブジェクトをダブルクリックする
- デスクトップの背景上のメディアを表すオブジェクトを右クリックして、「開く」を選択する

ファイルマネージャウィンドウは、メディアの内容を表示します。 表示を再読み込みするには、ファイルブラウザウィンドウのツールバーで「再読み込み」ボタンをクリックします。 または、「表示」→「再読み込み」を選択して、ウィンドウに表示されているメディアの内容を再読み込みして更新します。

Linux でメディアのプロパティを表示する

リムーバブルメディアのプロパティを表示するには、デスクトップの背景上のメディアを表すオブジェクトを右クリックして、「プロパティ」を選択します。 メディアのプロパティを表示するダイアログが開きます。

プロパティのダイアログを閉じるには、「閉じる」をクリックします。

Linux でフロッピーディスクをフォーマットする

メディアをフォーマットすることにより、特定のファイルシステムで使用できるようになります。 ファイルマネージャでフロッピーディスクをフォーマットできます。

注意 – メディアをフォーマットすると、そのメディア上の既存の情報は上書きされます。

フロッピーディスクのフォーマットを作成するには、次の手順を実行します。

1. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを挿入します。 フロッピーディスクをマウントします。 メディアのマウント方法については、128 ページの「Linux でメディアをマウントする」を参照してください。
2. デスクトップの背景上のディスクを表すオブジェクトを右クリックして、「フォーマット」を選択します。
3. 「フロッピーディスクのフォーマット」ダイアログでフォーマットオプションを選択します。 次の表では、ダイアログの要素について説明します。

ダイアログ要素	説明
「フロッピーデバイス」	フロッピーデバイスの名前を表示する
「フロッピー密度」	ディスク密度を選択する。 密度は、ディスクが保存できるデータの量を指す
「ファイルシステムタイプ」	ディスクをフォーマットするファイルシステムの型を選択する 次のオプションの中からどれか 1 つを選択します。 ■ 「**Linux** ネイティブ **(ext 2)**」: ディスクを Linux システム用にフォーマットする。 Linux 以外のほとんどのシステムでは、このファイルシステムタイプのディスクを読み取ることはできない ■ 「**DOS (FAT)**」: ディスクを Windows システム用にフォーマットする。 ほとんどの UNIX ベースのシステムでは、このファイルシステムタイプのディスクを読み取ることができる
「ボリューム名」	テキストボックスにディスクの名前を入力する
「高速」	ディスクにファイルシステムだけを作成する。 高速フォーマットでは、壊れたブロックはチェックされない そのディスクが以前フォーマット済みの場合は、このオプションを選択すること
「標準」	ディスクにファイルシステムを作成し、ディスクをフォーマットする。 標準フォーマットでは、壊れたブロックはチェックされない そのディスクが以前フォーマットされていない場合は、このオプションを選択すること

ダイアログ要素	説明
「詳細」	ファイルシステムをディスクに作成し、壊れたブロックをチェックし、ディスクをフォーマットする ディスクが破損したかどうかを確認する場合は、このオプションを選択すること

4. 「フォーマット」をクリックして、ディスクをフォーマットします。

Linux でメディアを取り出す

メディアを取り出すには、デスクトップの背景上のメディアオブジェクトを右クリックして、「取り出し」を選択します。 メディアのドライブが電動ドライブの場合は、メディアはドライブから取り出されます。 メディアのドライブが電動でない場合は、メディアのデスクトップの背景オブジェクトが消えてから、手動でメディアを取り出します。

メディアがマウントされている場合、メディアを電動ドライブから取り出すことはできません。 メディアを取り出す前に、マウント解除する必要があります。 ドライブからフロッピーディスクを取り出すには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウ、端末ウィンドウ、このフロッピーディスクにアクセスするその他のウィンドウをすべて閉じます。
2. デスクトップの背景上のディスクを表すオブジェクトを右クリックして、「編集」を選択します。 ディスクのデスクトップの背景オブジェクトが非表示になります。
3. フロッピーディスクをドライブから取り出します。

注意 – マウント解除する前にフロッピーディスクをドライブから取り出すと、フロッピーディスク上のデータが失われる可能性があります。

第 7 章

デスクトップの背景の使用方法

アプリケーションを起動したり、ファイルおよびフォルダを開くためのデスクトップの背景の使用方法について説明します。 この章では、デスクトップの背景メニューの使用方法、デスクトップの背景のカスタマイズ方法についても説明します。

デスクトップの背景の紹介

デスクトップの背景は、デスクトップ上に表示される、ほかのすべてのコンポーネントの背後にあります。 デスクトップの背景は、ユーザーインタフェースのアクティブコンポーネントです。 デスクトップの背景から、次の作業を実行できます。

- アプリケーションを起動し、ファイルおよびフォルダを開く

  デスクトップオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、またはアプリケーションにアクセスしやすくなります。 たとえば、デスクトップの背景にアプリケーションランチャーを追加できます。 頻繁に使用するファイルにシンボリックリンクを作成し、このリンクをデスクトップの背景に追加できます。 ファイルおよびフォルダをデスクトップの背景に格納することもできます。
- 「デスクトップ」の背景メニューを開く

  「デスクトップ」メニューを開くには、デスクトップの背景を右クリックします。 「デスクトップ」メニューを使用することで、デスクトップの背景でアクションを実行できます。
- ごみ箱の使用方法

  オブジェクトをごみ箱に移動したり、ごみ箱を空にしたりできます。
- デスクトップの背景をカスタマイズする

  デスクトップの背景のパターンまたは色をカスタマイズできます。

デスクトップの背景には、デフォルトでは 5 つのオブジェクトがあります。 表 7–1 に、デスクトップにあるデフォルトのオブジェクトの機能を示します。

表 **7–1** デフォルトのデスクトップの背景オブジェクトの機能

オブジェクト	機能
このコンピュータ	Java Desktop System の一部の主要な機能へのアクセスポイントになります。 アプリケーションと設定ツールには、「このコンピュータ」からアクセスできます。 また、システムをサーバーとして設定し、ほかのシステム設定詳細を修正するプログラムにもアクセス可能です。
ドキュメント	デフォルトディレクトリ内に保存されたファイルに直接アクセスします。
ごみ箱	ファイル、フォルダ、デスクトップオブジェクトの一時保持領域を提供します。これらのデータは後で取り出すことも、完全に削除することもできます。
Java Desktop System	Java Desktop System のヘルプにアクセスできるヘルプブラウザが起動されます。
StarSuite 7	StarSuite アプリケーションが起動されます。

デスクトップの背景オブジェクト

デスクトップの背景オブジェクトは、デスクトップの背景上のアイコンで、ファイル、フォルダ、およびアプリケーションを開くときに使用します。 デスクトップの背景にオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、アプリケーション、および URI にアクセスしやすくなります。 たとえば、デスクトップの背景にランチャーを追加して、頻繁に使用する特定のアプリケーションを開くことができます。

表 7–2 で、デスクトップの背景に追加できるオブジェクトのタイプを説明します。

表 **7–2** デスクトップの背景オブジェクトのタイプ

オブジェクトタイプ	説明
シンボリックリンク	シンボリックリンクとは、別のファイルまたはフォルダを指すオブジェクトのこと。 デスクトップの背景でシンボリックリンクを選択すると、そのシンボリックリンクが指すファイルまたはフォルダが開きます。 シンボリックリンクは、デスクトップの背景に移動またはコピーできます。 シンボリックリンクは、デフォルトの矢印エンブレム (すべてのシンボリックリンクに表示) によって識別できます。

表 7–2 デスクトップの背景オブジェクトのタイプ　(続き)

オブジェクトタイプ	説明
ランチャー	以下のタイプのランチャーをデスクトップの背景に追加できます。 ■ アプリケーション: 特定のアプリケーションを起動する ■ リンク: 特定のファイル、フォルダ、または URI にリンクする
ファイル	デスクトップの背景にファイルを追加できます。 デスクトップの背景上のファイルは .desktop ディレクトリにあります。
フォルダ	デスクトップの背景にフォルダを移動したり、フォルダを作成したりすることができます。 デスクトップの背景上のフォルダは .desktop ディレクトリにあります。

以降の節では、デスクトップの背景でのオブジェクトの操作方法について説明します。

デスクトップの背景上のオブジェクトを選択する

デスクトップの背景上のオブジェクトを選択するには、そのオブジェクトをクリックします。 複数のオブジェクトを選択する場合は、Ctrl キーを押したままで、選択するオブジェクトをクリックします。

デスクトップの背景で範囲を選択することで、その範囲内のすべてのオブジェクトを選択することもできます。 デスクトップの背景上でクリックしたまま、選択するオブジェクトが含まれる領域をドラッグします。 クリックしたままでドラッグすると、選択する領域に長方形が表示されます。

複数の範囲を選択するには、Ctrl キーを押したままで、選択する範囲でドラッグします。

デスクトップの背景からオブジェクトを開く

デスクトップの背景からオブジェクトを開くには、そのオブジェクトをダブルクリックします。 または、オブジェクトを右クリックして、「開く」を選択します。 オブジェクトを開くと、そのオブジェクトのデフォルトのアクションが実行されます。 たとえば、オブジェクトがテキストファイルの場合、そのテキストファイルはファイルマネージャウィンドウで開かれます。 各ファイルタイプのデフォルトのアクションは、ファイルの関連付け設定ツールで指定されています。

オブジェクトのデフォルトのアクション以外のアクションを実行するには、オブジェクトを右クリックして、「他のもので開く」を選択します。 「他のもので開く」サブメニューからアクションを選択します。

「他のもので開く」サブメニュー内の項目は、ファイルの関連付け設定ツールの次の部分の内容に対応しています。

- 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「デフォルトのアクション」ドロップダウンリスト
- 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「ビューアコンポーネント」ドロップダウンリスト

ファイルマネージャウィンドウで設定することにより、ファイルを 1 度クリックするだけでデフォルトの操作を実行できます。

デスクトップの背景にランチャーを追加する

デスクトップの背景のランチャーは、アプリケーションを起動したり、特定のファイル、フォルダ、FTP サイト、または URI にリンクすることができます。

デスクトップの背景にランチャーを追加するには、次の手順を実行します。

1. デスクトップの背景を右クリックし、「ランチャーの作成」を選択します。
2. 「ランチャーの作成」ダイアログに必要な情報を入力します。 ランチャー用に入力したコマンドは、デスクトップの背景オブジェクトを使用したときに実行されるコマンドになります。

デスクトップの背景にシンボリックリンクを追加する

デスクトップの背景にシンボリックリンクを作成して、次の操作を実行できます。

- 特定のアプリケーションで特定のファイルを開く
- ファイルマネージャウィンドウで特定のフォルダを開く
- バイナリファイルまたはスクリプトを実行する

デスクトップの背景でシンボリックリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. シンボリックリンクを作成するファイルまたはフォルダをファイルマネージャウィンドウに表示します。
2. そのファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成します。 ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成するには、リンクを作成するファイルまたはフォルダを選択します。「編集」→「リンクを作成」を選択します。 ファイルまたはフォルダのリンクが、現在のフォルダに追加されます。 シンボリックリンクは、デフォルトの矢印エンブレム (すべてのシンボリックリンクに表示) によって識別できます。 次の図に、ファイルのシンボリックリンクを示します。

3. シンボリックリンクをデスクトップの背景にドラッグします。 オブジェクトのアイコンがデスクトップの背景に移動します。

デスクトップの背景へのファイルまたはフォルダの追加

以降の節では、デスクトップの背景にファイルオブジェクトおよびフォルダオブジェクトを追加する方法について説明します。

ファイルまたはフォルダをデスクトップの背景に移動する

ファイルまたはフォルダを ファイルマネージャからデスクトップの背景に移動できます。 ファイルまたはフォルダをデスクトップの背景に移動するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 移動するファイルまたはフォルダを表示します。
3. ファイルまたはフォルダをデスクトップの背景にドラッグします。 ファイルまたはフォルダのアイコンがデスクトップの背景に移動します。 ファイルまたはフォルダが `.desktop` ディレクトリに移動します。

   別の方法として、ファイルまたはフォルダを選択し、「編集」→「ファイルの切り取り」を選択します。 任意のデスクトップの背景オブジェクトを右クリックして、「ファイルの貼り付け」を選択します。

ファイルまたはフォルダをデスクトップの背景にコピーする

ファイルまたはフォルダを ファイルマネージャからデスクトップの背景にコピーできます。 ファイルまたはフォルダをデスクトップの背景にコピーするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 移動するファイルまたはフォルダを表示します。

3. Ctrl キーを押したままで、ファイルまたはフォルダをデスクトップの背景にドラッグします。 ファイルまたはフォルダのアイコンがデスクトップの背景に追加されます。 ファイルまたはフォルダが .desktop ディレクトリにコピーされます。

   別の方法として、ファイルまたはフォルダを選択し、「編集」→「ファイルのコピー」を選択します。 任意のデスクトップの背景オブジェクトを右クリックして、「ファイルの貼り付け」を選択します。

フォルダオブジェクトをデスクトップの背景に作成する

フォルダオブジェクトを作成するには、デスクトップの背景を右クリックして、「デスクトップ」メニューを開きます。 「フォルダの作成」を選択します。 「未タイトル」のフォルダがデスクトップの背景に追加されます。 新しいフォルダの名前を入力して、Return キーを押します。 フォルダが、新しい名前で表示されます。 新しいフォルダは .desktop ディレクトリに作成されます。

デスクトップの背景オブジェクトの名前を変更する

デスクトップの背景オブジェクトの名前を変更するには、オブジェクトを右クリックし、「名前の変更」を選択します。 デスクトップの背景オブジェクトの名前が強調表示されます。 オブジェクトの新しい名前を入力し、Return キーを押します。

デスクトップの背景からオブジェクトを削除する

オブジェクトをデスクトップの背景から取り除くには、そのオブジェクトを右クリックして、「ごみ箱へ移動」を選択します。 または、オブジェクトをごみ箱にドラッグします。

注 – ファイルまたはフォルダをリムーバルメディアからごみ箱に移動すると、そのファイルまたはフォルダはリムーバブルメディアの ごみ箱 に保存されます。 リムーバブルメディアからファイルまたはフォルダを完全に削除するには、ごみ箱 を空にします。

デスクトップの背景からオブジェクトを直ちに削除する

デスクトップの背景からオブジェクトを削除すると、そのオブジェクトはごみ箱に移動せず、ただちにデスクトップの背景から削除されます。 「削除」メニュー項目は、ファイルマネージャの「ファイルマネージャの設定」ダイアログで、「ごみ箱を経由しない削除コマンドを含める」オプションを選択した場合にのみ利用可能です。

オブジェクトをデスクトップの背景から削除するには、そのオブジェクトを右クリックして、「削除」を選択します。

注 – デスクトップの背景オブジェクトの「このコンピュータ」または「ごみ箱」を削除することはできません。

デスクトップの背景オブジェクトのプロパティを表示する

デスクトップの背景オブジェクトのプロパティを表示するには、次の手順を実行します。

1. プロパティを表示するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2. 「プロパティ」ダイアログで、デスクトップの背景オブジェクトのプロパティを表示します。
3. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

デスクトップの背景オブジェクトのアクセス権を変更する

デスクトップの背景オブジェクトのアクセス権を変更するには、次の手順を実行します。

1. アクセス権を変更するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2. プロパティダイアログの「アクセス権」 タブをクリックします。
3. 「アクセス権」タブセクションのドロップダウンリストとチェックボックスで、ファイルまたはフォルダのアクセス権を変更します。 「アクセス権 」タブセクションのダイアログ要素の詳細は、「ファイルマネージャの使用方法」を参照してください。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

デスクトップの背景オブジェクトにエンブレムを追加する

デスクトップの背景オブジェクトにエンブレムを追加するには、次の手順を実行します。

1. エンブレムを追加するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2. 「エンブレム」タブセクションの「エンブレム」タブをクリックします。
3. 項目に追加するエンブレムを選択します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

デスクトップの背景オブジェクトにノートを追加する

デスクトップの背景オブジェクトにノートを追加するには、次の手順を実行します。

1. ノートを追加するオブジェクトを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。
3. 「**Notes**」タブセクションの「**Notes**」タブをクリックします。 ノートを入力します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。 ノートエンブレムがデスクトップの背景オブジェクトに追加されます。

ノートを削除するには、「**Notes**」タブセクションからノートテキストを削除します。

デスクトップの背景オブジェクトのアイコンを変更する

デスクトップの背景オブジェクトのアイコンを変更するには、次の手順を実行します。

1. アクセス権を変更するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2. 「基本」タブセクションで、「カスタムアイコンの選択」ボタンをクリックします。
3. 「アイコンを選択」ダイアログを使用して、ファイルまたはフォルダを表すアイコンを選びます。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

カスタムアイコンからデフォルトアイコンにアイコンを復元するには、「カスタムアイコンを削除」ダイアログの「プロパティ」ボタンをクリックします。

デスクトップの背景オブジェクトアイコンのサイズを変更する

デスクトップの背景オブジェクトを表すアイコンのサイズを変更できます。 デスクトップの背景上のアイコンのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. サイズを変更するアイコンのデスクトップオブジェクトを右クリックし、「アイコンを伸縮」を選択します。 アイコンのまわりに、各コーナーにハンドルのある長方形が表示されます。
2. ハンドルの 1 つをグラブして、希望するサイズまでアイコンをドラッグします。

   アイコンを元のサイズに戻すには、そのアイコンを右クリックして「アイコンの元のサイズに復元」を選択します。

デスクトップの背景でのごみ箱の使用方法

以下の項目は、ごみ箱に移動できます。

- ファイル
- フォルダ
- デスクトップの背景オブジェクト

ごみ箱からファイルを取り出す場合は、ごみ箱の内容を表示して、ファイルをごみ箱から移動できます。 ごみ箱を空にした場合は、ごみ箱内の項目は永久に削除されます。

ごみ箱を表示する

ごみ箱の内容は、次の方法で表示できます。

- デスクトップの背景から

  デスクトップの背景のごみ箱オブジェクトをダブルクリックします。 ごみ箱の内容がファイルマネージャウィンドウに表示されます。
- ファイルブラウザウィンドウから

  「移動」→「ごみ箱」を選択します。 ごみ箱の内容がファイルブラウザウィンドウに表示されます。

ごみ箱を空にする

ごみ箱の内容は、次の方法で空にできます。

- デスクトップの背景から

  ごみ箱オブジェクトを右クリックして、「ごみ箱を空にする」を選択する
- ファイルマネージャウィンドウから

「ファイル」→「ごみ箱を空にする」を選択する

デスクトップの背景メニューの使用方法

「デスクトップ」背景メニューを開くには、デスクトップ上の空いているスペースで右クリックします。「デスクトップ」メニューを使用することで、デスクトップの背景でアクションを実行できます。

表 7–3 に、「デスクトップ」背景メニューの項目を示します。

表 7–3 デスクトップの背景メニューの項目

メニュー項目	機能
端末を開く	端末アプリケーションが起動する
フォルダの作成	新しいフォルダオブジェクトを作成する
ランチャーの作成	デスクトップの背景にランチャーを作成する。詳細については、136 ページの「デスクトップの背景にランチャーを追加する」を参照
ドキュメントの作成	ドキュメントを作成する。頻繁に作成するドキュメントからテンプレートを作成できる。たとえば、請求書を頻繁に作成する場合は、空の請求書ドキュメントを作成して `invoice.doc` として `$HOME/Templates` フォルダに保存できる
「名前順に整理」	デスクトップの背景上のオブジェクトを、名前のアルファベット順に整理する
「配置を維持する」	デスクトップの背景にあるすべてのオブジェクトの左端を合わせる
「ファイルの貼り付け」	1 つまたは複数のファイルを選択したフォルダまたはデスクトップの背景に置く
「デフォルトの背景を使用」	「背景とエンブレム」ダイアログで最後に選んだパターンにデスクトップの背景を戻す。「背景とエンブレム」ダイアログには、Nautilus ウィンドウからアクセスできる
「デスクトップの背景の変更」	デスクトップの背景設定ツールを起動する

デスクトップの背景のパターンまたは色の変更

ユーザー環境に応じて、デスクトップ背景のパターンまたは色を変更できます。ファイルマネージャには、デスクトップ背景のルック & フィールを変更するために使用できる背景パターンと色が含まれています。

デスクトップ背景のパターンまたは色は、次の方法を使用して変更できます。

- 別のウィンドウまたはダイアログのパターンまたは色を、デスクトップの背景にドラッグする

  デスクトップ背景が色の場合、デスクトップ背景色にグラデーション効果を用いることができます。 グラデーション効果とは、ある色が別の色に徐々にブレンドされる視覚的効果のことです。 デスクトップ背景にグラデーション効果を作成するには、画面の縁の 1 つに色をドラッグします。 その色は、ドラッグを開始した縁から画面反対側の縁まで調和されます。

  画面の縁にエッジパネルがないかどうかを確認してから、色を画面の縁にドラッグしてください。 画面の縁にエッジパネルがある場合、そのパネルを隠してから色をドラッグする必要があります。
- デスクトップの背景設定ツールを使用します。
- 「背景とエンブレム」ダイアログから、背景のパターンまたは色を選択する。 デスクトップ背景のパターンまたは色を変更するには、次の手順を実行します。

  1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。
  2. 「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。
  3. 使用可能なパターンのリストを表示するには、「パターン」ボタン (「背景とエンブレム」ダイアログ) をクリックします。 背景に使用できる色のリストを表示するには、「色」ボタンをクリックします。
  4. デスクトップ背景をパターンに変更するには、そのパターンをデスクトップ背景にドラッグします。 デスクトップ背景を色に変更するには、その色をデスクトップ背景にドラッグします。
  5. 「閉じる」をクリックします。

第 8 章

設定ツールの使用

この章では、Java Desktop System デスクトップのカスタマイズするための、設定ツールの起動方法および使用方法について説明します。

設定ツールの起動

設定ツールは、次のいずれかの方法で起動できます。

- 「起動」をクリックして、「設定」を選択する。 サブメニューから必要なツールを選択する
- デスクトップの背景の「このコンピュータ」オブジェクトをダブルクリックする。 「このコンピュータ」の場所で、ファイルブラウザウィンドウが開く。 ブラウザウィンドウ内の「設定」オブジェクトをダブルクリックし、設定ツールを表示する。 必要なツールをダブルクリックする

デスクトップの背景のカスタマイズ

デスクトップの背景設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「表示」→「デスクトップの背景」の順に選択します。

デスクトップ背景は、次の方法でカスタマイズできます。

- デスクトップ背景の画像を選択する。 画像は、デスクトップ背景色上に重ねられる。 デスクトップの背景色は、透明な画像を選択した場合、または画像がデスクトップの背景全体を覆っていない場合に見ることができる

- デスクトップの背景の色を選択する。 塗りつぶしの色を選択することも、2 色でグラデーション効果を作成することもできる。 グラデーション効果とは、ある色が別の色に徐々にブレンドされる視覚的効果のこと

デスクトップの背景の外観は、ファイルマネージャ内から変更することもできます。

表 8–1 に、変更可能な背景設定を示します。

表 8–1 デスクトップの背景の設定

ダイアログ要素	説明
「デスクトップ壁紙」	デスクトップの背景に表示する画像を選択する。 画像を選択するには、「画像の選択」ボタンをクリックする。 「画像の選択」ダイアログが表示される。 ダイアログを使用して、画像を選択する。 画像を選択して、「了解」をクリックする
「スタイル」	画像の表示方法を指定するには、「スタイル」ドロップダウンリストで次のいずれかのオプションを選択する ■ 「中央」: デスクトップの背景の中央に画像を表示する ■ 「画面ぎっしり埋まるまで」: デスクトップの背景を覆うように画像を拡大し、その画像の相対寸法を維持する ■ 「拡大縮小」: 画面のエッジまで画像を拡大し、その画像の相対寸法を維持する ■ 「タイル状に配置」: 画面のエッジまで画像を拡大し、その画像の相対寸法を維持する
「壁紙の追加」	「壁紙の追加」 をクリックすると、「壁紙の追加」 ダイアログが表示される。 背景として表示する壁紙を選択して、「OK」をクリックする
「削除」	削除するデスクトップ壁紙を選択して、「削除」をクリックする

表 **8–1** デスクトップの背景の設定　*(続き)*

ダイアログ要素	説明
デスクトップの色	カラースキームを指定するには、「背景スタイル」ドロップダウンリストのオプションと、「色の選択」ボタンを使用する カラースキームは、次のいずれかの方法で指定できる ■ 「背景スタイル」ドロップダウンリストから、「単色」を選択して、デスクトップ背景に単一色を指定する 希望する色を選ぶには、「色」ボタンをクリックする。「色の選定」ダイアログが表示される。 色を選んで、「OK」をクリックする ■ 「背景スタイル」ドロップダウンリストから、「水平方向のグラデーション」を選択する。 このオプションは、画面のレフトエッジから画面のライトエッジへ、グラデーション効果を作成する 「左側の色」ボタンをクリックして、「色の選択」ダイアログを表示する。 レフトエッジに表示する色を選ぶ 「右側の色」ボタンをクリックする。 ライトエッジに表示する色を選ぶ ■ 「背景スタイル」ドロップダウンリストから、「垂直方向のグラデーション」を選択する。 このオプションは、画面のトップエッジから画面のボトムエッジへ、グラデーション効果を作成する 「上側の色」ボタンをクリックして、「色の選択」ダイアログを表示する。 トップエッジに表示する色を選ぶ 「下側の色」ボタンをクリックする。 ボトムエッジに表示する色を選ぶ

CD データベースサーバーの設定

CD データベースサーバー 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「CD データベースサーバー」の順に選択します。

CD データベースサーバー設定ツールでは、システムが照会可能な CD データベースサーバーを設定できます。 CD データベースサーバーには、アーティスト名、曲名、および収録曲など、CD に関する情報が含まれています。 アプリケーションが CD を再生すると、アプリケーションは CD データベースサーバーを照会して、情報を表示します。

表 8–2 で、CD データベースサーバー環境設定ツールのそれぞれの設定を説明します。

表 **8–2** CD データベースサーバーの設定

ダイアログ要素	説明
「情報を送信しない」	CD データベースサーバーに情報を送信しない
「実際の情報を送信する」	ユーザー名とホスト名の情報を CD データベースサーバーに送信する
「その他の情報を送信する」	ほかの名前およびホスト名の情報を CD データベースサーバーに送信する。 「名前」フィールドに名前を入力し、 「ホスト名」フィールドにホスト名を入力する
「**FreeDB** ラウンドロビンサーバー」	FreeDB は CD データベース。 FreeDB ラウンド・ロビン・サーバーは、FreeDB サーバーの負荷分散構成になる。 このサーバーから FreeDB CD データベースにアクセスする
「他の **FreeDB** サーバー」	別のサーバーから FreeDB CD データベースにアクセスする場合はこのオプションを選択する。 必要なサーバーをサーバー表から選択する
「サーバー一覧の更新」	サーバー表内の利用可能な FreeDB サーバーのリストを更新する
「他のサーバー」	ほかの CD データベースサーバーを使用する。 データベースが存在するサーバーの名前を「ホスト名」フィールドに入力する。 データベースにアクセスできるポート番号を「ポート」フィールドに入力する

ファイルの関連付けの設定

ファイルの関連付け 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「ファイルの関連付け」の順に選択します。

ファイルの関連付け設定ツールを使用すると、次のものを設定できます。

ファイルタイプ　各種ファイルタイプの表示方法と編集方法を指定できます。 たとえば、特定のファイルタイプを表すアイコンを指定できます。 また、ファイルがプレーンテキストファイルの場合、そのファイルをテキストエディタで起動するようにも指定できます。

ファイルマネージャなどのデスクトップアプリケーションは、ファイルの内容を確認して、ファイルタイプを判断します。 最初の行でファイルタイプを判別できない場合、アプリケーションはファイル名を確認します。

サービス

URI (*Uniform Resource Identifier*) は、ファイルシステム内または Web 上の特定の場所を識別する文字列です。 たとえば、Web ページのアドレスが URI です。 サービスは、URI が要求するプロトコルまたはタスクです。 たとえば、`http://www.gnome.org` という URI は、`http` サービスを要求しています。

アプリケーションをサービスと関連付けて、そのアプリケーションでサービスが要求するタスクを実行するように設定できます。 たとえば、お気に入りのブラウザを `http` サービスに関連付けることが可能です。

表 8–3> で、ファイルの関連付け設定ツールの要素を説明します。

表 8–3 ファイルの関連付け設定ツールの要素

要素	説明
表	ファイルタイプのカテゴリの内容を表示するには、カテゴリ名の横にある右矢印をクリックする。 カテゴリが開き、各ファイルタイプの説明と、そのファイルタイプに関連付けられるファイル拡張子が表示される 操作するファイルタイプを選択するには、そのファイルをクリックする
「ファイルタイプの追加」	ファイルタイプを追加する。 詳細については、149 ページの「ファイルタイプを追加する」 を参照
「サービスの追加」	サービスを追加する。 詳細については、150 ページの「サービスを追加する」 を参照
「編集」	ファイルタイプ、サービス、またはファイルタイプのカテゴリを編集するには、編集対象の項目を選択して、「編集」をクリックする
「削除」	ファイルタイプまたはサービスを削除するには、削除対象の項目を選択して、「削除」をクリックする

ファイルタイプを追加する

ファイルタイプを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルの関連付け設定ツールを起動します。
2. 「ファイルタイプを追加」ボタンをクリックします。
3. 「ファイルタイプを追加」ダイアログに、ファイルタイプのプロパティを入力します。 以下の表に、「ファイルタイプを追加」ダイアログのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	説明
「アイコンなし」	ファイルタイプを表すアイコンを選択する。 アイコンを選択するには、「アイコンなし」ボタンをクリックする。 「アイコンを選択」 ダイアログが表示される。 ダイアログからアイコンを選択する。 別のディレクトリにあるアイコンを選択するには、「参照」をクリックする。 アイコンを選択したら「OK」をクリックする
「説明」	ファイルタイプの説明を入力する
「**MIME** タイプ」	このタイプのファイルの MIME タイプを入力する
「カテゴリ」	この設定ツール内でファイルタイプが属するカテゴリを入力する。 「選択」をクリックして、「ファイルカテゴリを選択」ダイアログからカテゴリを選択する
「ファイル名の拡張子」	ファイルタイプに関連付けるファイルの拡張子を入力する。 左側のフィールドにファイル拡張子を入力し、Return キーを押す。 ファイル拡張子を削除するには、右側のフィールドからファイル拡張子を選択して、「削除」ボタンをクリックする
「ビューアコンポーネント」	このタイプのファイルをファイルマネージャで表示するときに使用するビューアコンポーネントを選択する
「デフォルトのアクション」	このタイプのファイルを開くときに使用するデフォルトのアプリケーションを選択する
「実行するプログラム」	ファイルタイプに関連付けるプログラムを指定する。 このフィールドに、プログラムを起動するコマンドを入力する。 あるいは、以前に入力したコマンドを選ぶには、下矢印ボタンをクリックして、実行するコマンドを選ぶ 「参照」ボタンを使用して、実行するコマンドを選択することもできる
「端末で実行」	プログラムを端末で実行する。 実行するウィンドウを作成しないプログラムには、このオプションを選択する

4. 「OK」をクリックします。

サービスを追加する

サービスを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルの関連付け設定ツールを起動します。
2. 「サービスを追加」ボタンをクリックします。
3. 「サービスを追加」ダイアログに、サービスのプロパティを入力します。 以下の表に、「サービスを追加」ダイアログのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	説明
「説明」	サービスの説明を入力する
「プロトコル」	サービスのプロトコルを入力する
「実行するプログラム」	将来のリリースで情報が追加
「プログラム」	サービスに関連付けるプログラムを指定する。 このフィールドに、プログラムを起動するコマンドを入力する。 あるいは、以前に入力したコマンドを選ぶには、下矢印ボタンをクリックして、実行するコマンドを選ぶ 「参照」ボタンを使用して、実行するコマンドを選択することもできる
「端末で実行」	プログラムを端末で実行する。 実行するウィンドウを作成しないプログラムには、このオプションを選択する

4. 「OK」をクリックします。

ファイル管理の設定

ファイル管理は、要件や設定に合わせてカスタマイズできます。 ここでは、ファイル管理の設定をカスタマイズする方法について説明します。

設定

ファイルの管理 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「ファイルの管理」の順に選択します。

または、「ファイルマネージャの設定」 ダイアログを使用して、ファイルマネージャを設定できます。 「ファイルマネージャの設定」 ダイアログを表示するには、任意のファイルブラウザウィンドウで「編集」→「設定」の順に選択します。

設定は、次のカテゴリで設定できます。

- ビューのデフォルト設定
- ファイル、フォルダ、実行テキストファイル、ごみ箱の動作
- アイコン見出しに表示される情報
- ファイルマネージャのパフォーマンスを向上させるプレビューオプション

表示形式を設定する

デフォルト表示形式を指定して、ソートオプションと表示オプションを選択できます。 アイコン表示とリスト表示のデフォルト設定も指定できます。 デフォルトの表示形式を指定するには、「編集」、「設定」の順に選択します。 「表示」タブをクリックして、「表示」タブセクションを表示します。

表 8–4 に、変更可能な表示設定を示します。

表 8–4 表示の設定

ダイアログ要素	説明
「新規フォルダの表示方法」	フォルダのデフォルトの表示を選択。 フォルダを開いたときに、指定した表示でフォルダが表示される
「アイテムを整列」	この表示に表示されるフォルダ内の項目を並べ替える特性を選択
「フォルダをファイルより前に並べる」	フォルダをソートすると、フォルダがファイルの前にリスト表示される
「隠しファイルとバックアップファイルを表示する」	隠しファイルとバックアップファイルを表示区画に表示する。 隠しファイルのファイル名の最初の文字はピリオド (.)。バックアップファイルのファイル名の最後の文字はチルダ (~) 隠しファイルのファイル名に `.hidden` 拡張子を追加すると、隠しファイルを表示区画に表示できる
「拡大レベルをデフォルトに戻す」	アイコン表示とリスト表示。 この表示に表示されるフォルダのデフォルトの拡大レベルを選択。 拡大レベルは、ビュー内の項目のサイズを指定する
「コンパクトレイアウトを使用」	フォルダ内の項目が互いに接近するようにアイコン表示の項目が整理される
「アイコンに表示する優先テキスト」(Linux のみ)	アイコン見出しをアイコンの下ではなく、横に表示する
「フォルダのみ表示する」	サイド区画の「ツリー」にフォルダのみを表示する

動作環境を設定する

ファイルとフォルダの環境を設定するには、「編集」→「設定」を選択します。 「動作」タブをクリックして、「動作」タブセクションを表示します。

表 8–5 に、変更可能なファイルとフォルダの設定を示します。

表 **8–5** ファイルとフォルダの動作設定

オプション	説明
「シングルクリックでアイテムを起動する」	ユーザーが項目をクリックすると、デフォルトのアクションが実行される。 このオプションを選択した場合、項目をマウスでポイントすると項目下のタイトルに下線が引かれる
「ダブルクリックでアイテムを起動する」	ユーザーが項目をダブルクリックすると、デフォルトのアクションが実行される。
「実行可能なテキストファイルのクリック時に、そのファイルを実行する」	実行ファイルを選択すると、その実行ファイルが実行される。 実行ファイルとは、実行可能なテキストファイル、つまりシェルスクリプトを指す
「実行可能なテキストファイルのクリック時に、そのファイルの中身を表示する」	実行ファイルを選択すると、その内容が表示される
「毎回確認する」	実行ファイルを選択すると、ダイアログが表示される。 ダイアログによって、ファイルを実行するか表示するかを選択できる
「ごみ箱を空にする、または、ファイルを削除する前に確認を求める」	ごみ箱を空にする (ファイルを削除する) 前に確認メッセージを表示する
「ごみ箱を経由しない削除コマンドを含める」	「削除」メニュー項目を以下のメニューに追加する ■ 「編集」メニュー ■ ファイル、フォルダ、またはデスクトップの背景にあるオブジェクトを右クリックしたときに表示されるポップアップメニュー 項目を選択して「削除」 メニュー項目を選ぶと、その項目は直ちにファイルシステムから削除される

アイコン見出しを設定する

アイコン見出しは、アイコン表示でファイルやフォルダの名前を表示します。 アイコン見出しには、ファイルやフォルダの情報が他に 3 つ含まれています。 追加情報は、ファイル名の後に表示されます。 通常は 1 項目しか表示されていませんが、アイコンを拡大表示すると他の情報も表示されます。 どの追加情報をアイコン見出しに表示するかは、変更できます。

アイコン見出しの環境を設定するには、「編集」→「設定」を選択します。 「アイコンの見出し」タブをクリックして、「アイコンの見出し」タブセクションを表示します。

3 つのドロップダウンリストからアイコン見出しに表示する項目を選択します。 まず最初の項目を最初のドロップダウンリストから選択し、次の項目を次のドロップダウンリストから選択するというように実行します。 以下の表には、選択可能な項目が示されています。

インフォメーション	説明
「サイズ」	項目のサイズを表示
「タイプ」	ファイルタイプとプログラム設定ツールから、項目の MIME タイプについての説明を表示
「更新日時」	項目の最終変更日を表示
「アクセス日」	項目の最終アクセス日を表示
「所有者」	項目の所有者を表示
「グループ」	項目が属しているグループを表示
「アクセス権」	項目のアクセス権を `-rwxrw-r--` のように3 文字の 3 セットで表示
「8 進数表記のアクセス権」	項目のアクセス権を `764` のように 8 進数表記で表示
「**MIME** タイプ」	項目の MIME タイプを表示
「なし」	項目の情報を表示しない

一覧の項目を設定する

ファイルマネージャウィンドウの一覧表示に表示する情報を指定できます。 一覧表示に表示する項目、およびこれらの項目の順序を指定できます。

一覧の項目を設定するには、「編集」→「設定」を選択します。 「リストの項目」タブをクリックして、「リストの項目」 タブセクションを表示します。

一覧表示に表示する項目を指定するには、目的の項目に該当するオプションを選択して、「表示」ボタンをクリックします。 一覧表示から項目を削除するには、目的の項目に該当するオプションを選択して、「隠す」ボタンをクリックします。

一覧表示内での項目の位置を指定するには、「上へ移動」および「下へ移動」ボタンを使用します。

デフォルトの項目と位置を使用するには、「デフォルトを使用」ボタンを使用します。

以下の表に、表示可能な項目を示します。

インフォメーション	説明
「名前」	項目の名前を表示する
「サイズ」	項目のサイズを表示

インフォメーション	説明
「タイプ」	ファイルタイプとプログラム設定ツールから、項目の MIME タイプについての説明を表示
「更新日時」	項目の最終更新日時を表示
「アクセス日」	項目の最終アクセス日を表示
「グループ」	項目が属しているグループを表示
「**MIME** タイプ」	項目の MIME タイプを表示
「**8** 進数表記のアクセス権」	項目のアクセス権を `764` のように 8 進数表記で表示
「所有者」	項目の所有者を表示
「アクセス権」	項目のアクセス権を `-rwxrw-r--` のように3 文字の 3 セットで表示

プレビュー環境を設定する

ファイルマネージャには、ファイルのプレビュー機能がいくつかあります。 プレビュー機能は、ユーザーの要求に対するファイルマネージャの応答速度に影響を与える場合があります。 ファイルマネージの速度を改善するために、この機能の動作を変更できます。 各プレビューの設定に対して、以下の表に示すオプションのいずれか 1 つを選択できます。

オプション	説明
「常に表示する」	ローカルファイルと、別のファイルシステム上のファイルの両方に対して、動作を実行する
「ローカルファイルのみ」	ローカルファイルに対してのみ動作を実行する
「表示しない」	動作を実行しない

プレビュー環境を設定するには、「編集」→「設定」を選択します。 「プレビュー」タブダイアログをクリックして、「プレビュー」タブセクションを表示します。

表 8–6に、変更可能なプレビュー設定を示します。

表 8–6 プレビューの設定

ダイアログ要素	説明
「アイコンにテキストを表示」	ファイルを表すアイコンのテキストファイルの内容をいつプレビューするかを指定する

表 **8–6** プレビューの設定　(続き)

ダイアログ要素	説明
「サムネイルの表示」	画像ファイルのサムネイルをいつ表示するかを指定する。 ファイルマネージャは、各フォルダのサムネイルファイルを、そのフォルダの 1 レベル下にある `.thumbnails` ディレクトリに格納する
「ファイルの最大サイズ」	ファイルマネージャがサムネイルを作成するファイルの最大サイズを指定する
「サウンドファイルをプレビュー」	サウンドファイルをいつプレビューするかを指定する
「項目数のカウント」	フォルダ内の項目の数をいつ示すかを指定する。 表示にアイコン表示をすでに設定している場合は、「表示」 タブセクションでデフォルトのズームレベルを上げないと、各フォルダのアイテム数を表示できないことがある

背景の変更

ファイルマネージャには、以下の画面コンポーネントの概観と雰囲気を変更するために使用できる背景が含まれています。

- デスクトップ
- ブラウザウィンドウのサイド区画と表示区画
- パネル

画面コンポーネントの背景を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。
2. 背景に使用できるパターンのリストを表示するには、「背景とエンブレム」ダイアログの「パターン」ボタンをクリックします。 背景に使用できる色のリストを表示するには、「色」ボタンをクリックします。
3. 背景をパターンに変更するには、そのパターンを画面コンポーネントにドラッグします。 背景を色に変更するには、その色を画面コンポーネントにドラッグします。
4. 「閉じる」をクリックします。

表示区画やサイド区画の背景をデフォルトの背景に戻すには、区画の背景を右クリックし、「デフォルトの背景を使用」を選択します。

特定のフォルダのサイド区画または表示区画の背景を変更した場合、ファイルマネージャは指定した背景を記憶します。 次回、そのフォルダを表示したとき、指定した背景が表示されます。 つまり、フォルダの背景を変更した場合、そのフォルダが指定の背景を表示するようにカスタマイズされます。

パターンを追加する

画面コンポーネントで使用できるパターンに、パターンを追加するには、「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。「パターン」ボタンをクリックし、「新しいパターンを追加」ボタンをクリックします。ダイアログが表示されます。ダイアログを使用して、新しいパターンを見つけます。「OK」をクリックして、新しいパターンを「背景とエンブレム」ダイアログに追加します。

色を追加する

画面コンポーネントで使用できる色に、色を追加するには、「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。「色」ボタンをクリックし、「新しい色を追加」ボタンをクリックします。「色の選択」ダイアログが表示されます。色ガイドまたはスライダを使用して色を選びます。「OK」をクリックして、新しい色を「背景とエンブレム」ダイアログに追加します。

デフォルトのフォントの選択

フォント 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「表示」→「フォント」の順に選択します。

フォント設定ツールを使用すると、アプリケーション、ウィンドウ、端末、またはデスクトップの背景で使用するフォントを選択できます。

表 8–7 に、変更可能なフォント設定を示します。

表 8–7 フォントの設定

ダイアログ要素	説明
「アプリケーションのフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、アプリケーションで使用するフォントを選択する
「デスクトップのフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、デスクトップの背景のみで使用するフォントを選択する
「ウィンドウタイトルのフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、ウィンドウのタイトルバーで使用するフォントを選択する
「端末のフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、端末 アプリケーションで使用するフォントを選択する

表 **8–7** フォントの設定　*(続き)*

ダイアログ要素	説明
「フォントの描画形式」	画面上のフォントのレンダリング方法を指定するには、次のオプションのどれかを選択する ■ 「モノクロ」: フォントを白黒だけに加工する。 文字がアンチエイリアシングされないので、文字の端がぎざぎざに見えることがある。 アンチエイリアシングは、文字を滑らかに見せるために文字の端に使われる効果である ■ 「最適な形状」: 可能なかぎりフォントをアンチエイリアシングする。 CRT モニタにはこのオプションを使用すること ■ 「最適なコントラスト」: できるだけはっきりしたコントラストを実現するためにフォントを調節し、文字の端がなめらかになるようにフォントをアンチエイリアシングする。 このオプションにより、視力の弱いユーザーに対する Java Desktop System のアクセシビリティが拡大する ■ 「サブピクセルのスムージング **(LCDs)**」: LCD のピクセルのそれぞれの形を利用して、フォントを滑らかにする技術を使用。 LCD またはフラットスクリーンディスプレイには、このオプションを使用すること
「詳細」	画面上のフォントの処理方法をさらに詳細に指定するには、このボタンをクリックする ■ 「解像度 **(**ドット**/**インチ**)**」: このスピンボックスでは、画面のフォント処理時に使われる解像度を指定する ■ 「スムージング」: フォントのアンチエイリアシング方法を指定するオプションの 1 つを選択する ■ 「画面ピクセルの設定 **(Hinting)**」: ヒント は、小さいフォントや解像度の低い画面のフォントの質を改善するフォント処理技術。 フォントをヒント処理する方法を指定するオプションの 1 つを選択する ■ 「サブピクセルの順番」: フォントのサブピクセルの色の順番を指定するオプションの 1 つを選択する。 LCD またはフラットスクリーンディスプレイには、このオプションを使用すること

入力方式の設定

入力方式 設定ツールにアクセスするには、 「起動」をクリックし、 「設定」→「デスクトップの設定」→ 「入力方式」の順に選択します。

入力方式とは、キーボードでのタイプ以外の方法でテキストを入力できるようにするソフトウェアコンポーネントです。 入力方式は一般的に、数千種類の文字を使用する言語のテキストを、それよりはるかに少ない数のキーを持つキーボードで入力するために使用されます。 入力方式は、主に日本語、中国語、韓国語などの言語に関係します。

入力方式設定ツールを使用して、整数および多言語の入力方式の機能を設定します。

表 8–8 に、入力方式設定ツールの要素を示します。

表 **8–8** 入力方式設定ツール

要素	説明
「GNOME 入力方式スイッチ」	入力方式機能を有効にする。 このオプションを選択すると、「入力方式の設定」 ダイアログ内のすべてのオプションが選択可能になる。 このオプションを変更すると、現在のセッションにただちに影響が発生する
「言語ステータスバーを有効にする」	入力方式のステータスバーを表示する
「配置」	言語のステータスバーが配置される場所を、ドロップダウンリストから選択する。 選択肢は次のとおり 「デスクトップパネル上」 「各アプリケーションのウィンドウフレームに接続」
「入力文字の候補ウィンドウを有効にする」	候補選択ウィンドウを使用する。 このオプションを選択すると、入力方式機能によって、アプリケーションウィンドウにコミットするように選択できる文字がポップアップウィンドウに一覧表示される

インターネット接続の設定

インターネット 設定ツールにアクセスするには、「起動」, をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「インターネット」の順に選択します。

インターネット設定ツールを使用すると、システムのインターネットへの接続方法を構成できます。 Java Desktop System をプロキシサーバーに接続するように構成して、プロキシサーバーの詳細を指定することができます。 プロキシサーバーとは、別のサーバーへの要求を傍受して、可能な場合に、その要求をこのプロキシサーバー自体が実行するサーバーのことです。 プロキシサーバーのドメインネームサービス (DNS) の名前か、インターネットプロトコル (IP) アドレスを入力できます。 *DNS* 名は、ネットワーク上のコンピュータに固有のアルファベットで表される識別子です。 *IP* アドレスは、ネットワーク上のコンピュータの、数字で表される固有の識別子です。

表 8–9 に、プロキシの変更可能な設定を示します。

表 **8–9** インターネットの設定

ダイアログ要素	説明
「直接インターネットに接続する」	プロキシサーバーを使わずに直接インターネットに接続する
「マニュアルでプロキシの設定を行う」	プロキシサーバーを通してインターネットに接続し、プロキシサーバーを手動で構成する
「**HTTP** プロキシ」	HTTP サービスを要求するときに使用するプロキシサーバーの DNS 名または IP アドレスを入力する。 プロキシサーバー上の HTTP サービスのポート番号を「ポート」スピンボックスに入力する
「**SSL** プロキシ」	Secure HTTP サービスを要求するときに使用するプロキシサーバーの DNS 名または IP アドレスを入力する。 プロキシサーバー上の Secure HTTP サービスのポート番号を「ポート」スピンボックスに入力する
「**FTP** プロキシ」	FTP サービスを要求するときに使用するプロキシサーバーの DNS 名または IP アドレスを入力する。 プロキシサーバー上の FTP サービスのポート番号を「ポート」スピンボックスに入力する
「**Socks** ホスト」	使用する Socks ホストの DNS 名または IP アドレスを入力する。 プロキシサーバー上の Socks プロトコルのポート番号を「ポート」スピンボックスに入力する
「自動的にプロキシの設定を行う」	プロキシサーバーを通してインターネットに接続し、プロキシサーバーを自動で構成する
「自動構成する **URL**」	プロキシサーバーを自動構成するために必要な情報が保存されている URL を入力する

キーボードアクセシビリティオプションの構成

キーボードアクセシビリティ設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「アクセシビリティ」→「キーボード」の順に選択します。

キーボードアクセシビリティ設定ツールを使用して、キーボードのアクセシビリティ設定を設定します。 キーボードアクセシビリティ設定ツールは、AccessX として知られています。

キーボードのアクセシビリティ設定を次の機能分野ごとにカスタマイズできます。

- 基本
- フィルタ

- マウス

基本設定

表 8–10 に、変更可能なキーボードの基本アクセシビリティ設定を示します。

表 8–10 キーボードアクセシビリティの設定

ダイアログ要素	説明
「キーボードアクセシビリティ機能を有効にする」	キーボードのアクセシビリティ機能を有効にする。 このオプションを選択すると、設定ツールのほかのオプションも利用可能になる
「未使用の場合は無効にする時間」	一定時間キーボードが使用されないと、キーボードアクセシビリティ設定を無効にする。 スライダを使用して、キーボードアクセシビリティ設定が無効になるまでのキーボードのアイドル時間を秒数で指定する。 指定した秒数が経過すると、以下のキーボードアクセシビリティ設定が無効になる ■ バウンスキー ■ マウスキー ■ スローキー ■ スティッキキー ■ トグルキー
「キーボードで機能を変更したときにビープ音を鳴らす」	スティッキキーまたはスローキーなどの機能が有効または無効になると、音で示す
「設定の取り込み」	このボタンをクリックすると、AccessX構成ファイルをインポートする
「スティッキキーを有効にする」	順にキーを押したとき、複数のキーを同時に押す操作を実行する。 あるいは、Shift キーを 5 回押すことによって、スティッキキー機能を有効にできる 設定できるスティッキキーの設定は次のとおりです。 ■ 「修飾キーが押されたときにビープ音を鳴らす」: 修飾キーを押したときに、音によって示す ■ 「同時に **2** つのキー入力を無効にする」: 2 つのキーを同時に押した場合に、それ以上続けてキーを押しても無効にする
「リピートキーを有効にする」	キーボードの自動繰り返し設定を有効にする 次の自動繰り返し設定を設定できる ■ 「遅延」: スライダまたはスピンボックスを使用して、最初にキーを押した後、押したキーの自動繰り返しが行われるまでの間隔を指定する ■ 「速度」: スライダまたはスピンボックスを使用して、1 秒間に何文字入力するかを指定する

表 **8–10** キーボードアクセシビリティの設定　*(続き)*

ダイアログ要素	説明
「設定内容の確認」	テスト入力領域は、入力したときに、キーボード設定がディスプレイにどのように影響するかがわかる対話型のインターフェイス。 テスト入力領域にテキストを入力して、設定の影響を確認する

キーボードアクセシビリティの基本設定の詳細については、『*Java Desktop System Release 2 Accessibility Guide*』を参照してください。

フィルタの設定

表 8–11 に、変更可能なフィルタ設定を示します。

表 **8–11** フィルタの設定

ダイアログ要素	説明
「キーボードアクセシビリティ機能を有効にする」	キーボードのアクセシビリティ機能を有効にする。 このオプションを選択すると、設定ツールのほかのオプションも利用可能になる
「スローキーを有効にする」	認識されるまでキーを押し続ける必要のある時間を制御する。 あるいは、Shift キーを 8 秒間押し続けることによって、スローキー機能を有効にできる 次のスローキー設定を設定できる ■ 「キー入力を受け付けるまでの時間」: スライダまたはスピンボックスを使用して、認識されるまでキーを押し続ける必要のある時間を指定する ■ 「キーが次の状態のときにビープ音を鳴らす」: 入力、受付、拒否を音によって示す
「バウンスキーを有効にする」	キー入力を受け付けて、キーボードのキーの繰り返し特性を制御する。 次のバウンスキー設定を設定できる ■ 「重複したキー入力を無効にする間隔」: スライダまたはスピンボックスを使用して、最初にキーを押した後、押したキーの自動繰り返しが行われるまでの間隔を指定する ■ 「キー入力が拒否された場合にビープ音を鳴らす」: キー拒否を音によって示す
「トグルキーを有効にする」	トグルキーが押されたことを音によって示す。 トグルキーが有効になるとビープ音が 1 回聞こえる。 トグルキーが無効になると ビープ音が 2 回聞こえる
「設定内容の確認」	テスト入力領域は、入力したときに、キーボード設定がディスプレイにどのように影響するかがわかる対話型のインターフェイス。 テスト入力領域にテキストを入力して、設定の影響を確認する

アクセシビリティのフィルタ設定の詳細については、『*Java Desktop System Release 2 Accessibility Guide*』を参照してください。

マウスの設定の変更

表 8–12 に、変更可能なマウス設定を示します。

表 8–12 マウスの設定の変更

ダイアログ要素	説明
「キーボードアクセシビリティ機能を有効にする」	キーボードのアクセシビリティ機能を有効にする。 このオプションを選択すると、設定ツールのほかのオプションも利用可能になる
「マウスキーを有効にする」	数字キーパッドがマウス操作をエミュレートする。 次のマウスキー設定を設定できる ■ 「マウスポインタの最大速度」: スライダまたはスピンボックスを使用して、ポインタが画面上を移動する最大速度を指定する ■ 「最大速度まで加速するまでの時間」: スライダまたはスピンボックスを使用して、ポインタの加速時間の間隔を指定 ■ 「キー入力してからポインタが移動するまでの遅延」: スライダまたはスピンボックスを使用して、キーを押してからポインタが移動するまでの時間を指定する
「マウスの設定」	マウス 設定ツールを開く

マウスのアクセシビリティの設定についての詳細は、『*Java Desktop System Release 2 Accessibility Guide*』を参照してください。

キーボードの動作の設定

キーボード設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「キーボード」→「動作」.の順に選択します。

キーボードの動作設定ツールを使用すると、キーボードの自動繰り返しの設定を変更したり、キー入力の休止を設定したりできます。

次の機能領域内では、キーボードの動作設定ツールの設定を設定できます。

- 「キーボード」
- 「キー入力の休止」
- 「レイアウト」
- 「レイアウトのオプション」

キーボードの設定の変更

「キーボード」タブセクションを使用して、一般的なキーボードの環境を設定します。 キーボードのアクセシビリティ設定ツールであるAccessX を起動するには、「アクセシビリティ」ボタンをクリックします。

表 8–13 に、変更可能なキーボード設定を示します。

表 8–13 キーボードの設定の変更

ダイアログ要素	説明
「キーを押し続けたときにキー入力を繰り返す」	キーボードの繰り返しを有効にする。 キーボードの繰り返しが有効な場合、キーを押したままにすると、そのキーと関連付けられる操作が繰り返し実行される。 たとえば、文字キーを押したままにすると、その文字が繰り返し入力される
「遅延」	キーを押したときから、操作が繰り返されるまでの遅延を指定する
「速度」	操作が繰り返される速度を指定する
「テキストボックスとフィールドでカーソルを点滅させる」	フィールドおよびテキストボックスでカーソルを点滅させる
「速度」	スライダを使用して、フィールドおよびテキストボックスでのカーソルの点滅速度を指定する
「設定内容の確認」	テスト入力領域は、入力したときに、キーボード設定がディスプレイにどのように影響するかがわかる対話型のインターフェイス。 テスト入力領域にテキストを入力して、設定の影響を確認する

キー入力の休止の設定

キー入力の休止を設定するには、「キー入力の休止」タブセクションを使用します。 キーボードのアクセシビリティ設定ツールであるAccessX を起動するには、「アクセシビリティ」ボタンをクリックします。

表 8–14 に、変更可能なキー入力の休止の設定を示します。

表 8–14 キー入力の休止の設定

ダイアログ要素	説明
「キー入力の休止を強制するために画面をロックする」	キー入力の休止に入ったときに画面をロックする

表 8–14 キー入力の休止の設定　(続き)

ダイアログ要素	説明
「開始するまでの時間」	スピンボックスを使用して、キー入力の休止の状態に入る前に操作が可能な時間を指定する
「休止する時間」	スピンボックスを使用して、キー入力の休止時間の長さを指定する
「休止の延長を許可する」	キー入力の休止を延長できるようにする

キーボードのレイアウト

キーボードのレイアウトを設定するには、「レイアウト」 タブセクションを使用します。 ドロップダウンリストから、キーボードモデルを選択します。 ナビゲーションボタンを使用して、選択したレイアウトを使用可能なレイアウトのリストに追加したり、リストから削除したりします。

異なるロケールには、それぞれに合った複数のレイアウトを選択できます。

キーボードのアクセシビリティ設定ツールであるAccessX を起動するには、「アクセシビリティ」ボタンをクリックします。

キーボードのレイアウトオプション

キーボードのレイアウトオプションを設定するには、「レイアウトオプション」タブセクションを使用します。 使用可能なレイアウトオプションのリストからオプションを 1 つ選択して 「追加」をクリックすると、オプションが選択されます。 選択したオプションを削除するには、「削除」 ボタンを使用します。

キーボードのアクセシビリティ設定ツールであるAccessX を起動するには、「アクセシビリティ」ボタンをクリックします。

アプリケーションのメニューおよびツールバーのカスタマイズ

メニューとツールバー設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→ 「表示」→ 「メニューとツールバー」の順にクリックします。

メニューとツールバー設定ツールを使用して、GNOME 準拠のアプリケーションのメニュー、メニューバー、およびツールバーをカスタマイズできます。

表 8–15 に、GNOME 準拠のアプリケーション用にカスタマイズできるメニューおよびツールバー設定を示します。

表 **8–15** メニューとツールバーの設定

ダイアログ要素	説明
「メニューにアイコンを表示」	メニュー内の各項目の横にアイコンを表示する。 メニュー項目のなかには、アイコンを持たないものもある
「ツールバーを取り外し可能にする」	ツールバーをアプリケーションウィンドウから、画面上の任意の場所に移動する。 このオプションを選択した場合、アプリケーションのツールバーの左側に、ハンドルが表示される。 ツールバーを移動するには、ハンドルをクリックアンドホールドして、別の位置にツールバーをドラッグする
「ツールバーのスタイル」	以下に示すオプションのいずれか 1 つを選択して、GNOME 準拠のアプリケーションのツールバーで表示する項目を指定する ■ 「アイコンの下にテキストを表示」: ツールバーの各ボタン上にテキストとアイコンを表示する ■ 「アイコンに表示する優先テキスト」: ツールバーの各ボタン上にアイコンだけを表示し、重要なボタンにのみテキストも表示する ■ 「アイコンのみ」: ツールバーの各ボタン上にアイコンのみを表示する ■ 「テキストのみ」: ツールバーの各ボタン上にテキストのみを表示する

マウスの設定

マウス 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「マウス」の順に選択します。

マウス設定ツールを使用すると、マウスを右利き用または左利き用に構成できます。また、マウス動作の速度および感度を指定することもできます。

次の機能領域内では、マウス設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 「ボタン」
- 「カーソル」
- 「動作」

ボタンの設定

「ボタン」タブセクションを使用すると、マウスボタンを右利き用または左利き用に構成できます。 また、ダブルクリック時のクリックの間隔を指定することもできます。

表 8–16 に、マウスの変更可能なボタン設定を示します。

表 **8–16** マウスボタンの設定

ダイアログ要素	説明
「左利き用マウス」	マウスを左利き用に構成する。 マウスを左利き用に構成した場合、左マウスボタンの機能と右マウスボタンの機能が入れ替わる
タイムアウト	スライダを使用して、ダブルクリック時のクリックの間隔を指定する。 最初のクリックと 2 回目のクリックの間隔がここで指定した時間を越える場合、その操作はダブルクリックとして解釈されない

ポインタの設定

「カーソル」タブセクションを使用すると、マウスポインタの環境を設定できます。

表 8–17 に、マウスの変更可能なポインタ設定を示します。

表 **8–17** マウスポインタの設定

ダイアログ要素	説明
「小」(Linux のみ)	小さいマウスポインタを表示する
「中」	中くらいのマウスポインタを表示する
「大」	大きいマウスポインタを表示する
Ctrl キーを押したときポインタをハイライトする	Ctrl キーを押して放したときのマウスポインタのアニメーションを有効にする。 この機能は、マウスポインタの検出を補助する

動作の設定

「動作」タブセクションを使用して、マウス動作の環境を設定します。

表 8–18 に、マウスの変更可能な動作設定を示します。

表 **8–18** マウス動作の設定

ダイアログ要素	説明
「加速」	スライダを使用して、マウス移動時の、画面上でのマウスポインタの移動速度を指定する
「感度」	スライダを使用して、マウスの動きに対する、マウスポインタの感度を指定する
「しきい値」	スライダを使用して、移動操作がドラッグアンドドロップ操作として解釈されるまでの、項目の移動距離を指定する

パネルのカスタマイズ

「パネル」設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「パネル」の順に選択します。

パネル 設定ツールでは、パネルの動作を構成できます。 パネル設定ツールで行なった変更は、すべてのパネルに影響します。

表 8–19 に、変更可能なパネル設定を示します。

表 **8–19** パネルの設定

ダイアログ要素	説明
「ランチャーをクリックし引き出しを閉じる」	引き出し内のランチャーを選択したときに、パネル上のその引き出しを閉じる
「引き出しとパネルのアニメーション」	アニメーションスタイルでパネルや引き出しを表示し、隠す
「アニメーションの速度」	ドロップダウンリストから、パネルのアニメーション速度を選択する

PDA デバイスの設定

PDA デバイス設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「PDA デバイス」の順に選択します。

PDA (携帯情報端末) は、個人用の整理手帳として利用できるハンドヘルドコンピュータです。 PDA には、アポイント、タスク、連絡先などの情報を保存できます。 これらの情報を、PDA と Java Desktop System のアプリケーションの間で転送することもできます。 たとえば、カレンダのアポイントを PDA から Ximian Evolution に、および Evolution から PDA にコピーすることができます。

PDA とコンピュータ間でデータの転送を行う場合、ユーザーは *HotSync* 処理を行います。 HotSync 処理時に発生すアクションは、コンジットによって制御されます。 コンジットは、コンピュータと PDA 間でデータの転送を行うアプリケーションです。

コンジットに指定可能なアクションの 1 つとして、PDA とコンピュータ間でデータを結合します。 これは、同期アクションと呼ばれます。 たとえば、連絡先情報を PDA に追加し、Evolution には別の連絡先情報を追加することがあります。 この場合、PDA 上の連絡先情報を Evolution に追加し、Evolution 上の連絡先情報を PDA に追加する必要が生じます。 そのためには、PDA と Evolution 間でデータを同期させる必要があります。

PDA デバイス設定ツールでは、PDA が Java Desktop System と連動するように設定したり、設定済みの PDA を変更したりできます。 PDA デバイス設定ツールで、以下のタスクを実行できます。

- PDA を設定する
- PDA の設定を変更する
- PDA がコンピュータに接続する方法を設定する
- PDA がコンピュータに接続する方法を変更する
- コンジットが PDA と Java Desktop System のアプリケーション間でデータを転送する方法を設定する

バックグラウンドアプリケーションは、PDA がコンピュータと同期をとるための試行を待機します。 このようなバックグラウンドアプリケーションは、*PDA* デーモンと呼ばれます。 PDA がコンピュータとの同期とりを試みると、PDA デーモンが PDA 上のデータをコンピュータ上のデータと同期させます。

ヒント – GNOME パイロットには、PDA デーモンの動作が表示されます。 GNOME パイロットをパネルに追加するには、 パネル上を右クリックして、「パネルに追加」→「ユーティリティ」→「PDA モニター」 の順に選択します。 GNOME パイロットの詳細については、『*GNOME* パイロットアプレットのマニュアル』を参照してください。

PDA を設定する

PDA は、次のいずれかの方法で設定できます。

- GNOME パイロットの設定アシスタントを使用する。 コンピュータ上に PDA を設定していない場合は、PDA デバイス設定ツールを起動したときに GNOME パイロットの設定アシスタントが表示される。 GNOME パイロットの設定アシスタントは、PDA の設定プロセスを誘導する
- PDA デバイス設定ツールを使用する。 コンピュータ上に PDA を設定済みである場合、PDA デバイス設定ツールを起動したときに「パイロットの設定」 ダイアログが表示される。 「パイロットの設定」ダイアログを使用して、PDA の詳細情報を入力する

アシスタントを使用して PDA を設定する

PDA を設定するには、以下の操作を実行します。

1. PDA をコンピュータに接続します。 PDA にクレードルが付いている場合は、PDA をクレードルにセットします。
2. 「起動」をクリックし、「設定」→「PDA デバイス」を選択して、PDA デバイス設定ツールを起動します。 GNOME パイロットの設定アシスタントが表示されます。 「進む」ボタンをクリックして構成プロセスを開始します。
3. PDA がコンピュータに接続する方法に関する情報を、「クレードルの設定」ページに入力します。 次の表に、「クレードルの設定」ページの設定を示します。

要素	説明
「名前」	テキストボックスに接続の名前を入力する
「ポート」	ドロップダウンコンビネーションボックスに、接続用のポートを入力する。 たとえば、PDA が USB (Universal Serial Bus) ポートを使用する場合、このフィールドに `/dev/ttyUSB1` と入力する。 PDA が正常に接続しない場合、ほかのポートで試行する 「ポート」フィールドのデフォルト値は、`/dev/pilot`。 このフィールドのデフォルト値を変更しない場合は、PDA が使用するポートから `/dev/pilot` へのシンボリックリンクを作成できる。 たとえば、PDA が USB ポートを使用する場合は、次の例のようなコマンドを実行する `# ln -s /dev/ttyUSB1 /dev/pilot` 注 – 指定したポートにアクセスするには、適切な権限が必要になる。 適切な権限を与えられていない場合は、システム管理者に問い合わせる
「速度」	ドロップダウンリストから、接続の速度を選択する ヒント – 最も遅い速度を選択する。 最も遅い速度でも PDA への接続が確実に確立される場合は、その次に速い速度を選択する。 これを、PDA への接続が確実に確立される最も速い速度が判明するまで繰り返す
タイムアウト	スピンボックスを使用して、接続が切断される前にアイドル状態で維持される時間を分単位で指定する
「タイプ」	ポートのタイプをラジオボタンから選択する。 次のオプションがあります。 ■ 「シリアル」: シリアルポートの場合に選択 ■ 「**USB**」: USB ポートの場合に選択 ■ 「**IrDA**」: 赤外線ポートの場合に選択 ■ 「ネットワーク」: ネットワーク接続ポートの場合に選択

接続情報の指定が完了したら、「進む」ボタンをクリックします。

4. 「パイロットの識別情報」ページに PDA の識別情報を入力します。 次の表に、「パイロットの識別情報」ページの要素を示します。

要素	説明
「はい。このパイロットを用いて以前に同期を行ったことがあります。」	この PDA にユーザー名と識別子を設定済みである場合に選択する。 コンピュータで PDA を設定した場合、ユーザー名と ID は PDA に設定される
「いいえ。このパイロットで同期を行うのは初めてです。」	この PDA にユーザー名と識別子を設定していない場合に選択する
「ユーザー名」	この PDA にユーザー名と識別子を設定していない場合、このテキストボックスにユーザー名を入力する
「**ID**」	この PDA にユーザー名と識別子を設定していない場合、このテキストボックスに識別子を入力する。 この識別子は、使用するすべての PDA で一意である必要がある

識別情報の入力を完了したら、「進む」ボタンをクリックします。 「最初の同期」ページが表示されます。

5. PDA 上の「HotSync」ボタンを押します。 「パイロットの識別情報」ページで選択したオプションに応じて、GNOME パイロットの設定アシスタントが次のいずれかの処理を実行します。

   - 「はい。このパイロットを用いて以前に同期を行ったことがあります。」オプションを選択した場合、GNOME パイロットの設定アシスタントは、PDA に現在登録されているユーザー名と識別子を取得する
   - 「いいえ。このパイロットで同期を行うのは初めてです。」オプションを選択した場合、GNOME パイロットの設定アシスタントは、PDA のユーザー名と識別子を「ユーザー名」テキストボックスと「**ID**」テキストボックスの値に設定する

   最初の同期が完了したら、「進む」ボタンをクリックします。 「パイロットの属性」ページが表示されます。

6. 「パイロットの属性」ページに、PDA の名前とディレクトリ情報を入力します。 次の表に、「パイロットの属性」ページの設定を示します。

要素	説明
「パイロットの名前」	PDA の名前を入力する。 この名前は、ユーザーインターフェイスで PDA を識別するために使用される

要素	説明
「ローカルベースディレクトリ」	PDA データを保存するディレクトリを入力する

名前とディレクトリ情報の入力を完了したら、「進む」ボタンをクリックします。

7. 「成功」ページで「適用」ボタンをクリックして、GNOME パイロットの設定アシスタントを閉じます。

   または、「取り消し」ボタンをクリックして、PDA の設定を取り消します。

PDA デバイス設定ツールを使用して PDA を設定する

次の手順を実行します。

1. 「起動」をクリックし、「設定」→「PDA デバイス」を選択して、PDA デバイス設定ツールを起動します。
2. 「パイロットの設定」ダイアログの「パイロット」タブセクションで、「追加」ボタンをクリックします。「パイロットの設定」ダイアログが表示されます。
3. PDA からユーザー名と識別子を取得するには、「パイロットから取得」ボタンをクリックします。ユーザー名と識別子を PDA に割り当てるには、テキストボックスにユーザー名と識別子を入力して、「パイロットに送信」ボタンをクリックします。
4. 「パイロットの名前」フィールドおよび「ローカルベースディレクトリ」フィールドに、PDA の名前とディレクトリ情報を入力します。これらのフィールドの詳細については、170 ページの「アシスタントを使用して PDA を設定する」を参照してください。

PDA を変更する

次の手順を実行します。

1. 「起動」をクリックし、「設定」→「PDA デバイス」を選択して、PDA デバイス設定ツールを起動します。
2. 「パイロットの設定」ダイアログの「パイロット」タブセクションで、変更したい PDA を選択して「編集」ボタンをクリックします。「パイロットの設定」ダイアログが表示されます。
3. PDA からユーザー名と識別子を取得するには、「パイロットから取得」ボタンをクリックします。ユーザー名と識別子を PDA に割り当てるには、テキストボックスにユーザー名と識別子を入力して、「パイロットに送信」ボタンをクリックします。
4. 「パイロットの名前」フィールドおよび「ローカルベースディレクトリ」フィールドに、PDA の名前とディレクトリ情報を入力します。これらのフィールドの詳細については、170 ページの「アシスタントを使用して PDA を設定する」を参照してください。

5. 「パイロットの設定」ダイアログの「了解」をクリックします。

PDA がコンピュータに接続する方法を設定する

次の手順を実行します。

1. 「起動」をクリックし、「設定」→「PDA デバイス」を選択して、PDA デバイス設定ツールを起動します。
2. 「パイロットの設定」ダイアログの「デバイス」タブセクションで、「追加」ボタンをクリックします。
3. 「デバイスの設定」ダイアログに、PDA の接続情報を入力します。「デバイスの設定」ダイアログ内の要素の詳細については、170 ページの「アシスタントを使用して PDA を設定する」を参照してください。

PDA がコンピュータに接続する方法を変更する

次の手順を実行します。

1. 「起動」をクリックし、「設定」→「PDA デバイス」を選択して、PDA デバイス設定ツールを起動します。
2. 「パイロットの設定」ダイアログの「デバイス」タブセクションで、変更したいハードウェア設定を選択して「編集」ボタンをクリックします。
3. 「デバイスの設定」ダイアログに、PDA のハードウェア設定を入力します。「デバイスの設定」ダイアログ内の要素の詳細については、170 ページの「アシスタントを使用して PDA を設定する」を参照してください。

PDA とアプリケーション間でデータを転送する方法を指定する

次の手順を実行します。

1. 「起動」をクリックし、「設定」→「PDA デバイス」を選択して、PDA デバイス設定ツールを起動します。
2. PDA デーモンが有効であり、正常に動作することを確認します。そのためには、GNOME パイロットアプレットをパネルに追加します。GNOME パイロットアプレットのアイコンが白黒で表示される場合、PDA デーモンは有効です。
3. 「パイロットの設定」ダイアログの「コンジット」タブセクションで、設定したいコンジットが含まれる PDA を「パイロットの名前」ドロップダウンリストから選択します。
4. コンジットを有効にするには、表からコンジットを選択して「有効」ボタンをクリックします。

5. コンジットを無効にするには、表からコンジットを選択して「無効」ボタンをクリックします。
6. コンジットを設定するには、表からコンジットを選択して、「設定」ボタンをクリックします。「コンジットの設定」ダイアログに、コンジットの設定に関する詳細情報を入力します。「コンジットの設定」ダイアログ内の要素は、次の表のとおりです。

要素	説明
「アクション」	HotSync 処理時に実行されるアクションを選択する 次のオプションの中からいずれか 1 つを選択する ■ 「無効」: このコンジットに対してアクションを実行しない ■ 「同期」: PDA 上のデータをコンピュータ上のデータと同期させる ■ 「パイロットからコピー」: PDA からコンピュータにデータをコピーし、コンピュータ上の元のデータを上書きする ■ 「パイロットへコピー」: コンピュータから PDA にデータをコピーし、PDA 上の元のデータを上書きする
「一回だけの操作」	1 回だけ実行するアクションを選択する。 このアクションは、次の HotSync 処理時に実行される。 次のオプションの中からいずれか 1 つを選択する ■ 「なし」: 1 回だけのコンジットアクションを設定しない ■ 「同期」: PDA 上のデータをコンピュータ上のデータと同期させる ■ 「パイロットからコピー」: PDA からコンピュータにデータをコピーし、コンピュータ上の元のデータを上書きする ■ 「パイロットへコピー」: コンピュータから PDA にデータをコピーし、PDA 上の元のデータを上書きする
「バックアップディレクトリ」	PDA のバックアップデータを保存するディレクトリを入力する バックアップコンジットのみ
「変更があったものだけを保存する」	最後のバックアップ後に変更されたデータのみをバックアップする。 変更されていないデータはバックアップディレクトリから削除されない バックアップコンジットのみ
「パイロットで削除したら、ローカルのディレクトリも削除する」	PDA から削除されたデータをコンピュータからも削除する バックアップコンジットのみ
「# 保持するための古いバックアップ」	スピンボックスを使用して、コンピュータに保持する過去のバックアップの数を指定する バックアップコンジットのみ

要素	説明
「プライベートレコードの同期」	HotSync 処理の実行時に、プライベートとしてマークが付けられたデータを含める このオプションは、以下のコンジットのみに適用される ■ 「**EAddress**」 ■ 「**ECalendar**」 ■ 「**EToDo**」
「デフォルトで同期するアドレス」	1 つの連絡先に複数のアドレスが設定されていることがある。たとえば、1 つの連絡先にビジネス用アドレスと自宅用アドレスが設定されている場合がある。 PDA の連絡先マネージャは、複数アドレスをサポートしていない 同期させるアドレスのカテゴリをドロップダウンリストから選択する。 たとえば、ビジネス用アドレスのみを同期させる場合は、「ビジネス」を選択する **EAddress**コンジットのみ
「複数日のイベントに分割」	複数の日に渡って発生するアポイントを分割して別々のアポイントにする **ECalendar**コンジットのみ
「デフォルトの優先度」	スピンボックスを使用して、優先度が割り当てられていないタスクに適用されるデフォルトの優先度を指定する **EToDo**コンジットのみ

7. 「OK」をクリックして、「コンジットの設定」ダイアログを閉じます。

PDA のデータをコンピュータにバックアップする

PDA に問題が発生した場合のデータの消失を避けるために、PDA のデータをコンピュータにバックアップすることがあります。 PDA のデータをコンピュータにバックアップするには、以下の操作を実行します。

1. 「起動」をクリックし、「設定」→「PDA デバイス」を選択して、PDA デバイス設定ツールを起動します。
2. PDA デーモンが有効であり、正常に動作することを確認します。 そのためには、GNOME パイロットアプレットをパネルに追加します。 GNOME パイロットアプレットのアイコンが白黒で表示される場合、PDA デーモンは有効です。
3. 「パイロットの設定」ダイアログの「コンジット」タブセクションで、バックアップしたいデータが含まれる PDA を「パイロットの名前」ドロップダウンリストから選択します。
4. 表から「バックアップ」コンジットを選択し、「有効」ボタンをクリックします。

5. 「コンジットの設定」ダイアログに、「バックアップ」コンジットの設定に関する詳細情報を入力します。「コンジットの設定」ダイアログ内の要素の詳細については、173 ページの「PDA とアプリケーション間でデータを転送する方法を指定する」を参照してください。
6. PDA 上の「HotSync」ボタンを押します。

バックアップデータを復元する方法については、『*GNOME* パイロットアプレットのマニュアル』を参照してください。

優先するアプリケーションの選択

優先するアプリケーション設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「優先するアプリケーション」 の順に選択します。

優先するアプリケーション設定ツールを使用して、優先するアプリケーションの起動時に Java Desktop System が使用するアプリケーションを指定します。 たとえば、優先端末アプリケーションとして、Xterm を指定できます。 「起動」 をクリックし、「アプリケーション」→「ユーティリティ」→「端末」の順に選択するとXtermが起動します。

次の領域内では、「優先するアプリケーション」設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 「**Web** ブラウザ」
- 「メールリーダ」
- 「テキストエディタ」
- 「端末」

Web ブラウザの設定

優先 Web ブラウザを設定するには、「Web ブラウザ」タブセクションを使用します。 優先 Web ブラウザは、URL をクリックしたときに開きます。 たとえば、アプリケーションで URL を選択するか、デスクトップで URL ランチャーを選択したときに、優先 Web ブラウザが開きます。

表 8–20 に、優先 Web ブラウザの変更可能な設定を示します。

表 **8–20** Web ブラウザの設定

ダイアログ要素	説明
「**Web** ブラウザを選択」	標準の Web ブラウザを使用する。 ドロップダウンコンビネーションボックスを使用して、優先 Web ブラウザを選択する
「カスタム **Web** ブラウザ」	カスタムの Web ブラウザを使用する
「コマンド」	カスタム Web ブラウザを起動するコマンドを入力する。 クリックした URL をブラウザが表示できるようにするには、コマンドの後に、"%s" を指定する
「端末内で実行」	端末でコマンドを実行する。 実行するウィンドウを作成しないブラウザには、このオプションを選択

電子メールクライアントの設定

優先電子メールクライアントを設定するには、「メールリーダ」タブセクションを使用します。

表 8–21 に、優先電子メールクライアントの変更可能な設定を示します。

表 **8–21** 優先電子メールクライアントの設定

ダイアログ要素	説明
「メールリーダの選択」	標準の電子メールクライアントを使用する。 ドロップダウンコンビネーションボックスを使用して、優先電子メールクライアントを選択する
「他のメールリーダ」	カスタムの電子メールクライアントを使用する
「コマンド」	カスタムの電子メールクライアントを起動するコマンドを入力する
「端末内で実行」	端末でコマンドを実行する。 実行するウィンドウを作成しない電子メールクライアントには、このオプションを選択

テキストエディタの設定

「テキストエディタ」タブセクションを使用すると、優先テキストエディタを構成できます。

表 8–22 に、優先テキストエディタの変更可能な設定を示します。

表 **8–22** 優先テキストエディタの設定

ダイアログ要素	説明
「エディタを選択」	標準のテキストエディタを使用する。 ドロップダウンコンビネーションボックスを使用して、優先テキストエディタを指定する
「カスタムエディタ」	カスタムのテキストエディタを使用する。 「カスタムエディタプロパティ」ダイアログが表示される ■ 「名前」: カスタムテキストエディタの名前を入力する ■ 「コマンド」: カスタムテキストエディタを起動するコマンドを入力する ■ 「このアプリケーションは複数のファイルを開くことができます」: デフォルトのテキストエディタが複数のファイルを開く場合に選択する ■ 「このアプリケーションはシェル上で実行する必要があります」: 端末でコマンドを実行する。 実行するウィンドウを作成しないエディタには、このオプションを選択 カスタムテキストエディタを指定したあと、「プロパティ」ボタンをクリックして、「カスタムエディタプロパティ」ダイアログを表示できる。 ダイアログを使用して、カスタムテキストエディタの設定を変更できる
「このエディタを使用してファイルマネージャのテキストファイルを開く」	ファイルマネージャが、テキストファイルの表示にカスタムテキストエディタを起動する

端末の設定

「端末」タブセクションを使用して、優先端末を構成します。

表 8–23 に、優先端末の変更可能な設定を示します。

表 **8–23** 優先端末の設定

ダイアログ要素	説明
「端末を選択」	標準の端末を使用する。 ドロップダウンコンビネーションボックスを使用して、優先端末を指定する
「カスタム端末」	カスタムの端末を使用する
「コマンド」	カスタム端末を起動するコマンドを入力する
「実行フラグ」	コマンドに指定する実行オプションを入力する

スクリーンセーバーの設定

スクリーンセーバー設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「表示」→「スクリーンセーバー」の順に選択します。

スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面の画像の代わりに使用されるアプリケーションです。 スクリーンセーバーは、次の方法で使用できます。

- 指定した待機時間のあとに起動
- 画面をロックしたときに起動
- システムが待機中にモニタが使用する電力を管理

次の機能領域内では、スクリーンセーバー設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 「表示モード」
- 「拡張」

表示モードの設定

「表示モード」タブセクションを使用すると、表示モードを設定できます。

表 8–24 に、表示モードの変更可能な設定を示します。

表 8–24 スクリーンセーバー表示モードの設定

ダイアログ要素	説明
「モード」	ドロップダウンリストを使用して、スクリーンセーバーの動作を指定する。 次のオプションがあります。 ■ 「スクリーンセーバーを無効化にする」: スクリーンセーバーを使用しない場合に選択する ■ 「ブランクスクリーンのみ」: 画面をロックしたときに、画面を空白にする場合に選択する ■ 「1 つのスクリーンセーバーのみ」: 画面をロックしたときに、ディスプレイリストから、単一のスクリーンセーバーディスプレイを表示する場合に選択する ■ 「ランダムなスクリーンセーバー」: 画面をロックしたときに、ディスプレイリストから無作為に選択したスクリーンセーバーディスプレイを表示する場合に選択する
ディスプレイリスト	リストから希望のスクリーンセーバーディスプレイを選択する

表 **8–24** スクリーンセーバー表示モードの設定　(続き)

ダイアログ要素	説明
「ブランクの間隔」	最後にマウスまたはキーボードを使用してから、スクリーンセーバーを起動するまでの待ち時間を指定する
「繰り返しの間隔」	あるスクリーンセーバーの表示から次のスクリーンセーバーの表示までの時間を指定する
「スクリーンロックの間隔」	スクリーンセーバーが起動したあと、スクリーンロックする場合に選択する。 スピンボックスを使用して、スクリーンセーバーの起動とスクリーンロックまでの遅延時間を指定する
「プレビュー」	このボタンをクリックすると、スクリーンセーバーディスプレイリストで選択したスクリーンセーバーディスプレイをプレビューできる。 プレビューを停止するには、任意のキーを押すか、マウスボタンをクリックする
「設定」	このボタンをクリックすると、スクリーンセーバーディスプレイリストで選択したスクリーンセーバーディスプレイのオプションを表示できる

拡張設定

「拡張設定」タブセクションを使用すると、スクリーンセーバーの拡張設定を設定できます。

表 8–25 に、スクリーンセーバーの変更可能な拡張設定を示します。

表 **8–25** スクリーンセーバーの拡張設定

ダイアログ要素	説明
「デスクトップ画像を操作対象にする」	一部のスクリーンセーバーでは、画面のスクリーンショットを撮ることができるため、そのスクリーンショットを使用してスクリーンセーバーディスプレイを作成できる。 スクリーンセーバーで画面のスクリーンショットを撮る場合は、このオプションを選択する
「ビデオ入力を操作対象にする」	一部のスクリーンセーバーでは、ビデオのフレームを取り込めるため、取り込んだ画像を使用してスクリーンセーバーディスプレイを作成できる。 システムにビデオキャプチャカードがある場合、このオプションを選択すると、スクリーンセーバーでビデオのフレームを取り込むことができる

表 **8–25** スクリーンセーバーの拡張設定　*(続き)*

ダイアログ要素	説明
「画像をランダムに選択」	指定したディレクトリ内の画像をスクリーンセーバーに使用する場合に選択する。 ディレクトリのパスをフィールドに入力する。 または、「参照」をクリックしてダイアログを表示し、ディレクトリを選択する
「診断情報を詳細にする」	スクリーンセーバーの診断情報を表示する場合に選択する
「サブプロセスのエラーを表示する」	画面上のスクリーンセーバーのサブプロセスに関連するエラーを表示する場合に選択する
「起動時にスプラッシュスクリーンを表示する」	Xscreensaver を開始したときに、Xscreensaver が「スプラッシュ」ダイアログを表示するようにする場合に選択する
「パワーマネージメントを有効にする」	モニタの電源管理機能を有効にする場合に選択する。 電源管理機能は、モニタを使用していないときの電力消費を削減する
「スタンバイの間隔」	モニタが待機モードになるまでの時間を指定する。 モニタが待機モードになると、画面は空白になる
「サスペンドの間隔」	モニタが省電力モードになるまでの時間を指定する
「電源 **OFF**」	モニタの電源を切るまでの時間を指定する
「カラーマップをインストールする」	スクリーンセーバーがアクティブのとき、専用のカラーマップをインストールする場合に選択する。 専用のカラーマップを使用することで、特定のスクリーンセーバーディスプレイの画像品質を改善できる
「ブランクするときフェードアウトする」	スクリーンセーバーを起動するときに、徐々に黒の画面を表示したい場合に選択する
「ブランクを解除するときにフェードインする」	スクリーンセーバーを停止するときに、表示を徐々に黒から画面の内容へ表示したい場合に選択する
「フェード時間」	スクリーンセーバーを起動するときに、黒にフェードする時間を指定する

セッションの構成

セッション 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「セッション」の順に選択します。

セッション設定ツールを使用すると、セッションを管理できます。 セッションの環境を設定して、セッションの開始時に起動するアプリケーションを指定できます。 また、Java Desktop System のアプリケーションの状態を保存したり、別のセッションの開始時にその状態を復元したりするように、セッションを構成することができます。 この設定ツールを使用して、複数の Java Desktop System セッションを管理することもできます。

次の機能領域内では、セッションおよび起動アプリケーションの設定をカスタマイズできます。

- 「セッションのオプション」
- 「現在のセッション」
- 「自動起動プログラム」

現在のセッションの設定

「セッションのオプション」タブセクションを使用すると、複数のセッションを管理したり、現在のセッションの環境を設定できます。

表 8–26 に、セッションの変更可能なオプションを示します。

表 8–26 セッションのオプション

ダイアログ要素	説明
「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」	セッションを開始したときにスプラッシュ画面を表示する
「ログアウト時にプロンプトを表示する」	セッションを終了するときに確認ダイアログを表示する
「変更を自動的にセッションに保存する」	セッションマネージャによって、セッションの現在の状態が保存される。 セッションマネージャは、セッション管理下にある開いているアプリケーション、およびセッション管理下のアプリケーションと関連付けられている設定を保存する。 次回セッションを起動したときに、アプリケーションは保存された設定で自動的に起動する このオプションを選択しない場合は、セッションを終了するときに「ログアウトの確認」ダイアログに「現在の設定を保存」オプションが表示される

表 **8–26** セッションのオプション　(続き)

ダイアログ要素	説明
「セッション」	ダイアログのこの領域を使用して、以下のように、複数のセッションを Java Desktop System 上で管理する ■ 新しいセッションを作成するには、「追加」ボタンをクリックする。「新規セッションの追加」ダイアログを使用して、セッションの名前を指定する ■ セッションの名前を変更するには、変更するセッションを「現在のセッションを選択」表から選択する。「編集」ボタンをクリックする。「セッション名の編集」ダイアログが表示される。 セッションの新しい名前を入力する ■ セッションを削除するには、削除するセッションを「現在のセッションを選択」表から選択する。「削除」ボタンをクリックする

現在のセッションの設定

「現在のセッション」タブセクションを使用すると、自動起動の順序値を指定したり、現在のセッションでのセッション管理下のアプリケーションの再起動方式を選択できます。

表 8–27 に、構成可能な現在のセッションの設定を示します。

表 **8–27** 現在のセッションの設定

ダイアログ要素	説明
「順番」	「順番」設定は、セッションマネージャが起動するセッション管理下の起動アプリケーションの順序を指定する。 セッションマネージャは、低い値を持つアプリケーションから先に起動する。 デフォルトは 50 自動起動アプリケーションの順序を指定するには、表からアプリケーションを選択する。「順番」スピンボックスを使用して、起動順序の値を指定する

表 **8–27** 現在のセッションの設定　(続き)

ダイアログ要素	説明
「スタイル」	「スタイル」設定は、アプリケーションの再起動スタイルを決定する。 アプリケーションの再起動スタイルを選択するには、表からアプリケーションを選択して、次のいずれかの方式を選ぶ ■ 「普通」 Java Desktop System セッションの開始時に自動的に起動する。 この再起動方式のアプリケーションをセッション中に終了するには、`kill` コマンドを使用する ■ 「再起動」 アプリケーションを閉じるか、終了すると自動的に再起動する。 セッション中に継続してアプリケーションを実行する必要がある場合は、アプリケーションにこの方式を指定する。 この再起動方式のアプリケーションを終了するには、表からアプリケーションを選択して、「削除」ボタンをクリックする ■ 「ごみ箱」 Java Desktop System セッションの開始時には起動しない ■ 「設定」 セッションを開始すると自動的にアプリケーションが起動する。 この方式のアプリケーションは、通常、低い起動順序値を持ち、Java Desktop System およびセッション管理下のアプリケーションの構成設定を格納する
「削除」	「削除」ボタンをクリックすると、リストから選択したアプリケーションを削除する。 アプリケーションは、セッションマネージャから削除されて、閉じる。 削除したアプリケーションは、次回セッションを開始したときに起動されない
「適用」	「適用」ボタンをクリックすると、起動順序および再起動方式に変更を適用する

自動起動アプリケーションの構成

セッション設定ツールの「自動起動プログラム」タブセクションを使用して、非セッション管理下の起動アプリケーションを指定できます。 自動起動アプリケーションとは、セッションを開始したときに自動的に起動するアプリケーションのことです。 非セッション管理下のアプリケーションを実行するコマンドは、「自動起動プログラム」タブセクションで指定します。 コマンドは、ログイン時に自動的に実行されます。

セッション管理下のアプリケーションを自動的に起動することもできます。 詳細については、182 ページの「現在のセッションの設定」を参照してください。

表 8–28 に、自動起動アプリケーションの変更可能な設定を示します。

表 **8–28** 自動起動プログラムの設定

ダイアログ要素	説明
「追加された自動起動プログラム」	この表を使用して、以下のように、非セッション管理下の自動起動アプリケーションを管理する ■ 自動起動アプリケーションを追加するには、「追加」ボタンをクリックする。「自動起動プログラムの追加」ダイアログが表示される。 アプリケーションを起動するコマンドを「自動起動コマンド」フィールドに入力する 複数の自動起動アプリケーションを指定する場合は、「順番」スピンボックスを使用して、各アプリケーションの起動順序を指定する。 自動起動の順序とは、自動起動アプリケーションを起動する順序を指す ■ 自動起動アプリケーションを編集するには、自動起動アプリケーションを選択して、「編集」ボタンをクリックする。「自動起動プログラムの編集」ダイアログが表示される。 ダイアログを使用して、自動起動アプリケーションのコマンドおよび起動順序を変更する ■ 自動起動アプリケーションを削除するには、削除対象の自動起動アプリケーションを選択して、「削除」ボタンをクリックする

キーボードショートカットのカスタマイズ

ショートカット 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックし、「設定」→「デスクトップの設定」→「キーボード」→「ショートカット」の順に選択します。

キーボードショートカットは、単独のキーまたは複数のキーの組み合わせで、通常の操作の代替方法を提供します。

ショートカット設定ツールを使用すると、デフォルトのキーボードショートカットを表示できます。 必要に応じて、デフォルトのキーボードショートカットをカスタマイズできます。 また、マルチメディア機能向けのショートカットを設定することもできます。

Solaris システムでは、ホットキーも作成できます。 ホットキーは、アプリケーションを起動するキーボードショートカットです。

表 8–29 に、キーボードショートカットの、Linux 上でカスタマイズ可能な設定を示します。

表 **8–29** Linux でのキーボードショートカットの設定

ダイアログ要素	説明
「テキスト編集ショートカット」	次のいずれかの設定を選択する ■ 「デフォルト」: 標準のショートカットの設定 ■ 「**Emacs**」: Emacs ショートカットの設定
「デスクトップショートカット」	この表は、操作と、各操作に関連付けられているショートカットキーを示す 操作に関連付けられているショートカットキーを変更するには、該当する操作をクリックして選択し、その操作のショートカットを選択する。 操作に関連付けるキーを押す 操作に関連付けられているショートカットキーを無効にするには、該当する操作をクリックして選択し、その操作のショートカットを選択する。 Back Space を押す

表 8–30 に、キーボードショートカットの、Solaris 上でカスタマイズ可能な設定を示します。

表 **8–30** Solaris でのキーボードショートカットの設定

ダイアログ要素	説明
「テキスト編集ショートカット」	次のいずれかの設定を選択する ■ 「デフォルト」: 標準のショートカットの設定 ■ 「**Emacs**」: Emacs ショートカットの設定
「デスクトップショートカット」	この表は、操作と、各操作に関連付けられているショートカットキーを示す 操作に関連付けられているショートカットキーを変更するには、該当する操作をクリックして選択し、その操作のショートカットを選択する。 操作に関連付けるキーを押す 操作に関連付けられているショートカットキーを無効にするには、該当する操作をクリックして選択し、その操作のショートカットを選択する。 Back Space を押す

表 **8–30** Solaris でのキーボードショートカットの設定　*(続き)*

ダイアログ要素	説明
「カスタムショートカット」	ホットキーを追加するには、次の手順を実行する 1. 「新規」をクリックする。「カスタムバインディング」ダイアログが表示される。「新規コマンド」フィールドに、ホットキーに関連付けるコマンドを入力する。 または、「参照」ボタンをクリックしてコマンドをブラウズする。 コマンドを選択したら、「OK」をクリックする。「デスクトップショートカット」表の「カスタムショートカット」セクションにコマンドが追加される 2. 「デスクトップショートカット」表の「カスタムバインディング」セクションで、コマンドの「ショートカット」列をクリックする。 コマンドに関連付ける単独のキーまたは複数のキーを押す ホットキーを編集するには、「デスクトップショートカット」表の「カスタムショートカット」セクションでホットキーを選択して、「編集」をクリックする。「カスタムバインディング」ダイアログでコマンドを編集する ホットキーを削除するには、「デスクトップショートカット」表の「カスタムショートカット」セクションでホットキーを選択して、「削除」をクリックする。

マルチメディアキー設定ツールを使用すると、アクションにショートカットキーを割り当てることができます。

表 8–31 に、マルチメディア機能に割り当てることができるショートカットキーの設定を示します。

表 **8–31** マルチメディアキーの設定

ダイアログ要素	説明
マルチメディアキーの表	アクションのショートカットキーを追加するには、アクションをクリックして選択して、そのアクションに関連付けるキーを押す アクションのショートカットキーを無効にする場合は、そのアクションをクリックしてから Back Space キーを押す
「主音量の代わりに **PCM** 音量を使用する」	主音量の代わりにパルスコードモジュレーション (PCM) 音量を使用する場合は、このオプションを選択する

サウンドの設定

サウンド設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「サウンド」の順に選択します。

サウンド設定ツールを使用すると、Java Desktop System サウンドサーバーをいつ起動するかを制御できます。 また、特定のイベントが発生したときに再生されるサウンドも指定できます。

次の機能領域内では、サウンド設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 「一般」
- 「サウンドイベント」
- 「システムベル」

一般的なサウンド設定

Java Desktop System サウンドサーバーをいつ起動するかを指定するには、サウンド設定ツールの「一般」タブセクションを使用します。 このタブセクションでは、サウンドイベント機能も有効に設定できます。

表 8–32 に、変更可能な一般的なサウンド設定を示します。

表 **8–32** 一般的なサウンド設定

ダイアログ要素	説明
「起動時にサウンドサーバーを使う」	セッションを開始したときに、サウンドサーバーを起動する。 サウンドサーバーがアクティブな場合、Java Desktop System はサウンドを再生できる
「イベントの効果音を鳴らす」	Java Desktop System 上で特定のイベントが発生したときにサウンドを再生する。 このオプションは、「起動時にサウンドサーバーを使う」オプションが選択されている場合にのみ指定できる

サウンドイベントの設定

サウンド設定ツールの「サウンドイベント」タブセクションを使用して、特定のサウンドを特定のイベントに関連付けることができます。

注 – 「サウンドイベント」タブセクションにアクセスするには、先に「起動時にサウンドサーバーを使う」オプションと、「イベントの効果音を鳴らす」オプションを選択する必要があります。

表 8–33 に、サウンドイベントの変更可能な設定を示します。

表 8–33 サウンドイベントの設定

ダイアログ要素	説明
「サウンド」表	「サウンド」表を使用して、特定のサウンドを特定のイベントに関連付ける 「イベント」列は、発生するイベントの階層リストを表示する。イベントのカテゴリを開くには、イベントのカテゴリの横にある右矢印をクリックする 「ファイル」列は、イベントが発生したときに再生するサウンドファイルをリストする
「再生」	このボタンをクリックすると、選択したイベントに関連付けられるサウンドファイルを再生する
サウンドファイルのドロップダウンコンビネーションボックスの「参照」	サウンドをイベントに関連付けるには、「サウンド」表内のイベントを選択する。 ドロップダウンコンビネーションボックスから選択したイベントに関連付けるサウンドファイルの名前を入力する。 または、「参照」をクリックして、「サウンドファイルを選択」ダイアログを表示する。 ダイアログを使用して、選択したイベントに関連付けるサウンドファイルを指定する 注 – イベントに関連付けることができるサウンドファイルの形式は、.wav 形式のみ

システムベルの設定

「システムベル」タブセクションを使用すると、システムベルを設定できます。

一部のアプリケーションは、キーボードの入力エラーを知らせるベルの音を鳴らします。 「システムベル」タブセクションの設定を使用して、ベルのサウンドを設定します。 表 8–34 に、システムベルの変更可能な設定を示します。

表 8–34 システムのベルの設定

ダイアログ要素	説明
「聞き取れる効果音を鳴らす」	システムベルを有効にする

表 **8–34** システムのベルの設定　(続き)

ダイアログ要素	説明
「視覚的なフィードバックを有効にする」	入力エラーを示す視覚的なフィードバックを有効にする
「ウィンドウのタイトルバーを点滅させる」	入力エラーを示すためにウィンドウのタイトルバーを点滅させる
「画面全体を点滅させる」	入力エラーを示すために画面全体を点滅させる

テーマのカスタマイズ

テーマ設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックして、「設定」→「デスクトップの設定」→「表示」→「テーマ」の順にクリックします。

「テーマ」は、Java Desktop System の外観を指定する統合的な設定グループです。テーマを選ぶことにより、Java Desktop System の外観を変更できます。 テーマを選択するには、テーマ設定ツールを使用します。 利用可能なテーマのリストからテーマを選択できます。 利用可能なデスクトップテーマのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのテーマが含まれています。

テーマには、以下のように Java Desktop System の個別の部分を制御できる設定が含まれています。

コントロール　テーマのコントロール設定は、ウィンドウ、パネル、パネルアプリケーションの外観を指定します。 また、ウィンドウ、パネル、およびパネルアプリケーション上に現れる GNOME 対応インターフェイス (メニュー、アイコン、ボタンなど) の外観も決定します。 利用可能なコントロール設定オプションの中には、特別なアクセシビリティ要件を満たすように設計されているものもあります。 コントロール設定のオプションは、テーマ設定ツールの「コントロール」タブセクションで選択できます。

ウィンドウボーダー　テーマのウィンドウボーダー設定は、ウィンドウボーダーの外観だけを指定します。 ウィンドウボーダー設定のオプションは、テーマ設定ツールの「ウィンドウボーダー」タブセクションで選択できます。

アイコン　テーマのアイコン設定は、パネルとデスクトップ背景にあるアイコンの外観を指定します。 アイコン設定のオプションは、テーマ 設定ツールの「アイコン」タブセクションで選択できます。

カスタムテーマを作成する

テーマ 設定ツールに一覧があるテーマは、コントロールオプション、ウィンドウボーダーオプションおよびアイコンオプションの複数の組み合わせです。 コントロールオプション、ウィンドウボーダーオプションおよびアイコンオプションの複数の組み合わせを使ったカスタムテーマを作成できます。

カスタムテーマを作成するには、次の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. テーマリストからテーマを 1 つ選択します。
3. 「テーマの詳細」ボタンをクリックします。 「テーマの詳細」ダイアログが表示されます。
4. カスタムテーマで使用するコントロールオプションを「コントロール」タブセクションのリストから選択します。 利用可能なコントロールオプションのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのオプションが含まれています。
5. 「ウィンドウボーダー」タブを選択して、「ウィンドウボーダー」タブセクションを表示します。 カスタムテーマで使用するウィンドウボーダーオプションを利用可能なオプションのリストから選択します。 利用可能なウィンドウボーダーオプションのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのオプションが含まれています。
6. 「アイコン」タブをクリックして、「アイコン」タブセクションを表示します。 カスタムテーマで使用するアイコンオプションを利用可能なオプションのリストから選択します。 利用可能なアイコンオプションのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのオプションが含まれています。
7. 「閉じる」をクリックして、「テーマの詳細」ダイアログを閉じます。
8. テーマ設定ツールで、「テーマを保存」ボタンをクリックします。
9. 「テーマをディスクに保存」ダイアログでカスタムテーマの名前と簡単な説明を入力し、「保存」をクリックします。 カスタムテーマが、利用可能なテーマリストの中に表示されます。

新しいテーマをインストールする

利用可能なテーマのリストにテーマを追加できます。 新しいテーマは、tar および zip でアーカイブされたファイルでなければなりません。 つまり、新しいテーマは、`.tar.gz` ファイルになります。

新しいテーマをインストールするには、次の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. 「テーマのインストール」ボタンをクリックします。

3. 「テーマのインストール」ダイアログのドロップダウンコンビネーションボックスに、テーマのアーカイブファイルの保存場所を入力します。 または、「参照」ボタンをクリックしてファイルをブラウズします。 ファイルを選択したら、「OK」をクリックします。
4. 「インストール」ボタンをクリックして、新しいテーマをインストールします。

新しいテーマオプションをインストールする

新しいコントロールオプション、ウィンドウボーダーオプションまたはアイコンオプションをインストールできます。 インターネット上で多くのコントロールオプションを入手できます。

新しいコントロールオプション、ウィンドウボーダーオプションまたはアイコンオプションをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. 「テーマの詳細」ボタンをクリックします。
3. 「テーマの詳細」ダイアログで、インストールするテーマのタイプに対応するタブをクリックします。 たとえば、アイコンオプションをインストールする場合は、「アイコン」タブをクリックします。
4. 「テーマのインストール」ボタンをクリックします。
5. 「テーマのインストール」ダイアログのドロップダウンコンビネーションボックスに、オプションのアーカイブファイルの保存場所を入力します。 または、「参照」ボタンをクリックしてファイルをブラウズします。 ファイルを選択したら、「OK」をクリックします。
6. 「インストール」ボタンをクリックして、新しいオプションをインストールします。

テーマオプションを削除する

コントロールオプション、ウィンドウボーダーオプションまたはアイコンオプションを削除できます。

コントロールオプション、ウィンドウボーダー オプションまたはアイコンオプションを削除するには、以下の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. 「テーマの詳細」ボタンをクリックします。
3. 「テーマの詳細」 ダイアログで、削除するオプションのタイプに対応するタブをクリックします。

4. 「テーマフォルダへ移動」ボタンをクリックします。 デフォルトオプション フォルダで、ファイルマネージャウィンドウが開きます。
5. ファイルマネージャウィンドウを使って、オプションを削除します。

ウィンドウのカスタマイズ

ウィンドウの動作 設定ツールにアクセスするには、「起動」をクリックし、「設定」→「デスクトップの設定」→「表示」→「ウィンドウの動作」の順に選択します。

ウィンドウの動作設定ツールを使用すると、Java Desktop System のウィンドウの動作をカスタマイズできます。

表 8–35 に、ウィンドウの変更可能な設定を示します。

表 8–35 ウィンドウの設定

ダイアログ要素	説明
「マウスがウィンドウの上を移動したときに、そのウィンドウを選択する」	ウィンドウをポイントすると、そのウィンドウがフォーカスされる。 別のウィンドウをポイントするまで、そのウィンドウはフォーカスされている
「一定時間後に指定したウィンドウを前面に出す」	ウィンドウにフォーカスが移って少したってから、そのウィンドウを前面に出す
「前面に出るまでの時間」	フォーカスされてからウィンドウが前面に出るまでの時間を指定する
「タイトルバーをダブルクリックして実行するアクション」	ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックしたときに行われる動作を選択する。 次のオプションの中からいずれか 1 つを選択する ■ 「巻き上げ」: ウィンドウを巻き上げる ■ 「最大化」: ウィンドウを最大化する
「ウィンドウを移動するには、このキーを押したままウインドウをつかんでください」	ウィンドウをドラッグして移動するときに、押したままにしておくキーを選択する

付録 A

マウスとキーボードの機能

この付録では、Java Desktop System を使用するために必要な基本的なスキルについて説明します。

マウスの機能

この節では、このマニュアルで使用されている、ボタンに関する規定と操作を表す用語について説明します。 この節では、マウスポインタについても説明します。

マウスボタンの規定

このマニュアル内のすべての説明は、次の種類のマウスが対象となります。

- 右利きユーザー用に設定されているマウス
- 3 ボタンのマウス。 2 ボタンのマウスを使用している場合は、2 つのボタンを同時に押すと、マウスの中央ボタンと同じ動作になる

このマニュアルで使用されているマウスボタンの規定は次のとおりです。

マウスボタン	定義
左マウスボタン	マウスの左ボタンは、右利きのユーザー用に設定
中央マウスボタン	マウスの中央ボタンは、右利きのユーザー用に設定
右マウスボタン	マウスの右ボタンは、右利きのユーザー用に設定

マウスの利き手を変更するには、Mouse 設定ツールを起動後、オプションを選択します。 マウスの利き手を変更した場合は、このマニュアルで使用されるマウスボタンの規定も逆になります。

マウスの操作

次の表は、マウスで実行できる操作を示します。

マウスボタン	使い方
左マウスボタン	次の操作に使用する ■ テキストの選択 ■ 項目の選択 ■ 項目のドラッグ
中央マウスボタン	次の操作に使用する ■ テキストの貼り付け ■ 項目の移動
右マウスボタン	選択したオブジェクトのメニューを開く (メニューがある場合)

たとえば、テキストをコピーする場合は、次の手順に従います。

1. 左マウスボタンでテキストを選択します。
2. テキストをコピーする場所にマウスポインタを移動します。
3. 中央マウスボタンをクリックします。

デスクトップの背景を右クリックして、「デスクトップ」 背景メニューを開くこともできます。

マウスポインタ

マウスポインタの外観は、マウスを使っている状況によって変わります。 ポインタの外観は、特定の操作、場所、および状態を表します。 次の表で、デスクトップ上のマウスポインタについて説明します。

ポインタ	関連する操作	説明
	項目をポイントし、メニュー項目を選ぶ	通常のポインタ。 マウスの通常の使用時に表示されるポインタ

ポインタ	関連する操作	説明
	ドラッグ&ドロップ	移動ポインタ。 オブジェクトをドロップするときに、そのオブジェクトが元の場所から別の場所に移動されることを示す
	ドラッグ&ドロップ	コピーポインタ。 オブジェクトをそのオブジェクトのコピーがドロップする位置に、作成されることを示す
	ドラッグ&ドロップ	シンボリックリンクポインタ。 オブジェクトをドロップした位置に、そのオブジェクトのシンボリックリンクが 作成されることを示す。 シンボリックリンクとは、別のファイルまたはフォルダを指す特殊な種類のファイルです
	ドラッグ&ドロップ	質問ポインタ。 オブジェクトをドロップするときに、メニューが開くことを示す。 オブジェクトを移動またはコピーするか、あるいはオブジェクトのシンボリックリンクを作成するかを選選択できる
	ドラッグ&ドロップ	利用不可を示すポインタ。 現在の場所にオブジェクトをドロップできないことを示す
	パネルオブジェクトの移動	パネルオブジェクトの移動ポインタ。 移動するパネルオブジェクトが選択されていることを示す
	ウィンドウの横方向のサイズ変更	横方向のサイズ変更ポインタ。 横方向にサイズ変更するウィンドウの縦ウィンドウ境界が選択されていることを示す
	ウィンドウの縦方向のサイズ変更	縦方向のサイズ変更ポインタ。 縦方向にサイズ変更するウィンドウの横ウィンドウ境界が選択されていることを示す
	ウィンドウの横方向と縦方向のサイズ変更	コーナーサイズ変更ポインタ。 横方向と縦方向にサイズ変更するウィンドウのウィンドウ境界コーナーが選択されていることを示す

ポインタ	関連する操作	説明
⇔	ウィンドウ区画または表の列のサイズ変更	ウィンドウ区画または表の列のサイズ変更ポインタ。 サイズ変更する表の列が選択されていることを示す

マウスの操作に関する用語

このマニュアルで使用されるマウス操作を表す用語は、以下のとおりです。

アクション	定義
クリック	マウスを動かさずに、左マウスボタンを押して放す
クリック&ホールド	左マウスボタンを押したまま放さない
左クリック	クリックと同じ。 左クリックは、右クリックと混乱する恐れがある場合に、操作を明確にするために使用する
中央クリック	マウスを動かさずに、中央マウスボタンを押して放す
右クリック	マウスを動かさずに、右マウスボタンを押して放す
ダブルクリック	マウスを動かさずに、すばやく2 回押して放す
ドラッグ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。 たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグできる。 デスクトップ上では、左マウスボタンおよび中央マウスボタンを使用してドラッグを実行できる
ドラッグ&ドロップ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。 たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグ&ドロップできる。 オブジェクトを配置する場所でマウスボタンを放す
グラブ	移動する項目をポイントし、マウスボタンをクリック&ホールドする。 たとえば、ウィンドウのタイトルバーをグラブし、そのウィンドウを別の場所にドラッグできる

キーボードの機能

マウスで実行できる操作のほとんどが、キーボードでも同様に実行できます。 ショートカットキーを使用すると、操作をすばやく実行できます。

ショートカットキーは、一般的な Java Desktop System での操作や、パネルおよびウィンドウなどのインターフェイス項目での操作に使用できます。 また、ショートカットキーはアプリケーションでも使用できます。 ショートカットキーをカスタマイズするには、ショートカット設定ツールを使用します。

また、デスクトップをカスタマイズして、キーボードの便利な機能を利用することもできます。

以降の節では、使用可能なショートカットキーについて説明します。

一般的なショートカットキー

一般的なショートカットキーを使用すると、キーボードから Java Desktop System での一般的な操作を実行できます。 次の表に、一般的なショートカットキーを示します。

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + Esc	メインメニューを開く
Super + R	「アプリケーションの実行」ダイアログを表示する
Print Screen	スクリーンショットを撮る
Alt + Print Screen	フォーカスがあるウィンドウのスクリーンショットを撮る
Ctrl + Alt + 右矢印	現在のワークスペースの右側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 左矢印	現在のワークスペースの左側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 上矢印	現在のワークスペースの上のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 下矢印	現在のワークスペースの下のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + d	すべてのウィンドウを最小化し、フォーカスをデスクトップの背景に移す
F1	オンラインヘルプのブラウザを起動し、適切なオンラインヘルプを表示する

ウィンドウのショートカットキー

ウィンドウのショートカットキーを使用して、キーボードからウィンドウの操作を実行できます。 次の表に、ウィンドウのショートカットキーを示します。

デフォルトのショートカットキー	機能
Alt + Tab	ウィンドウを切り替える。 このショートカットキーを使用すると、選択可能なウィンドウの一覧が表示される。 キーを放すとウィンドウが選択される
Alt + Esc	逆方向でウィンドウを切り替える。 キーを放すとウィンドウが選択される
F10	メニューバーの左側にある最初のメニューを開く
Alt + スペースバー	ウィンドウメニューを開く
矢印キー	メニュー内の項目間でフォーカスを移動する
Return	メニュー項目を選択する
Esc	開いているメニューを閉じる
Ctrl + Alt + 右矢印	現在のワークスペースの右側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 左矢印	現在のワークスペースの左側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 上矢印	現在のワークスペースの上のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 下矢印	現在のワークスペースの下のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + d	すべてのウィンドウを最小化し、フォーカスをデスクトップの背景に移す

パネルのショートカットキー

パネルのショートカットキーを使用して、キーボードからパネルでの操作を実行できます。 次の表に、パネルのショートカットキーを示します。

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + Alt + Tab	パネルとデスクトップの背景の間で、フォーカスを切り替える。 このショートカットキーを使用すると、選択可能な項目の一覧が表示される。 キーを放すと項目が選択される
Ctrl + Alt + Esc	パネルとデスクトップの背景の間で、フォーカスを切り替える。 キーを放すと項目が選択される

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + F10	選択したパネルのポップアップメニューを開く
Tab	パネル上のオブジェクト間でフォーカスを切り替える
Return	選択したパネルオブジェクトまたはメニュー項目を選ぶ
Shift + F10	選択したパネルオブジェクトのポップアップメニューを開く
矢印キー	メニュー内の項目間でフォーカスを移動する アプレット内のインターフェイス項目間でフォーカスを移動する
Esc	開いているメニューを閉じる
F10	メニューバーがパネル内に表示されている場合、メニューバーから「アプリケーション」メニューを開く

アプリケーションのショートカットキー

アプリケーションのショートカットキーを使用して、アプリケーションの操作を実行できます。 ショートカットキーを使用すると、マウスを使用するよりもアプリケーションの操作をすばやく実行できます。 次の表に、アプリケーションのショートカットキーを示します。

ショートカットキー	コマンド
Ctrl + N	新規
Ctrl + X	切り取り
Ctrl + C	コピー
Ctrl + V	貼り付け
Ctrl + Z	元に戻す
Ctrl + S	保存
Ctrl + Q	終了

アクセスキー

メニューバーとは、 ウィンドウ上部にあるバーのことで、アプリケーション用のメニューが含まれています。 アクセスキーとは、メニューバー、メニュー、またはダイアログにある下線付き文字のことで、これを使用して作業を実行できます。 メニューバーでは、各メニューのアクセスキーに下線が付いています。

メニューを開くには、Alt キーを押して、アクセスキーを押します。 メニューでは、各メニュー項目のアクセスキーに下線が付いています。 メニュー項目を選択するには、メニュー項目のアクセスキーを押します。 次の表に、テキストエディタ アプリケーションのアクセスキーの例を示します。

アクセスキー	機能
Alt + F	「ファイル」メニューを開く
N	「ファイル」メニューから「新規」を選択する

アクセスキーを使用して、ダイアログ内の要素にアクセスできます。 ダイアログでは、ほとんどのダイアログ要素の 1 文字に下線が付いています。 特定のダイアログ要素にアクセスするには、Alt キーを押して、アクセスキーを押します。 次の表に、テキストエディタの「設定」ダイアログにあるアクセスキーの例を示します。

アクセスキー	機能
Alt + U	「デフォルトのテーマフォントを使用」チェックボックスにフォーカスを移す

ほかのキーを使用して、ウィンドウ内またはダイアログ内を移動することもできます。

キー	機能
Tab	ウィンドウ内またはダイアログ内の要素間でフォーカスを移動する
矢印キー	矢印キーを使用して、次の動作を実行できる ■ メニューバーでは、あるメニューから次のメニューにフォーカスを移動する。 開いたメニューでは、あるメニュー項目から次のメニュー項目にフォーカスを移動する ■ あるオプションから次のオプションにフォーカスを移動して選択する (たとえば、ダイアログのラジオボタンのグループなど) ■ スピンボックスが表示する値を変更する

用語集

デスクトップ	すべてのパネル、アイコン、アプリケーション、デスクトップの背景など、Java Desktop System の表示。
デスクトップの背景	デスクトップの背景は、Java Desktop System 上の他のすべてのコンポーネントの後ろにあります。
デスクトップの背景オブジェクト	ファイル、フォルダ、アプリケーションを開くことができる、デスクトップの背景上のアイコン。
DNS 名	ネットワーク上のコンピュータを示す、アルファベットによる一意の識別子。
引き出し	引き出しはパネルのスライド式のエクステンションで、引き出しアイコンから開閉できます。
フォーマット	ストレージメディアを特定のファイルシステムで使用できるようにすること。 メディアをフォーマットすると、そのメディア上の既存の情報は上書きされます。
GNOME 準拠アプリケーション	標準の GNOME プログラミングライブラリを使用するアプリケーション。 たとえば、gedit テキストエディタは GNOME 準拠アプリケーションです。
ホットキー	アプリケーションを起動できるキーボードショートカット。
IP アドレス	ネットワーク上のコンピュータを示す、数字による一意の識別子。
キーボードショートカット	キーボードショートカットは、単独のキーまたは複数のキーの組み合わせで、通常の操作の代替方法を提供します。
ランチャー	特定のアプリケーションの起動、コマンドの実行、あるいはファイルを開くために使用します。 ランチャーはパネルまたはメニューにあります。
メニューバー	アプリケーションウィンドウの上部にあるバーで、アプリケーションのメニューが表示されます。

MIME タイプ	Multipurpose Internet Mail Extension (MIME) タイプは、ファイルの書式を特定します。 アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができます。 たとえば、電子メールアプリケーションは、`image/png` MIME タイプから、電子メールに PNG (Portable Networks Graphic) ファイルが添付されていることを認識します。
マウント	ファイルシステムをアクセス可能にすること。 ファイルシステムにマウントすると、そのファイルシステムは、ファイルシステムのサブディレクトリとして接続されます。
区画	区画とは、ウィンドウを分割したもの。 たとえば、ファイルブラウザウィンドウには、サイド区画と表示区画があります。
パネルアプリケーション	パネル内にある小さな対話型のアプリケーション。たとえば CD プレイヤー。
PDA	Personal Digital Assistant。 携帯型のコンピュータで、スケジューラとして使用できます。
PDA デーモン	PDA とユーザーのコンピュータとの同期を待機する、バックグラウンドアプリケーション。 PDA がコンピュータとの同期とりを試みると、PDA デーモンが PDA 上のデータをコンピュータ上のデータと同期させます。
設定ツール	Java Desktop System の動作の特定の部分を制御する専用ソフトウェアツール。
ショートカットキー	あるアクションをすばやく実行できるキーストローク。
スライス	ディスクのパーティション。 Zip メディアや Jaz メディアにスライスを作成できます。 各スライスのオブジェクトがデスクトップに表示されます。
スタック順序	画面上で各ウィンドウが重なる順番。
ステータスバー	ウィンドウの下部にあるバーで、現在のウィンドウ表示の状態を示します。
シンボリックリンク	別のファイルまたはフォルダにリンクする特殊なファイル。 シンボリックリンクに対してアクションを実行すると、そのアクションはシンボリックリンクが指すファイルまたはフォルダで実行されます。
ツールバー	アプリケーションで頻繁に使用するコマンドのボタンが表示されるバー。 ツールバーは通常、メニューバーの下に表示されます。
URI (Uniform Resource Identifier)	URI (Uniform Resource Identifier) は、ファイルシステム内または Web 上の特定の場所を識別する文字列。 たとえば、Web ページのアドレスは URI です。
Uniform Resource Locator	URL (Uniform Resource Locator) は Web 上の特定の場所を示すアドレス。

ビュー	特定の方法でフォルダを表示できる、ファイルマネージャのコンポーネント。 たとえばファイルマネージャには、フォルダの内容がアイコンで表示されるアイコンビューがあります。 ファイルマネージャには、フォルダの内容がリストで表示されるリストビューもあります。
ビューアコンポーネント	特定のファイル形式を表示区画に表示できる、ファイルブラウザウィンドウのコンポーネント。 ビューアコンポーネントは、そのファイルの型に関連するメニュー項目をファイルマネージャメニューに追加します。 ビューアコンポーネントでは、ファイルブラウザウィンドウのズームボタンで、表示区画の項目のサイズを変更することもできます。
ワークスペース	デスクトップ上で分割された作業用の領域。

索引

A

AccessX, 「設定ツール, キーボードアクセシビリティ」を参照

C

CD、書き込み，127-128
CD の書き込み，127-128
CD の作成, 「CD の書き込み」を参照

E

Evolution
　開始，34
　機能と利点，33-34

F

FTP サイト, アクセス，107

G

GNOME デスクトップ，29-30
GTK+ テーマ, 「テーマ、コントロールオプション」を参照

J

Java, 機能と利点，37
Java Desktop System コンポーネントの概要，27-28
Java Desktop System 設定ツール, 「設定ツール」を参照

M

Metacity テーマ, 「テーマ、ウィンドウボーダーのオプション」を参照
Mozilla
　起動，36
　機能，36
　機能と利点，36

N

Nautilus デスクトップ, 「デスクトップ」を参照
Nautilus ファイルマネージャ, 「ファイルマネージャ」を参照

S

StarSuite
　アプリケーション，34-36
　起動，35-36
　ファイルを開く，36

U

URI、特別, 「特別な URI ロケーション」を参照

W

Web ブラウザ, 優先するアプリケーション，176-177

X

Ximian Evolution, 主要コンポーネント，33-34
XScreenSaver, 「スクリーンセーバー」を参照

あ

アイコンテーマ, 「テーマ、アイコンオプション」を参照
アクションボタン, 「ボタン」を参照
アクセシビリティ
　キーボードの構成，160-163
　スティッキキー，161
　スローキー，162
　トグルキー，162
　バウンスキー，162
　マウスキー，163
アクセスキー，201-202
アクセス権
　8 進数表記で表示，154, 155
　エンブレム，101
　概要，116-117
　ファイルやフォルダの変更，116
　文字表示，154, 155
アクセスビリティ, リピートキー，161
アプリケーション
　概要，38, 48-49
　終了，65
　ヘルプ，50
「アプリケーションの実行」ダイアログ、使用，74-75
アプリケーションの終了，65

い

イベント, サウンドと関連付ける，188-190
インターネット
　接続の設定，159-160
　設定，159-160
インターネットの設定, 設定，159-160

う

ウィンドウ
　移動，92
　ウィンドウマネージャ，82
　「ウィンドウメニュー」，85-86
　ウィンドウリストパネルアプリケーション「ウィンドウリストパネルアプリケーション」を参照
　概要，41-43, 81-82
　区画のサイズ変更，93
　最小化，90
　サイズ変更，91-92
　最大化，90
　すべてのワークスペースに配置する，92
　操作，89-94
　タイプ，82-85
　テーマ，83
　閉じる，91
　パネルアプリケーションとメニューの使用，85-89
　表の使用方法，93-94
　フォーカスを移動，89-90
　フレーム，83-85
　フレーム制御要素，83-85
　フレームテーマオプションの設定，190-193
　別のワークスペースに移動，93
　巻き上げ，92
　元のサイズに戻す，90-91
ウィンドウセレクタ, トップエッジパネル，89
ウィンドウの移動，92
ウィンドウのサイズ変更，91-92
ウィンドウの最大化，90
ウィンドウのシェーディング, 「ウィンドウの巻き上げ」を参照
ウィンドウの巻き上げ，92
ウィンドウマネージャ, カスタマイズ，193
ウィンドウリスト, ウィンドウリストパネルアプリケーション，86-88

ウィンドウリストパネルアプリケーション
ウィンドウの状態情報，87
概要，86-88
グループ化ボタン，87-88
ウィンドウを閉じる，91

え
エンブレム
概要，101-102
新規追加，119-120
デスクトップオブジェクトに追加，139-140
ファイルに追加，119
フォルダに追加，119

か
画面のロック，23, 65

き
キーボード
アクセシビリティオプションの構成，160-163
一般設定の設定，163-165
基本的なスキル，199-202
サウンドの設定，189-190
キーボードショートカット, 設定，185-187
「起動」，「開く」，77
起動アプリケーション, カスタマイズ，181-185
起動メニュー, パネルに追加l，77
基本的なスキル
キーボードのスキル，199-202
マウスのスキル，195-198
「強制終了」ボタン，65

く
区画, サイズ変更，93

け
言語、別の言語でログイン，20, 21
「検索」ボタン，64

こ
このコンピュータのロケーション, 概要，47-48
「このコンピュータ」ロケーション, 使用方法，106-107
ごみ箱
概要，118-119
空にする，119, 141-142
デスクトップでの使用方法，141-142
表示，118, 141
ファイルまたはフォルダを移動，114-115

さ
サービス
設定，148-151
追加，150-151
編集，149
最小化, ウィンドウ，90
サイド区画，「ファイルマネージャ」を参照
サウンド
イベントをサウンドに関連付ける，188-190
システムベルの設定，189-190
設定，188-190
サウンドサーバー，188-190

し
システムベル, 設定，189-190
「実行」ボタン，66
自動起動アプリケーション
セッション管理下にある，182
セッション管理下の，183-184
非セッション管理，184-185
ショートカットキー
アプリケーション，201
一般，199-200
ウィンドウ，200
設定，185-187
パネル，200-201
シンボリックリンク
エンブレム，102

シンボリックリンク (続き)
デスクトップオブジェクトへのリンク、作成，136-137
ファイルまたはフォルダへのリンク、作成，115-116

す
「スクリーンショット」ボタン，66
スクリーンショットを撮る，75-77
スクリーンセーバー、設定，179-181
スタートアップアプリケーション
セッション管理される，23-24
非セッション管理の，24
スタートアッププログラム，「スタートアップアプリケーション」を参照

せ
セッション
アプリケーションの参照，24
オプションの設定，182-183
開始，19-21
画面のロック，23
管理，23-24
終了，25
スクリーンセーバーの構成，179-181
スタートアップアプリケーションの使用，24
設定，181-185
設定の保存，24
別の言語、ログイン，20, 21
ログアウト，25
ログアウト時の動作，24
ログイン，19-20, 20-21
ログイン時の動作，24
設定ツール
CD データベースサーバー，147-148
PDA デバイス，168-176
インターネットの設定，159-160
ウィンドウの動作，193
概要，48
キーボード，163-165
キーボードアクセシビリティ，160-163
キーボードレイアウト，165
サウンド，188-190
ショートカット，185-187
設定ツール (続き)
スクリーンセーバー，179-181
セッション，23-24, 181-185
テーマ，190-193
入力方式，158-159
背景，145-147
パネル設定，168
ファイルの関連付け，148-151
フォント，157-158
マウス，166-168
マルチメディアキー，187
「メニューとツールバー」，165-166
優先するアプリケーション，176-178
設定、ファイルマネージャ，「ファイルマネージャ設定」を参照

た
端末, 優先するアプリケーション，178

つ
通知スペース，66-67
ツールバー、外観のカスタマイズ，165-166
ツリー、使用，103-104

て
テーマ
アイコンオプション
概要，190
アイコンオプションの設定，190-193
ウィンドウボーダーオプションの設定，190-193
ウィンドウボーダーのオプション
概要，190
コントロールオプション
概要，190
コントロールオプションの設定，190-193
テキストエディタ, 優先するアプリケーション，177-178
デスクトップ
概要，46-47
デスクトップオブジェクト，134-141
デスクトップアプリケーション，30-31

デスクトップオブジェクト
アイコンのサイズ変更，140-141
アイコンの変更，140
アクセス権の変更，139
エンブレムの追加，139-140
削除，138
シンボリックリンク，136-137
選択，135
直ちに削除，138-139
名前の変更，138
ノートの追加，140
開く，135-136
ファイルまたはフォルダ，137-138
プロパティの表示，139
ランチャー，136
デスクトップの背景
アイコンのサイズ変更，140-141
エンブレムのオブジェクトへの追加，139-140
オブジェクトのアクセス権の変更，139
オブジェクトの削除，138
オブジェクトの選択，135
オブジェクトプロパティの表示，139
オブジェクト名の変更，138
オブジェクトを直ちに削除，138-139
オブジェクトを開く，135-136
ごみ箱の使用方法，141-142
紹介，133-134
シンボリックリンクの追加，136-137
デスクトップオブジェクトのアイコンの変更，140
「デスクトップ」メニューの使用方法，142
ノートのオブジェクトへの追加，140
背景のカスタマイズ，145-147
ファイルまたはフォルダの移動，137
ファイルまたはフォルダのコピー，137-138
ファイルまたはフォルダの追加，137-138
フォルダの作成，138
ランチャーの追加，136
「デスクトップの表示」ボタン，66
デスクトップ背景, 背景、パターンまたは色の変更，143
「デスクトップ」メニュー
図，142
説明，142
デバイス, PDA，168-176
デフォルトのアプリケーション，「優先するアプリケーション」を参照
電子メールクライアント, 優先するアプリケーション，177

と
特別な URI, ランチャー，63
特別な URI のロケーション, ランチャー，60
特別な URI ロケーション, アクセス，107-108
トップエッジパネル, ウィンドウセレクタアイコン，89

に
入力方式, 設定，158-159

の
ノート
削除，118
デスクトップオブジェクトに追加，140
ファイルやフォルダに追加，117-118

は
背景
色の追加，157
画面コンポーネントの変更，156-157
デスクトップの背景のカスタマイズ，145-147
デスクトップの背景の変更，143
パターンの追加，157
パネル
新しいパネルの追加，52
移動，53
概要，37-40, 51-52
隠す，53
管理，52-55
削除，55
設定の変更，53-55
操作，52-53
動作と外観のカスタマイズ，168
背景の変更，55
パネルオブジェクト
「パネルオブジェクト」を参照

パネル (続き)
ボトムエッジパネル
「ボトムエッジパネル」を参照
パネルアプリケーション，31-33
ウィンドウリスト，86-88
概要，58-60
設定の変更，60
選択，59-60
通知スペース，66-67
パネルに追加，59
ヘルプを表示するには，50
ワークスペーススイッチ，88
パネルオブジェクト
移動，57-58
「強制終了」ボタン，65
「検索」ボタン，64
削除，58
「実行」ボタン，66
「スクリーンショット」ボタン，66
設定の変更，57
操作するには，55-56
追加，56
通知スペース，66-67
「デスクトップの表示」ボタン，66
パネルアプリケーション
「パネルアプリケーション」を参照
引き出し
「引き出し」を参照
メニュー，67
ランチャー
「ランチャー」を参照
「ログアウト」ボタン，65-66
ロック，58
「ロック」ボタン，65
パネルオブジェクトのロック，58
パネルオブジェクトポップアップメニューの
図，57

ひ
引き出し
オブジェクトの追加，69
設定の変更，69-70
閉じる，68
パネルに追加，68-69
開く，68
ビューアコンポーネント，100, 104, 121-125
表, 使用方法，93-94
表示区画
概要，99-100
ファイルの表示，104

ふ
ファイルタイプ
設定，148-151
追加，149-150
編集，149
ファイルマネージャ
CD の書き込み，127-128
FTP サイト
「FTP サイト」を参照
アイコン
概要，101-102
サイズの変更，123-124
変更，120
見出し設定，153-154
アイコン表示
図，98
ファイルを整理する，122-123
アクションの変更，125-127
アクセス権の変更，116
ウィンドウ，98-102
エンブレム
「エンブレム」を参照
お気に入り，109-110
概要，45-46, 97
拡大と縮小，120-121
カスタマイズ，151-157
このコンピュータのロケーション
「このコンピュータのロケーション」を
参照
「このコンピュータ」ロケーション
「「このコンピュータ」ロケーション」
を参照
ごみ箱
「ごみ箱」を参照
サイド区画
概要，100
シンボリックリンクの作成，115-116
設定
アイコン見出し，153-154
概要，151-156
動作，152-153

ファイルマネージャ, 設定 (続き)
表示形式, 152
プレビュー, 155-156
ツリー、使用, 103-104
ドキュメントの作成, 114
特別な URI ロケーション, 107-108
ドラッグ＆ドロップ, 110-111
ナビゲート, 102-110
ノート
削除, 118
追加, 117-118
背景の変更, 156-157
ビュー
概要, 121-125
選択, 122
動作を変更, 124-125
表示区画
「表示区画」を参照
表示区画でのファイルの表示, 104
ファイルおよびフォルダの移動, 112
ファイルおよびフォルダの外観を変更, 119-125
ファイルおよびフォルダの選択, 111
ファイルとフォルダの管理, 110-119
ファイルにアクションを割り当てる, 125-127
ファイルのデフォルト以外のアクションの実行, 105
ファイルのデフォルトのアクションの実行, 105
ファイルの別のアクションを実行する, 105-106
ファイルまたはフォルダのコピー, 112-113
ファイルまたはフォルダの削除, 115
ファイルまたはフォルダの複製, 113
ファイルを開く, 104-106
フォルダの作成, 113
フォルダの表示, 102-103
フォルダ名の変更, 113-114
プロパティの表示, 116
履歴, 109
履歴リストのナビゲート, 108-109
フォーカス、1 つのウィンドウに移動, 89-90
フォント
t端末, 157-158
アプリケーション, 157-158
ウィンドウのタイトル, 157-158
デスクトップの背景, 157-158
フォント (続き)
レンダリング, 157-158

へ
ヘルプ
Java Desktop System トピック, 50
アプリケーション, 50
詳細について, 50
パネルアプリケーション, 50
ヘルプシステムの開始, 50

ほ
ポインタ, 「マウスポインタ」を参照
ボタン
強制終了, 65
検索, 64
実行, 66
スクリーンショット, 66
デスクトップの表示, 66
パネルに追加, 64-67
ログアウト, 65-66
ロック, 65
ホットキー, 設定, 185-187
ボトムエッジパネル
概要, 51-52
デフォルトのコンテンツ, 51-52

ま
マウス
基本的なスキル, 195-198
構成, 166-168
操作, 196
ポインタ, 196-198
ボタンの規定, 195-196

め
メニュー
「アクション」メニュー, 74-77
アプリケーション、外観のカスタマイズ, 165-166

メニュー (続き)
アプリケーションメニュー，73-74
「ウィンドウメニュー」，85-86
概要，40-41, 71
カスタマイズ，78-80
起動
「「起動」メニュー」を参照
設定の編集，80
追加，79
「デスクトップ」メニュー，142
特長，72-73
パネルに追加，73
パネルへの追加，67
メニュー項目の削除，80
メニュー項目の編集，80
メニュー項目のポップアップメニュー，72-73
メニューバー
「メニューバー」を参照
ランチャーをコピー，79-80
ランチャーを追加，79
メニュー項目のポップアップメニュー
図，73
説明，72-73
メニューバー
概要，78
パネルに追加，78

も
元のサイズに戻す, ウィンドウ，90-91

ゆ
優先するアプリケーション
Web ブラウザ，176-177
端末，178
テキストエディタ，177-178
電子メールクライアント，177

ら
ランチャー
設定の変更，64
パネルに追加，73
ランチャー (続き)
パネルに追加するには，60-64

り
リムーバブルメディア
概要，128-131
取り出し，131
フロッピーディスクのフォーマット，129-131
マウント，128-129
メディアの内容の表示，129
メディアのプロパティの表示，129

ろ
ログアウト，25
「ログアウト」ボタン，65-66
ログイン，20-21
セッションに，19-20
別の言語でセッションに，20, 21
「ロック」ボタン，23, 65

わ
ワークスペース
ウィンドウを移動，93
概要，44, 81-82
数を指定，44
切り替え，44, 94
削除，95
操作，94-95
追加，94
名前を付ける，95
ワークスペーススイッチパネルアプリケーション，88
ワークスペーススイッチパネルアプリケーション，88